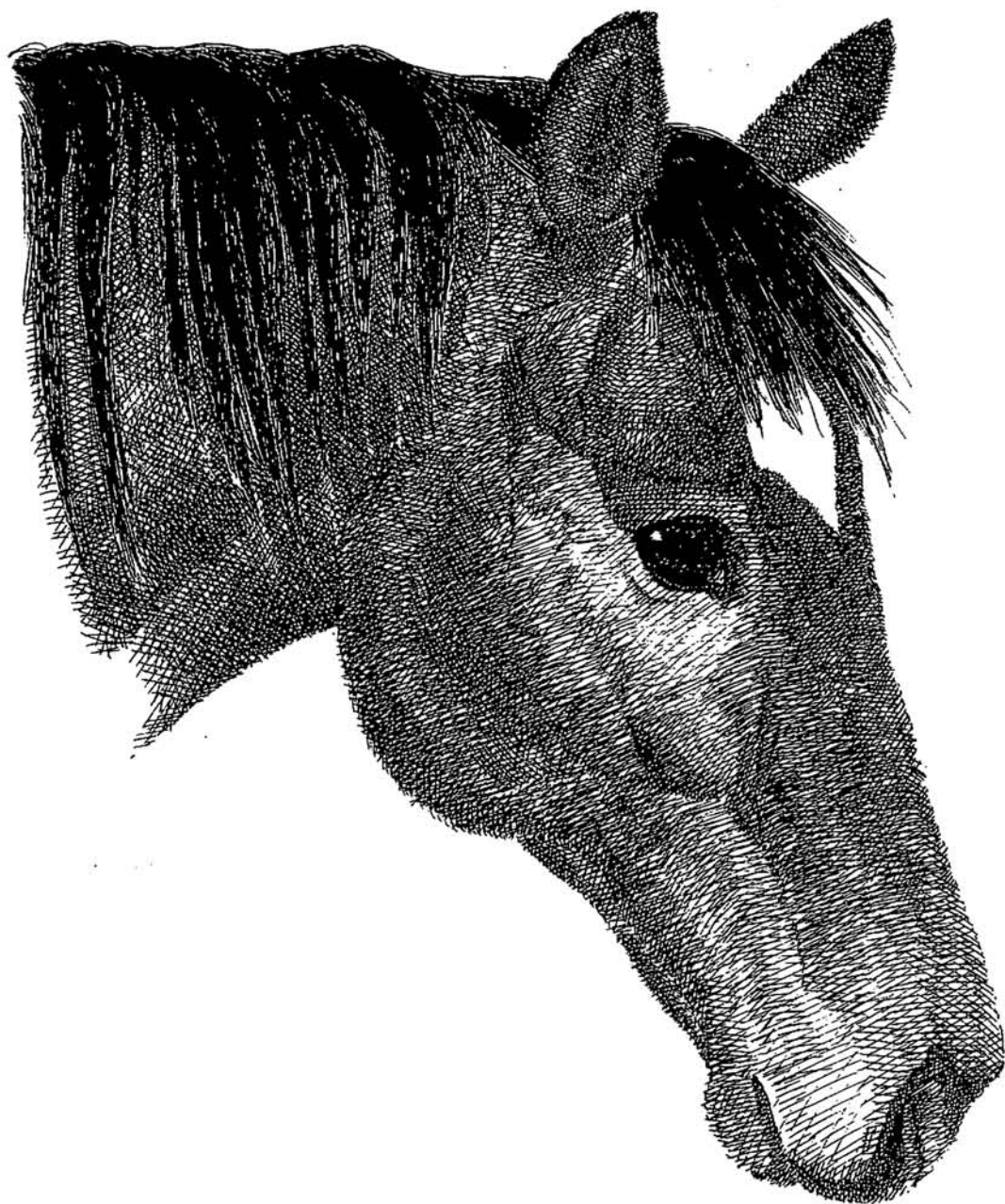


平成2年度

No. **36** 部報



北大馬術部

北大馬術部讃歌

作詩 三浦清一郎

作曲 滝沢南海雄

はるきたれば だいちひかーる
 しろがねのえんざん ゆめほうほうたり
 たからかにいま そいななけわれ
 らしゅんめのほまれあり
 ほまれあり ほかく だいほかく だいお
 おわがほころ われらしゅんめの
 ほまれあり

北大馬術部讃歌

一、春来たれば、大地光る

銀の遠山 夢茫々たり

高らかに 今ぞ嘶け！

われら駿馬のほまれあり

二、時来たれば 旗をかざせ

青雲の旅路に 意気軒昂たり

高らかに 今ぞ嘶け！

われら駿馬のほまれあり

三、雲流れて 旅路遙か

青春の孤杖 泥濘はばめど

凜然と 進みて行かむ

駿馬のほまれあるかぎり

北大！ 北大 おゝ我が母校

われら駿馬のほまれあり



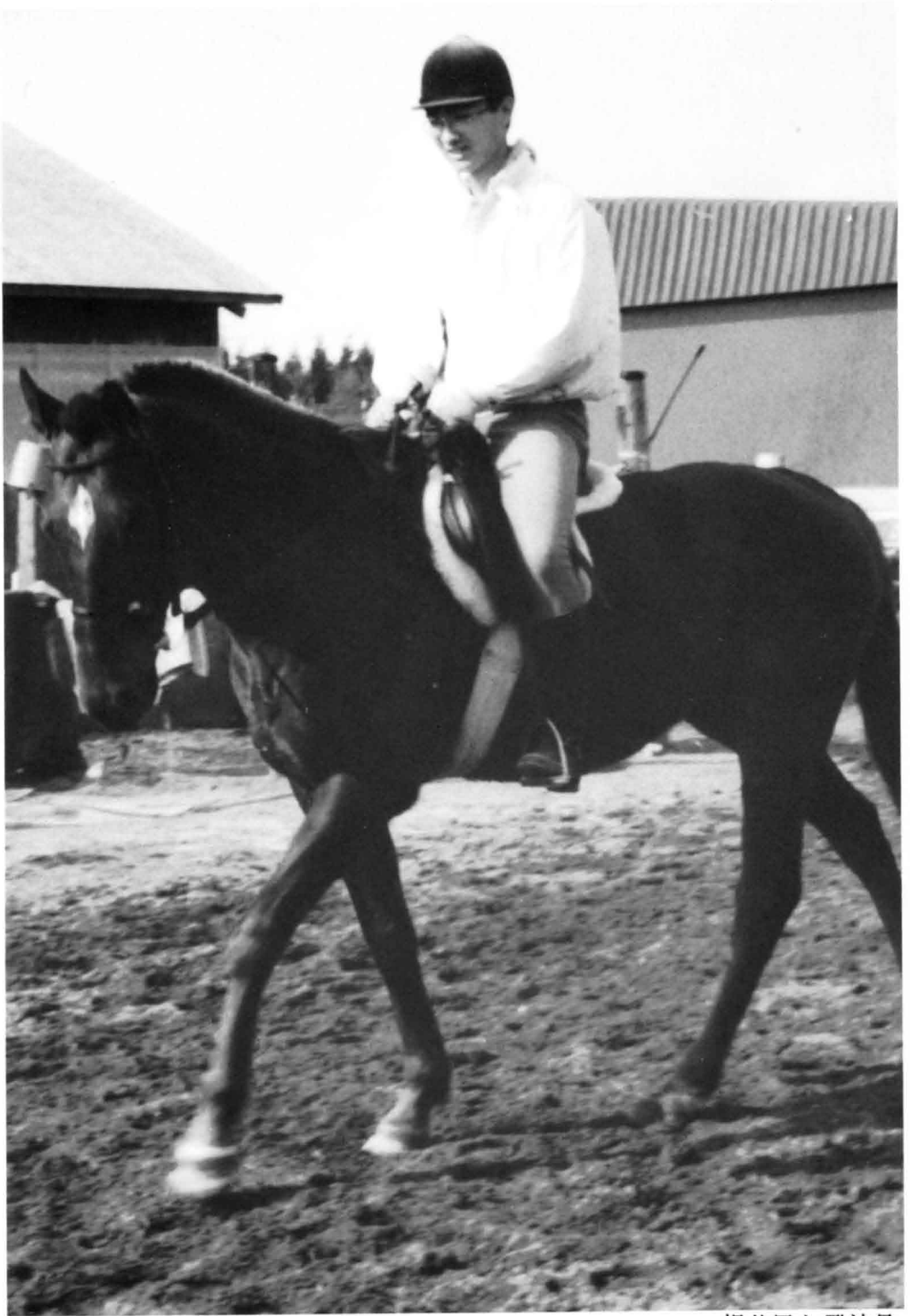
伊藤兄と北熊号



小林姉と北凜号



中戸川姉と北楡号



根井兄と飛沫号



林兄と北銀号



福庄兄と北皇子号



堀崎兄と北駿号



真鍋姉と北瑛号



佐藤姉と北皇子号



全日本学生馬術大会

目 次

近頃思うこと	斎藤善一	1
半澤先生の近況	岡田光夫	2
前主将より	林憲吾	3
現在のクラブ状況		4
会計報告		8
行事報告		9
戦績報告		11
国体特集		25
北水活動報告	根井智	28
調教報告・馬匹紹介		
北皇子号	福庄亮逸	30
北銀号	林憲吾	35
北玲号	堀川環樹	39
北凜号	小林佐代	41
北駿号	堀崎敬史	43
北瑛号	真鍋いづみ	51
北熊号	伊藤顕治	56
グレンエトワール号		61
パシオンM号	加藤ゆうこ	62
明日檜号	横山勉	64
新馬紹介		
ファストバロン号		71
北遥号	前田武巳	72
離廠報告		
北楡号	中戸川周子	74
東京OB会だより	名越正泰	76
一冊のアルバムから	和田晴	78
卒部にあたって		85
自己紹介・他己紹介		93
北大馬術部馬匹名簿		112
OB名簿		116
現役部員名簿		131

近頃思うこと

部長 齋藤善一

多くの方々の御支援と、部員諸君の努力により、馬術部が順調に運営されているのは有難いことです。半沢先生が東京出張中に倒られたことは皆様御存知と思いますが、体力、気力あるいは運動機能の面ではすっかり回復された御様子です。ただ、会話をするにはもどかしさを感じておられるようで、なおりハビリを必要とされるようにお見受け致しました。

この1年間にいろいろなことがありましたが、致命的な事故がなかったのは幸いでした。或程度馬に馴れた頃が一番事故を起こし易いから気を付けたいものです。自馬制であれば、主として担当の馬だけを扱っているのです、つい馴れが出てくると思います。馬も虫の居所が悪いことがあるのか、あるいは、周囲の状況の変化によるのであろうか思わぬ行動を示すことがあります。洋孝と言う、大きな飛びをするが障害を注意深く飛越する比較のおとなしい馬がおりました。小生がこの馬に乗って全日本を目指して練習を始めた時のことですが、札幌競馬場の高橋留次郎氏が、ハミの具合を見ようとしたのか、口のあたりに手を伸ばした途端に、前駆を跳起し、同氏の顔面をかすめて前肢を勢いよく前に跳ね上げました。高橋氏はさすがに油断がなく、サッと顔をそむけて無事であったのですが、もう1、2センチメートル横にずれていたら左目のあたりに一発喰らって大怪我をしたと思います。騎乗していた小生も肝を冷やしました。この馬はその後、北海道を代表する名馬として、鎌田氏をはじめ多くの選手を乗せて長い間活躍し、日馬連功労馬として表彰されたのですが、上記のような行動をしたというのは聞いておりません。クールベットのような調教を受けたことがあって、たまたま小生の扶助にそれを憶い出させるものがあつたのかも知れないのですが、馬は思わぬことをするという一例であると思っております。部員諸君には、常に注意と緊張を持続し、事故防止につとめて下さい。

さて、馬術に関係のない話で恐縮ですが、この原稿を依頼された時は湾岸危機が叫ばれておりました。いろいろ考えるばかりで筆が進まないうちに、地上戦となった戦争も終わったのは幸いでした。支那事変から太平洋戦争突入、同無条件降伏までのわが国の様子をイラクの場合に重ねながら推移を見守っておりましたが、特に停戦近くにおけるイラクの動きは、わが国の敗戦時によく似ていると思いました。ポツダム宣言受諾の方針を固めながら本土決戦を叫び、マスコミの先走りと政府の逡巡により原爆投下とソ連参戦を招き、犠牲者の数を増加させたことは、指導者達の責任の大きさを示すものでしょう。当時を憶い出しながら学生さんに解説をしたのですが、そんなことがあつたのかという程度の反応でした。意外に感じたのは、報道関係の意見や投書では、侵略国に対する非難の声よりも、戦闘に踏み切った多国籍軍に対する批判が目立ち、さらに、被侵略国に対する同情の声などほとんどなかったことです。我が馬術部の将来についても、判断を誤ることがないように気を付けてまいりたいと存じます。

半澤先生の近況

岡田光夫

6

皆様御承知のように、半澤先生には昨年5月日本馬術連盟の理事会に御出席のため、千歳を朝の一番で東京に向われ神田のホテルに荷物を置かれ会議場に向われる途中脳梗塞の発作に襲われ幸い付近の商店の人のおかげで救急病院に入院、千葉幹夫さんはじめ東京OBの方々そして急速上京された奥様はじめ身内の方々の御看護で治療にはげまれて居りましたが容態も安定されましたので札幌にお帰りになり北区のクラーク病院に入院されましたが間もなく退院され、お宅で療養される事になりました。幸い運動障害は殆んど残りませんが、言語障害がひどく先生の意志を口で云いあらわすことがきわめて不自由でいらっしや、お訪ねしても口のきけないもどかしさを感じられ看護されている御家族も大変な御苦勞の事と思えます。上京される直前まで北大の北瑛号の調教にはげんでいらっしやった先生のご無念の程お察し申し上げます。

奥様のお話では物置に納ってある資料の整理など随分力のいる仕事もなさり、又庭いじりもなさる程です。この5月、恒例の半澤杯には奥様の介添へで馬場にお見えになり本当にいつもと変らぬ御様子で御覧になる場所を審判台の下に作りましたが先生はそこはよく見えないとばかりに階段を手をついて上られ我々を驚ろかされました。半日本当に愉快そうに過されお帰りになりました。

又9月の末には東日本馬術大会が初めて海を渡って千歳の先のノーザンホースパークと云う所で開かれました。その時日本馬術連盟の旧知の方が役員として来道され先生のお見舞に行かれた方が先生に大会をご覧になりませんかとお誘いされましたらすっかり乗り気になられ大会には是非行きたいとお考へである事が我々に伝えられました。当日先生には「千歳空港」と「千歳空港駅」と待ち合せ場所の行きちがえがあって中々お見えにならないと心配して居ましたらハイヤーで見えたと云って本当にお元気な様子で役員席にいらっしやいました。瞬間居合せた先生周知の方々の顔には、何んとも言へぬ感動が走った感じられました。先生も満面に笑をたゝえられて本当にうれしそうなお顔は今でもはっきりと記憶に残って居ります。伺いますと先生には前日から非常に楽しみにされ当日は早朝から御機嫌で丁度遠足の日の朝の子供の様にそわそわされ「未だ行かぬのか」と奥様に催促されて家を出られたとの事でした。ノーザンホースパークには非常に立派なお客様用の建物がありましてそこで試合をご覧戴きましたがそこに行かれるのにも凹凸のある草道をどんどん歩かれるので心配して手を出そうとしてもどうも邪魔するようなので差し控へる程お元気でした。先生には4月の日馬連の理事会で永年の功績により表彰申し上げる事がきまって居りましたので松平副会長の手から表彰状が手渡された事は先生にとっても望外のお喜びだった事と存じます。私が幾度も今日は先生をご案内するのが役目ですからと申し上げても早く本来の役目を果しなさいと云わんばかりに会場の方を指さして向うに行かなくてよいのかと気を使われたのには全く感激致しました。2時間以上も観戦されてお帰りになりましたがそのお元氣振りは全く心配なく皆さんにご安心戴くためにこの文を認めました。もしも私達がつまらぬ常識的考へから先生にお越し戴くことを躊躇して居たら先生に飛んだ失礼を申し上げたと反省して居ります。

前 主 将 よ り

林 憲 吾

『今、何をすべきか？』

自分はこのことを考えながらやって来たつもりである。今のクラブにとって必要なことは何なのか。よく言われたことが「馬は揃っているんだが…」というのであった。確かにそうである。そしてすばらしいOBも揃っている。なのに…。答えは明確だった。自分自身の問題もあったがそれだけではない。一体このクラブに欠けているものとは何なのか。それは一言で言ってしまうと「まとまり」なのかもしれない。同じ時間に同じ場所で練習をしているながら、自分のことしか見ていない。同学年内での、あるいは学年間での意識のすれ違い。あいつが今何をやっているのか、何を考えているのかが分かっている部員が一体どれほど居るのだろうか。なにも皆が同じ考えをもつ必要はないと思う。ただ、お互いをもっと理解し合ってほしい。最近の傾向として馬一筋でない部員が増えてきたが、それはそれで良いことだと思う。自分も極端な話、誰でも続けられるクラブを目指してきた。幸い、部員数も一時期に比べたら大分増えてきた。しかし、それにつれて個々のつながりが薄れて行ったような感じがする。人数が多いということは本当に力になると思うが、いざというときに皆がまとまれないんじゃないかならぬだろう。

ひとつの方法として自分は、北大方式の確立ということを通してそのことを解決しようとしてきた。体系的な教え方を作り上げる過程でお互いをもっと意識し合うだろうし、うまくいけば合理的な教え方が発見できて一石二鳥になるかもしれない。しかしながら、石を投げたってなかなか鳥になんか当たるもんじゃなかった。ただ、きっかけにぐらいなっていれば幸いだと思う。

クラブにとって必要なもの。自分が出した結論は北大方式を作り上げることだった。君たちならどんな結論を出すだろうか。自分にとってのクラブの理想像とはどういうものか、そして、そのためには自分が何をすべきなのかを部員ひとりひとりがいつも考えていてほしい。

現在のクラブ状況

――主将から――

堀川 環 樹

○今、何が必要か

9月現在、1年目18人、2年目8人、3年目8人の計34人で活動している。来シーズンの目標を全日学での二走・総合団体優勝に置き、これを達成する為に努力しなければならないが具体的に何をするのか？北日レベルで見ると限り優秀な馬匹はそろっているし乗り手の技術が劣っているとも思えない。にもかかわらず団体の権利さえも取れない。現在の北大に欠けているものは、部全体としてのまとまりだと考える。部員各々が部の目標にどの様に参加、協力していくかをはっきりと意識することが必要であり、主将として部員に一年間意識させ続けなければならない。

○常勝北大へのアプローチ

北大の特徴として練習を指導するコーチがないことが挙げられる。この為練習方針はその時の最上級生が決定している。しかし、最上級生は自分達の下級生時の経験をもとに方針を決定しているが、結果として一年毎に変わってしまっている。過去の戦績を振り返ると何年か毎に良い成績を残しているがそれはあくまでも単発的なものでしかない。常に成績を残す為には北大としての練習方針を確立することが必要であろう。部としての共通の認識があれば各代によってこれを修正、改善していくことによって成績が激しく上下することなく上昇していくと信じる。

馬匹の新旧の入れ替わりも終わり舞台は整っている。あとは部一丸となり目標に向かっていくだけである。

――主務から――

横山 勉

アルバイトに関して

現在、定期的に取り替えているアルバイトは、札幌競馬場開催、同乗馬廐、モモセ、ノーザンホースパーク、朝日新聞社です。さらに、今年は東日本馬術大会がノーザンホースパークで開催されるため、開催中の使役アルバイトが予定されております。ほかにも夏の間定期的に来てほしいという話は幾つかあるのですが、これ以上の負担は、人数やその他の面においても不可能であると判断し、断るようになっています。

財政的には、過去に比べるとかなり余裕がありましたが、記録的な積雪から除雪費が30万円以上もかかったり、七大戦が九州大学で行われたために、選手の旅費の援助が20万円近くなったりと、予算外の出費がかさみ、安心してはられない状態です。

学生部に関して

主務になり、学生部の方と直接話をするようになって、それ迄の学生部に対する印象は間違いであったことが良く分かりました。自分が下級生だったときを振り返ると、学生部を理解しているのは主務と極一部の部員だけで、ほかの部員にはそれが全く浸透していなかった気がします。毎年がこの繰り返しでは、学生部とのより良い関係に発展は望めないと考え、主務の任務として、下級生にも学生部の位置付けや、学生部は自分たちの敵ではなく、大学の中で最も自分たちのことを気にかけてくれ、話を聞いてくれる最大の味方であること、但しそれには絶対に嘘をついてはいけないなどのルールがあること、などを理解してもらい、すんなりと引き継ぎをできるようにすることを目標に努力しています。

話が現役向けになってしまいましたが、昨年秋から、学生部との関係においては、正直に報告などを行っているので、途中何度か失敗はしましたが、現在は近年では最高の関係を保っているという気がします。学生部の方も、こちらが一生懸命に活動をしていることを理解して下さり、「何か困ったことはないか?」と聞いてきてくれたり、ここ数年関係の悪化により途絶えていた飼料援助についても、「考慮するので、クラブの収支と飼料の内訳が分かるような書類を提出しなさい。」と言ってきてくれたりしています。主務をやっていて、これほど嬉しいことはありません。良い関係を築くのに最も必要なのは、誠意を尽くして、本気で頼ることだと思います。

OBとの関係について

昨年からOBの方への連絡等は、殆どを後援会という役職に任せておりますが、これからもOBの方との連絡は密にしていこうと考えております。多くのご意見をお待ちしております。

昨年と異なることとしては、OB各位の住所録をワープロ化し、手紙の宛名をシールで貼るようになりました。現役部員の手書きによる、汚い宛名を御覧になれなくなり、寂しいこととも思いますが、これによってさらに連絡の回数を増やせるものと考えております。なお、一番最後についているOB名簿に空欄が目立っております。お近くの代の方で、御存じの方がおられましたら、御面倒とは思いますが、是非御一報をお願い致します。

――副将から――

野田 英文

最近、特に感じる事であるが、部員が馬の気持をくみとってやるのがだんだん下手になってきている。夕方の手入れの時、イライラして顔をひきつらせている馬がいるが、その馬が北大に入ってきた時は、絶対そんな表情を見せなかったはずである。その馬に接してきた人間が、馬の感性に対して鈍いためにだんだん感情表現が大げさになってきているのである。

ところで部員が鈍いのはたして馬に対してだけなのだろうか。現代人は自分の周りの世界に対してさえ無関心であるといわれるが、馬術部もこの問題に対して無関係とは言えない。例えばこの部には役職という言葉があるが、いつしかこの言葉によって部員の関心まで分割してしまい、自分の役職にしか

関心が持てなくなってしまっている。

試合で最終的に結果を出せるか否かは、下級生にどれだけ上級生の情熱、思い、知識が伝わっているか、ということが一つの大きなカギである。それだけに、部員同士が接する機会（例えばコンパなど）は非常に貴重なのである。下級生が自分のこと以外に無関心であるようでは、このクラブに栄冠は輝くはずはない。

外山敬子

今、北大馬術部は、馬13頭、部員50人近く、という大きな団体となっている。そのうち約半数以上が下級生である。大人数になれば厩舎作業、バイトなどの一人一人の負担はかるくなるが、それだけ馬に接する時間も少なくなる。

去年全日学へと総合と二走と一頭ずつしかいけなかった。なぜか。チーフが悪かったわけではない。クラブ全体が悪かったのだとおもう。最近の傾向として馬はチーフのものであり、下級生は毎日の日課をすごしているだけである。義務としてはいいかもしれないがそれだけでいいのだろうか。たまたまチーフがうまかったり、馬が能力あったりすれば権利がとれるかもしれないがクラブとしてやってることをもっと利用すべきだと思う。

今年様々な制約を作った。厩舎に6時以降ははいらぬ。馬の手入れは両側からしない。しかしいくら制約をつくったとしてもなぜそうしなければならないのかを理解しなければ中学生の規則と同じでただ人を拘束するだけである。

馬術部は他の体育会のクラブとくらべれば憶えなければいけないことも多いし知らないことも多い。これだけ多くの人間がこれだけ多くのことを憶えてゆくには必要事項を文章化することは必要である。しかしその文章をうのみするのではなく、なぜそうするのかクラブ全体でよく理解しそしてそれがよいのかどうかを常に考えていなければいけないと思う。

毎日練習に、手入れに、当番に、バイトに、何に対しても疑問を持ち馬術部を、馬を、自分を良くしようとして努力すべきである。もっと前向きに、前進あるのみ。そういう個人個人の向上意識がクラブを活気づけ個人の持っている力の120%を出せるようになるとおもう。

――馬匹から――

清水礼子

現在、北大馬術部の部馬は牝馬2頭、騊馬9頭、牡馬1頭の計12頭である。昨年春入厩したファスト・バロン号は右前肢の第一指骨を骨折しており、ボルト二本で保定されている。肢の様子を見つつ秋より調教を徐々に上げている。

昨年9月より馬匹となってから手入れ中の馬に女子部員が顔を蹴られ、前歯4本を欠き、下唇を切る事故が起きた。その他にも環境整備の不十分から練習中、放牧中の馬のケガが連発した。事故を未然に防ぐべき立場にありながら、漫然と部内を見渡していた私の責任であり、本当に申し訳無かったと思

う。これらの事故の原因として次のようなことが思い当たる。部員がおとなしい扱いやすい部馬達と接するうち、馬本来の性質と、その危険性を知らず、諸先輩からの注意を忘れてしまったこと。部員の増加により、1人1人の部内への目が散漫となり、「自分がやらなくても誰かが……」という意識があること。

さて、グレン・エトワール号は片方の睾丸が体外に下りておらず開腹による去勢は困難なため、牡馬として繋養することとなった。過去の牡馬に関わる事故を考慮した上での決断であるが、部の現状ではいつまた事故が起こってもおかしくはない。それを未然に防ぐ為、部員の意識を高め、それを伝え継ぐ必要がある。

人と馬が安全に過ごせる部をつくるのが、今年の大きな課題であると思っている。

——後援会から——

平山潤子

後援会という役職は一言で言えばOBと現役部員とのパイプ役です。私が後援会に就くにあたって目標としたこと——それはOBの方の声を聞く機会をつくっていくということです。

その為に具体的にやること

- ・試合日程、戦績の報告などOBとの連絡をまめにとる。
- ・コンパにはなるべくたくさんOBの方に来ていただき、現役部員とOBとの交流をはかる。絶対に現役どうしでかたまらない。

今、毎日馬場に来ていただいている長屋さん、前田さんはもちろん、他のOBの方も馬場に顔を出しやすような雰囲気をつくり、いろいろと意見などお聞きしたいと思っています。

会計報告 平成2年1月～12月

収入

		計
部	費	415,000
ア ル バ イ ト	朝日新聞社	622,040
	モモセ	345,960
	J R A 開催	1,570,180
	J R A 乗馬廐	331,400
	その他	903,803
補 助	学馬連	1,006,324
	輸送	130,000
	後援会	86,150
	体育会、学生部	130,000
企 画	半澤杯	108,322
	自馬体	519,650
	新 歓	43,297
	教養祭	135,507
	その他	89,848
そ の 他	寄付	42,114
	道馬連	0
	利息	47,794
滞納金		946,615
その他		1,447,977
合 計		8,883,898

支出

		計
飼	料	1,483,828
装	蹄	1,767,006
薬	品	166,047
作	業	284,830
馬	具	199,727
文	化	59,666
電	話	183,621
遠	征	517,500
ガ	ソリン	404,581
高	速	137,650
車	輛	588,509
登	録	462,000
事	務	199,203
雑	費	160,007
立て替え		1,107,541
その他		121,344
合 計		7,843,054

平成3年1月31日

会 計 高村理香
佐藤美幸

平成2年度 行事報告

○4月

- 6、7日 第29回七大戦（於 北大）
7日 ファストバロン号入廐 “バロンってかわいい！”バロンのファン続出。
11～15日 馬術講習会 講習生が先に速歩をした…

○5月

- 5日 第18回半沢杯記念馬術大会（於 北大）どうして5月なのにこんなに寒いのー？
7～11日 新歓合宿（前半）女子の食欲、一気にレベルアップ。
11日 寮歌祭 初めての白キュロットは、試合ではなくこのときでした。
13日 井上喜久子杯 後半合宿の人：“あこがれのサンドラルーカスさんと話しちゃった”前半の人：合宿の反省会のため行けませんでした。
14日～18日 新歓合宿（後半）入部して即泊まり込み、の人も。
18日 合宿コンパ 歌いまくり。
20日 ノーザンホースパークステークス（於 NHP）

27日 北日選手権（於 酪農大）

○6月

- 7～10日 教養祭 おいしいおそばいかがっすかあ～
23、24日 第24回北海道自馬馬術大会（於 モモセファーム）連日作業。唯一の快楽は馬運車の中での睡眠時間でした。

○7月

- 6日 一年目打ち上げコンパ
21、22日 第15回馬術連盟公認北海道地区大会（於 NHP）
27日 北遥号入廐 入廐当時はもっともっと細かったんです。

○8月

- 4日 北日壮行会
8～12日 第26回北日本学生馬術大会（於 畜大）スティーブルに感動！
15～21日 日高合宿 “長靴が燃える～”
25、26日 第37回北海道馬術大会・第46回国民体育大会北海道予選会（於 浦河）真夜中の経路まわり。
30日 北日祝勝会

○9月

- 2日 北楡号離廐 モモセバイトのときにまた会おうね。
7日 役員交替コンパ
16日 第4回北海道馬場馬術選手権大会（於 メインフィールドズ）

○10月

- 6、7日 第11回道内親善大会（於 岩見沢）一年目の2人デビュー。
10日 山下杯 “え、規定タイムに近いほうの勝ちじゃないの？”
10日 北大駅伝 1兄がはしる！
21日 OB戦・お返しコンパ あぶない白石姫登場。
24～26日 第45回国民大会秋季大会馬術

競技（於 福岡） 堀崎兄&チアフルの大活躍。

30日 全日学壮行会

○11月

6～12日 全日本学生馬術大会 在札はビデオのチェック。

24、25日 FMC 芸が芸になりませんでした。

○12月

15日 馬術講習会 体育会本部の皆さん、当番お疲れさん。

20日 忘年会

25～30日 前半合宿 天気あれまくり。男北熊絶好調。

○1月

2日 初乗り 待ち時間3時間、おはらい3秒。

2～7日 後半合宿 食当が充実。S姉やくざに変身。

○2月

3日 雪祭り外乗 写真いっぱい撮りました。

○3月

9日 追いコン 徹夜で作った刺しゅう、喜んでもらえて感激しました。

12日 伊藤兄・真鍋姉離札コンパ

16日 陣川兄離札コンパ

19日 大歳兄離札コンパ・東北戦壮行会

22日 仲村兄・福庄兄離札コンパ

25～31日 東北戦 飲み過ぎ食べ過ぎはしゃぎ過ぎ。

28日 小林姉・中戸川姉離札コンパ



平成2年度戦績報告

☆対東北大学定期戦（3月25日 於 北海道大学）

使用馬匹：北皇子 北銀 北凜 北駿

北大選手：池田 永田 横幕 飯田

優勝：北海道大学 準優勝：東北大学

☆第29回七大学定期戦 馬術競技（4月6日～7日 於 北海道大学）

使用馬匹：北皇子 北銀 北玲 北凜 北駿 北楡 明日楡

選手：林 福庄 堀崎 堀川

優勝：東京大学 準優勝：北海道大学

☆第18回太秦杯半澤杯河田杯小池杯記念馬術大会（5月5日 於 北海道大学）

《複合馬術競技（太秦杯）》

				馬場減点	障害減点	総減点
1位	佐伯	ヒロパピー	北星RC	-111 2/3	0	-111 2/3
2位	佐伯	インタースペシャル	北星RC	-122 2/3	0	-122 2/3
3位	木村	ブラックランパー	酪農大	-128 1/3	0	-128 1/3
4位	林	北	銀 北大(4)	-123 1/3	-10	-133 1/3
5位	横山	明日楡	北大(3)	-135 2/3	0	-135 2/3
	堀川	北	玲 北大(3)	-126 2/3	失権	

《馬場馬術第3級課目》

				得点
1位	佐伯	ヒロパピー	北星RC	351
2位	八巻	ボギードール	札幌競馬場	344
3位	田伏	サクラプリンス	札幌楽馬会	343
4位	真鍋	北	瑛 北大(4)	334
5位	堀崎	北	駿 北大(4)	332
7位	福庄	北	皇子 北大(4)	329
12位	祝前	北	凜 北大(2)	306
21位	伊藤	北	靨 北大(4)	225
22位	徳本	北	瑛 北大(2)	208
23位	野田	北	楡 北大(3)	189

JUMP OFF

《中障害飛越競技（半澤杯）》

				減点	TIME	減点	TIME
1位	加藤	パシオンM	北大同好会	0	92"0	0	42"9

2位	大久保	ブラックランバー	酪農大	0	83"0	-4	43"8
3位	長屋	パシオンM	北大同好会	0	80"0		棄権
4位	林	北	銀	北大(4)	-4	75"0	
5位	堀崎	北	駿	北大(4)	-4	81"0	
6位	福庄	北	皇子	北大(4)	-4	88"0	

《小障害飛越競技(河田杯)》

				減点	TIME	
1位	木下	クロスサハラ	フロンティア	0	68"7	
2位	小島原	ブラックランバー	酪農大	0	67"0	
3位	長屋	グレンエトワール	北大同好会	0	66"5	
6位	外山	明日檜	北大(3)	0	60"4	
11位	高村	北	玲	北大(3)	-6.75	85"7
13位	平山	北	駿	北大(3)	-13	98"6
	野田	北	檜	北大(3)		失権
	小林	北	凜	北大(4)		失権

《新人新馬障害飛越競技(小池杯)》

				減点	TIME	
1位	坂本	マドンナ	北星RC	0	69"0	
2位	高橋	センジュウヒカリ	札幌競馬場	0	68"9	
3位	田淵	駿泰斗	酪農大	0	67"5	
13位	伊藤	北	熊	北大(4)	-4.5	72"8
14位	飯田	北	銀	北大(2)	-4.75	77"5
	真鍋	北	瑛	北大(4)		失権

☆第2回井上喜久子杯チャレンジカップ馬術大会(5月13日 於 静内軽種馬協会静内種馬場)

《シニア障害飛越競技》

				減点	TIME	
OPEN	中戸川	北	檜	北大(4)	0	60"1
OPEN	祝前	北	檜	北大(2)	0	60"6
OPEN	奥村	北	駿	北大(2)		失権

《個人戦自馬による障害飛越競技》

				減点	JUMP OFF	JUMP OFF 2	減点	TIME
1位	マギーライト	シドラ	日高KF	0	0	0	0	30"6
2位	サンドラルーカス	ラストチャンス	早田牧場	0	0	0	0	33"5
3位	マギーライト	コマンダー	日高KF	0	0	-4	-4	29"3
5位	堀崎	北	駿	北大(4)	0	0	-8	29"0

☆ノーザンホースパークステークス（5月20日 於 ノーザンホースパーク）

JUMP OFF

〈初級障害〉

				減点	TIME	減点	TIME
1位	白井	メイシヤ	日高KF	0	74"9	0	32"6
2位	浜野	メジロウィッカー	北星RC	0	63"4	0	41"5
3位	佐伯	メジロウィッカー	北星RC	0	74"3	0	42"0
	伊藤	北	熊北大(4)	失権			
	中戸川	北	榆北大(4)	失権			

JUMP OFF

〈中級障害〉

				減点	減点	TIME
1位	白井	メイシヤ	日高KF	0	0	30"1
2位	畠山	ミカミミ	日高KF	0	0	32"2
3位	緒方	マドンナ	北星RC	0	0	33"1
8位	横山	明日檜	北大(3)	0	0	36"4
11位	加藤	パシオンM	北大同好会	0	0	39"8
12位	林	北銀	北大(4)	0	0	39"9
	堀川	北玲	北大(3)	失権		

☆北日本学生馬術選手権大会（5月27日 於 酪農学園大学）

〈学生〉使用馬匹（決勝） 馬場：騾駿 障害：騾狼

（決勝）

			馬場得点	障害減点
1位	中島	北里大	421	0
2位	根井	北大(4)	415	0
3位	五十嵐	東北学院大	422	0

（準決勝：馬場）

福庄	北大(4)	396	(3位 騾天鳳)
横山	北大(3)	387	(3位 北凜)

（予選：部班）

田村	北大(3)	428.5	(14位 騾狼)
----	-------	-------	----------

〈女子〉使用馬匹（決勝） 馬場：ブラックランパー 障害：明日檜

（決勝）

			馬場得点	障害減点
1位	多田	帯畜大	416	-196.5
2位	山川	帯畜大	404	失権
3位	高村	北大(3)	396	失権

（予選）

真鍋	北大(4)	424	
----	-------	-----	--

☆三大学定期対抗戦（6月3日 於 帯広畜産大学）

北大選手：永田 池田 横幕

使用馬匹：勝皇 ループルスター 柏翔

1位：北海道大学 2位：酪農学園大学 3位：帯広畜産大学

☆第25回北海道自馬馬術大会（6月23日 於 百瀬ファーム）

《馬場馬術競技第3級課目（一般）

				得点
1位	吉田	トーマス	N. H. P.	459
2位	久保田	アブサン	十勝柏友会	369
3位	坂入	オサイチテイション	メインフィールドズ	359
5位	横山	明日檜	北大(3)	346
10位	堀崎	北 檜	北大(4)	316
11位	林	北 銀	北大(4)	314
13位	福庄	北 皇子	北大(4)	308
15位	堀崎	北 駿	北大(4)	303

《馬場馬術競技第3級課目（婦人）

				得点
1位	山本	シルバーキング	旭川RC	408
2位	吉田	トーマス	N. H. P.	395
3位	田伏	サクラプリンス	札幌乗馬会	377
6位	真鍋	北 瑛	北大(4)	363
7位	加藤	パシオンM	北大同好会	360
14位	小林	北 凜	北大(4)	318
15位	佐藤美	北 瑛	北大(3)	316
16位	飯田	北 瑛	北大(2)	307
25位	平山	北 凜	北大(3)	286

《スピードアンドハンディネス》

				TIME
1位	白井	メイシヤ	日高KF	67"5
2位	畠山	ジェロニモ	日高KF	70"1
3位	佐伯	ビクトリーエース	北星RC	76"4
7位	堀崎	北 駿	北大(4)	89"1
13位	林	北 銀	北大(4)	99"7

1段階 2段階

《L級障害飛越競技（1部）

			減点	TIME
1位	白井	コマンダー	日高KF	0 34"9

2位	梶原	柏	星	帯畜大	0	42"9
3位	斉藤	ラストチャンス		早田牧場	0	43"4
11位	野田	北	銀	北大(3)	-4	

〈L級障害飛越競技(2部)〉

1位	吉崎	ホ	ー	プ	東山RC	0	44"6
2位	蛭川	柏	星		帯畜大	0	45"3
3位	山川	飛	勝		帯畜大	0	46"2
	根井	キクノプロスパー			北大(4)	失権	

JUMP OFF

〈M級B障害飛越競技〉

					減点	TIME	減点	TIME	
1位	マギーライト	シ	ド	ラ	日高KF	0	78"6	0	40"1
2位	マギーライト	レイノルビオ			日高KF	0	77"6	-4	43"4
3位	原	コ	ジ	ロウ	十勝柏友会	0	83"4	-4	47"9
7位	福	庄	北	皇子	北大(4)	-11	103"3		
11位	堀	崎	北	駿	北大(4)	-24.25	116"2		

JUMP OFF

〈M級C障害飛越競技〉

					減点	TIME	減点	TIME	
1位	畠山	レイノルビオ			日高KF	0	81"8	0	39"5
	佐伯	カリスタヒーロー			北星RC	0	77"6	0	39"5
3位	西岡	コ	ジ	ロウ	十勝柏友会	0	83"4	0	45"4
17位	林	北	銀		北大(4)	-15	86"5		
	横山	明	日	檜	北大(3)	失権			
	加藤	パ	シ	オンM	北大同好会	失権			
	長屋	パ	シ	オンM	北大同好会	失権			

1段階 2段階

〈婦人障害飛越競技〉

					減点	TIME	
1位	田伏	艶	飛		札幌彗星乗馬会	0	34"3
2位	緒方	ヒ	ロ	パピー	北星RC	0	36"9
3位	坂本	ビクトリーエース			札幌RC	0	39"1
	小林	北	凛		北大(4)	失権	
OPEN	加藤	パ	シ	オンM	北大同好会	0	48"8

1段階 2段階

〈新人障害飛越競技〉

					減点	TIME	
1位	浜野	ビクトリーエース			札幌RC	0	37"0
2位	杉澤	カリスタヒーロー			北星RC	0	38"6

3位	祝前北	駿北大(2)	0	43"8
5位	池田北	皇子北大(2)	0	45"3
18位	横幕北	駿北大(2)	-4	
	徳本明	日檜北大(2)	失権	
OPEN	横山明	日檜北大(3)	-3	
			1段階	2段階
			減点	TIME
《L級B障害飛越競技》				
1位	白井テドット	日高KF	0	30"1
2位	宗像ジャストクリスマス	早田牧場	0	33"5
3位	宗像ラストチャンス	早田牧場	0	34"0
7位	田村クラウン	北大(3)	0	40"3
	小林北	凜北大(4)	0	失権
	根井飛	沫北大(4)	-3	
	松島キノプロスパー	北大(3)	-3	
	中戸川北	檜北大(4)	失権	
	真鍋北	瑛北大(4)	失権	

《新馬障害飛越競技》				
			減点	TIME
1位	畠山ミカミミ	日高KF	0	45"2
2位	鈴木ウェルダン	オーフル	0	49"2
3位	白井テドット	日高KF	0	49"7
14位	田村クラウン	北大(3)	-7.5	90"2
17位	根井飛	沫北大(4)	-8	68"2
20位	伊藤北	罷北大(4)	-20	116"2
21位	橋本クラウン	北大(3)	-22	96"3
	中戸川北	檜北大(4)	失権	
	松島キノプロスパー	北大(3)	失権	

☆全日本学生馬術選手権(6月28日~30日 於 馬事公苑)

(1回戦) 根井 北大(4)

☆第15回北海道地区馬術大会(7月21日~22日 於 ノーザンホースパーク)

《第3級馬場馬術競技(学生班)》				
			得点	
1位	蛭川柏	秀帯畜大	351	
2位	山川コウジョウ	帯畜大	341	
3位	堀崎北	駿北大(4)	339	

3位	市川	トカチムサシ	十勝柏友会	339
5位	福庄	北皇子	北大(4)	336
6位	清水	北凛	北大(3)	335
10位	横山	明日檜	北大(3)	331
13位	池田	北瑛	北大(2)	315
17位	中戸川	北楡	北大(4)	309
21位	永田	北瑛	北大(2)	300
22位	堀川	北玲	北大(3)	298
23位	真鍋	北瑛	北大(4)	286
24位	小林	北凛	北大(4)	285
	伊藤	北照	北大(4)	失権

JUMP OFF

《標準障害飛越競技》				減点	TIME	減点	TIME
1位	布施	マドンナ	北星RC	0	63"0	0	28"5
2位	佐伯	カリスタヒーロー	北星RC	0	70"6	0	30"9
3位	白井	メイシヤ	日高KF	0	65"0	0	31"4
8位	福庄	北皇子	北大(4)	0	77"8	0	41"8
13位	堀崎	北駿	北大(4)	0	66"4	-4	34"8
16位	横山	明日檜	北大(3)	-3.5	85"5		
17位	堀川	北玲	北大(4)	-3.75	86"5		

				1段階		2段階	
《2段階障害飛越競技》				減点	TIME	減点	TIME
1位	浜野	カリスタヒーロー	北星RC	0	37"6	0	34"9
2位	坂本	マドンナ	北星RC	0	37"4	0	36"6
2位	佐伯	チアガール	北星RC	0	36"6	0	36"6
9位	野田	明日檜	北大(3)	0	39"3	0	48"6
10位	伊藤	北照	北大(4)	0	42"3	0	54"1
14位	長屋	グレンエトワール	北大同好会	0	43"8	-4	52"0
	小林	北凛	北大(4)		失権		
	中戸川	北楡	北大(4)		失権		
	高村	北駿	北大(3)		失権		
	堀川	北凛	北大(3)		失権		

				JUMP OFF			
《中障害飛越競技》				減点	TIME	減点	TIME
1位	白井	ジェロニモ	日高KF	0	89"2	0	37"5
2位	坂本	マドンナ	北星RC	0	77"2	0	39"5
3位	佐々木	セイルオンシャダイ	N.H.P.	0	87"2	0	51"0
4位	長屋	グレンエトワール	北大同好会	0	88"0	棄権	
9位	野田	明日檜	北大(3)	-5	98"5		
	伊藤	北	顯 北大(4)	失権			

☆第26回北日本学生馬術大会 (8月8日~12日 於 帯広畜産大学)

				一走目	二走目		
《障害飛越競技(二回走行)》				減点	減点	総減点	
1位	福庄	北皇子	北大(4)	0	0	0	
2位	竹之内	マリオン	弘前大	0	-4	-4	
3位	中島	サーネイティブ	北里大	-8	0	-8	
4位	大久保	ブラックランバー	酪農大	-8	0	-8	
5位	上野	騾 狼	酪農大	-8	0	-8	
6位	安田	グレースカップ	東北大	-8	-12	-20	
7位	小田島	麗 王	福島大	-15.5	-8	-23.5	
8位	近藤	騾 駿	酪農大	-12	-12	-24	
11位	林	北 銀	北大(4)	-12	-32.5	-44.5	
	横山	明日檜	北大(3)	失権	-18.75		
	堀川	北 玲	北大(3)	-20.5	失権		
	堀崎	北 駿	北大(4)	失権	失権		

《学生賞典馬場馬術競技》				得点
1位	松本	ケンタウルス	東北大	525
2位	山川	コウジョウ	帯畜大	489
3位	高橋	杜舞姫	東北大	484
4位	真鍋	北 瑛	北大(4)	369

《総合馬術競技》				調教	耐久	余力	総計
1位	堀川	北 玲	北大(3)	-185	0	-5	-190
2位	大久保	騾 閃光	酪農大	-191	-18 6/15	-5	-214 6/15
3位	松井	勝 皇	帯畜大	-199	-12 6/15	-5	-216 6/15
4位	築山	柏 星	帯畜大	-187 1/3	-37 9/15	0	-224 14/15

3位	綱川	クロスサハラ	フロンテア	0	53"0	0	30"4
10位	池田	北皇子	北大(2)	-4	48"4		

《小障害飛越競技》

OPEN 野田 北 熊 北大(3) 失権

《ジムカーナA》

TIME

1位	早田	ジャストクリスマス	早田牧場	43"8
2位	早田	リアルイージー	早田牧場	45"9
3位	牧田	シルバーキング	旭川RC	53"9
7位	荒瀬	北 凜	北大(1)	61"8
	小橋	北 凜	北大(1)	失権

☆第12回山下杯記念馬術大会 (10月10日 於 酪農学園大学)

《ジムカーナ》

TIME

1位	三宅	騾天鳳	酪農大	33"3
2位	清水徹	北 銀	北大(1)	33"5
3位	八木	北 駿	北大(1)	36"0
5位	塚脇	北 銀	北大(1)	38"8
	岡部	北 瑛	北大(1)	失権
	三浦	北 瑛	北大(1)	失権

JUMP OFF

《L級》

	減点	TIME	減点	TIME		
1位	大村	騾 狼 酪農大	0	51"9	0	21"0
2位	高橋	騾 鷹 酪農大	0	52"0	0	23"0
3位	祝前	北 駿 北大(2)	0	57"0	0	23"1
6位	清水礼	明日檜 北大(3)	0	47"1	-3	43"1
7位	横山	北 銀 北大(3)	0	50"0	-4	23"0
8位	外山	明日檜 北大(3)	0	45"2	-4	23"0

JUMP OFF

《MC》

	減点	TIME	減点	TIME		
1位	田淵	騾 駿 酪農大	0	51"0	0	24"0
2位	船越	騾 鷹 酪農大	0	51"0	0	26"0
3位	小島原	騾 泰斗 酪農大	0	54"0	0	26"1
5位	堀川	北 玲 北大(3)	-9	84"0		

〈OB対抗戦（L級リレー競技）〉				減点	TIME
1位	仲村・陣川	北玲・明日檜		0	108"3
4位	加藤・服部	北玲・明日檜		-9	135"8

☆OB戦（10月21日 於 北大馬場）

〈ジムカーナ〉					TIME
1位	大 歳	グレンエトワール	O	B	56"0
2位	長 井	北 凛	1	年	60"5
3位	斉 藤	北 銀	O	B	64"4
4位	渡 辺	明 日 檜	1	年	66"9
5位	南 保	北 銀	1	年	70"5
6位	武 森	北 凛	同	好 会	73"5
7位	船 越	北 熊	1	年	89"1
	白 石	明 日 檜	1	年	失権
	西 脇	グレンエトワール	1	年	失権

〈L級〉					減点	TIME
1位	長 内	明 日 檜	同	好 会	0	49"9
2位	永 田	明 日 檜	2	年	0	54"8
3位	本 村	グレンエトワール	O	B	0	60"2
4位	横 山	北 銀	3	年	-3	65"3
5位	野 中	北 銀	O	B	-4	54"6
6位	野 田	北 熊	3	年	-4	59"6
7位	陣 川	北 熊	O	B	-13.25	84"0

☆弘前大・北里大・北大水産三大学対抗戦（10月21日 於 北里大学）

〈第一級馬場馬術競技〉

佐土谷	アリゾナパイ	北大(1)	失権
倉 本	クリティックボーイ	北大(1)	失権

〈ジムカーナ〉

5位	倉 本	ソリスト	北大(1)
6位	佐土谷	アイアンシロー	北大(1)

☆第45回国民大会秋季大会馬術競技 (10月22日~26日 於 福岡県馬術競技場)

《総合馬術競技》				減点	調教	耐久	余力	総計
1位	平山	スミスタウンダウン	福岡	-110	-8	0	-118.00	
2位	岩谷	ストラウス	奈良	-104	-17.2	-5	-126.20	
3位	岩谷	デルタイトコミック	奈良	-113.33	-16	0	-129.33	
7位	堀崎	北 駿	北海道(牝4年)	-123.67	-24.8	-10	-166.72	

☆第40回全日本学生障害飛越競技会

第33回全日本学生3DAY-EVENT (11月6日~12日 於 馬事公苑)

《全日本学生障害飛越競技会(二回走行)》				一走目	二走目	二日間合計	JUMP OFF		
				減点	減点	減点	TIME	減点	TIME
1位	田代	プリンスティック	専修大	0	0	0	203"5	0	44"6
2位	土屋	ハシピゴラス	明治大	0	0	0	203"5	-4	42"2
3位	松浦	タカラコスモス	日猷大	0	0	0	201"0	-65	100"0
24位	福庄	北 皇 子	北大(4)	-4	-16	-20	204"5		

《全日本学生3DAY-EVENT》				減点	調教	耐久	余力	総計
1位	加藤	桜	翠日本大	-145	1/3	0	0	-145 1/3
2位	追分	シャイニングポイント	福井工大	-166	2/3	0	0	-166 2/3
3位	林	白	華中央大	-169		0	0	-169
24位	堀川	北	玲北大(3)	-204	1/3	-40	0	-244 1/3

☆第2回ノーザンホースパーク馬術大会(11月10日~11日 於 ノーザンホースパーク)

《スピードアンドハンディネス》				TIME
1位	鎌田	モデルミラー	フロンティア	68"9
2位	吉田	ダイナアトランダム	N.H.P.	74"1
3位	吉田	パワープレイ	N.H.P.	78"1
4位	長屋	グレンエトワール	北大同好会	113"0

《新馬障害飛越競技》				減点	TIME
1位	吉田	グラニット	N.H.P.	0	60"7
2位	吉田	パワープレイ	N.H.P.	0	68"4
3位	大平	ダニ	N.H.P.	0	69"4
7位	横幕	グレンエトワール	北大(2)	-11.75	98"6
	野田	北 熊	北大(3)	失権	

国体特集

今回、堀崎兄・北駿号コンビが我が部としては久々の国体出場を果たし、総合馬術競技7位という成績を収めました。そこで、堀崎兄に幾つかの質問に答えていただきました。

Q1. 人馬のコンディションはどうでしたか。

札幌から福岡までという長距離輸送で馬の体調を調整してやるのが一番難しかった。福岡に到着してから多少輸送熱が出て飼食も若干落ちたが、試合まで一週間という時間があったことで、運動量などを調節しながらコンディションを整えることができた。試合の3日間は人馬ともにベストの状態、お互いの息もピッタリだった。



Q2. 試合の内容はどうでしたか。

野外騎乗コースがさほど難しくないと聞いていたので、調教審査である程度の順位が決まると思い、福岡に行っても調教審査の練習を主体にした。速歩でのハミ受けが余り良くなく（これは騎手の拳の硬さによるものであるということは以前からの課題だった）、かなりあせった。本番では、拳で押さえてしまった分推進することができず、速歩で跛行ぎみで良い点数が出ず、13位だった。

耐久のオフィシャルウォークで、OBの千葉さんや日高育成牧場の下屋敷さんが一緒に回って下さり、とても貴重な意見をさせていただき、障害の向かい方などどうしようかとあれこれ迷っていたことへの答えが出て、それが不安を消してくれた。馬は絶対に止まらないという自信があったから、あとは障害への向け方や馬のペースなど基本的なことをしっかりやれば良いと思った。実際は、水飛び込みで馬が多少躊躇してタイム減点を食らったが、ペースは良かったと思う。簡単なコースと言われながらも、他の選手が止まったり失権したりするのを見ると、北海道の野外騎乗のレベルがかなり高いことを実感した。また、この日は小雨の天気で満点が全くいなかったことも幸いして順位が上がったと思う。

余力では、人馬ともに最高の状態だった。最終障害で止まったのは、騎手がやったと思って馬を追いすぎたため。この反抗がなかったら6位だったということでちょっと悔しかったし、馬にも申し訳なかったと思う。

総合馬術競技は3DAY-EVENTとも言われるように、3日間で競技を行なうものだが、今までは調教と耐久が同じ日にあり、翌日に余力と、まさに2DAY-EVENTであったから、3日間で行うとどう違うかなと思っていた。実際やってみると、3日間緊張感を持続するという事は非常に大変であり、プレッシャーも日を追うごとに大きくなった。調教、耐久、余力という言葉は馬だけでなく人にもあてはまる言葉であり、まさに人馬一体が要求されるのだと感じた。



Q3. 全日学との違いは？

一番違うのは雰囲気。全日学は学生だけの大会であり、選手から応援まですべて学生で非常に緊迫した雰囲気がある。国体は開催地の活性化ということもあって、観客はほとんど素人でお祭のような和やかな雰囲気がある。いずれの競技会でも出場している選手間の緊張感は同じだと思うが、周囲の雰囲気や騎乗する際の緊張感も少しだけでも変わってくると思う。

しかし、違うのは雰囲気だけで、国体も全国大会ということには変わりなく、出場する馬のレベルも非常に高かった。社会人と同じ土俵で戦うということで、勉強になることばかりだった。クラブとしては全日学が最終目標であるのは当然だけれども、チャンスがあるなら国体にもチャレンジした方がよいと思う。

Q4. 全体を通しての感想をお願いします。

北日学で失敗し、国体予選で勝ち、国体で7位に入賞できたのは、周りでいろいろと支援してくれた方々のおかげであると感謝しています。クラブの皆をはじめ、OBの方々や国体の北海道選手団の方々の援助がなければ、現役最後の大会で7位という成績は取れなかったでしょう。そして、こんなにも未熟な私を背中に乗せてひたむきに頑張ってくれた北駿号に対して、ありがたいという気持ちでいっぱいです。皆さん本当にありがとうございました。



北水馬術部活動報告

主 将 根 井 智

前号では平成2年3月末までの活動報告を書きましたので、今回は平成2年のシーズンの結果を中心に9月までの報告をします。

その前に、非常に残念なことです。去る8月7日、我が部の将来を担っていた飛沫号が仙痛（風気栓）のために死亡しました。僕の馬体管理が不行き届きだったのは明白であり、その為に、尊い命を失ってしまった彼に対しどんなに謝っても謝りきれない事かもしれません。が、とにかく今は、彼の冥福を祈りたいと思います。

では、1990年度の我々のシーズンを、日を追って主な活動及び戦績を書いていきたいと思っています。

☆5月27日 北日本学生馬術選手権（於 酪農学園大学）

	馬場得点	障害減点	
根井（決勝）	421	-0	2位
田村（予選）			14位

先の北日幹事会で承認されて、この試合は北水馬術部が北大馬術部と別団体として初めて出場する公式試合となりました。貸与馬競技に男女2名ずつの選手枠があるのは、我が部のように人数的、金銭的に余裕がないクラブにとってとても意義があります。

全日本学生馬術選手権への出場権を二人ともとってやろうと意気込んで江別に乗り込んだものの、結果は上記の通りでした。予選が部班だったので、馬の運不運が勝敗をわけたのは否めません。ともかく北水の初試合として、ある程度の成績を残せ良かったと思います。

☆6月23日 北海道自馬馬術大会（於 モモセファーム）

・L級2部	根井	キクノプロスパー	失権		
・L級B			1段階	2段階(TIME)	
7位	田村	クラウン	0	40"3	
	根井	飛沫	-3		
	松島	キクノプロスパー	-3		
・新馬			減点	TIME	
14位	田村	クラウン	-7.5	90"2	
17位	根井	飛沫	-8	68"2	
21位	橋本	クラウン	-22	96"3	
	松島	キクノプロスパー	失権		

この大会では、林主将、堀崎主務をはじめ、本学の部員のみならず、本当にお世話になり、また、迷惑を

かけてしまいました。この場をかりてお礼申し上げます。

東山乗馬クラブのホープ、キクノプロスパー、ステラ、そして、北水の飛沫、クラウン（現 沙流羅）の5頭での遠征となりました。

ホープ以外はどの馬にとってもデビュー戦、初の遠征だったわけで、上記の成績もやむを得ないのかも知れませんが、しかし人間の不注意なミスが多かったと思います。

しかし、今まで部屋の飾りだった“北水ゼッケン”をつけて初めて試合に出場できたことは大きな前進となりました。また、大器晩成男、松島のデビュー戦でもありました。

☆6月28日～30日 全日本学生馬術選手権（於 馬事公苑）

根井（1回戦）

あっさりと一回戦で敗退してしまいました。やはり、北日本と全国のレベルの差はとてつもなく大きいと思いました。逆に、自分みたいなレベルで馬事公苑に来れるんだから、北日本で良かったとも思いました。この大会では、勝負うんぬんよりも良い馬に乗れたことのほうが自分のためになりました。

☆8月25～26日 北海道馬術大会（兼 国体予選）（於 浦河馬術競技場）

・L級新馬 松島 キクノプロスパー 失権

・L級新人 減点

4位 田村 クラウン -4

橋本 クラウン 失権

東山乗馬クラブのホープ号以外の6頭での遠征となりました。結果は田村の入賞を除いて皆失権という散々なものになってしまいました。原因は色々挙げられますが、やはり人馬のレベルが競技のレベルよりかなり劣っていたことが目につきました。

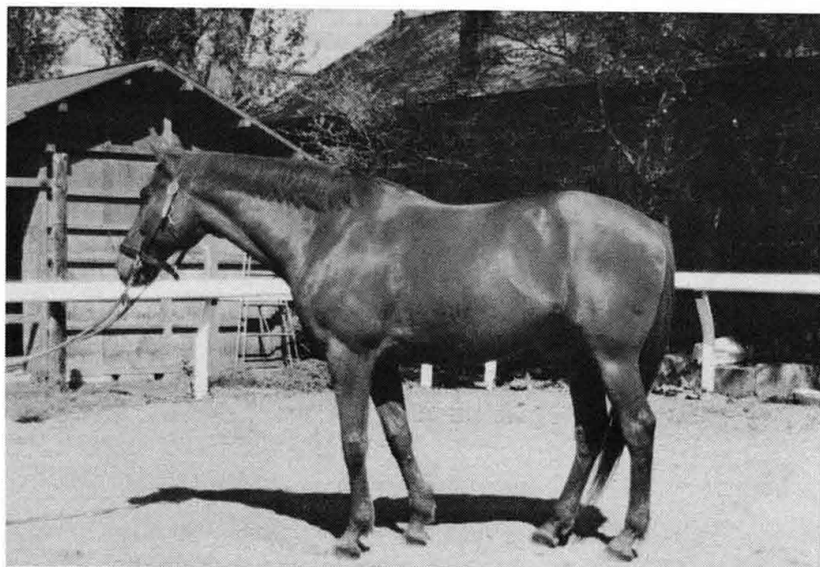
クラウン号は、試合まで障害をほとんど飛んでいないにもかかわらずゴールを切り、改めて彼の実力に頼もしさを感じました。

以上が今シーズンの主な活動です。ここ数年のクラブの存続に精一杯という状態に比べると確実に進歩しているとは思いますが。

北水馬術部は多くの方々にお世話になりながら活動しています。東山乗馬クラブの菊地先生、岸本先生には本当にいつも暖かくご指導していただいていますし、北大本学の半沢先生、岡田監督、斎藤部長をはじめとするOB諸兄、林主将以下現役の皆さん、北日本の上野幹事長や他大学の幹事の皆さん・・・本当に枚挙にいとまありません。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最後に、欲を言えばきりがありませんが、もう競技に出ることに意義があるというステージではないと思います。夢は大きく、目標は現実的に持って後輩達には頑張ってもらいたいと思います。北水馬術部はもっともっと発展する可能性に満ちています。これからも御指導、御鞭撻よろしくお願い致します。

北 皇 子 号



騙 サラ 栗毛
昭和51年5月12日生
新冠郡新冠町産
父 アストラルグリーン
母 ハーバーガール
競走名 ハーバーギャラン

北皇子号調教報告

福 庄 亮 逸

調教報告なんて僕には書けません。騎乗日誌もあまり書かなかった。参考にしたテキストも持たなかつた。人間はあまりにも未熟だった。そしてギャランは何でもできたから。だから何もえらそうなことは書けませんが、現役のみんなが、馬にどうかかわるかの一つの参考になったらと思います。

三年目の12月にギャランに乗りかわってすぐに考えたことではないですが、常に気を配ってきたのが次の三点でした。

- ①馬のメンタルコントロール
- ②運動を常にコンスタントに続けること
- ③自分のメンタルコントロール

①について

ギャランは年齢の割に環境に対してとても新鮮で、いろんな物に興味を持ったり、驚いたり怖がったりするところがあります。僕はギャランのそういうところがとても貴重だと思いました。その新鮮さを失わせないために喜怒哀楽を持って、けじめをつけて全身で付き合ってきたつもりです。引き運動や手入れ、装鞍時にしっかり約束ごとをつくり、自分と接しているときは常に有る程度の緊張感を持たせることだと思います。なれあいではやると馬はぼけるので、下級生に馬を取り扱わせるとき、みんなに一番

気をつかってほしいところです。

練習時の障害飛越もなるべく少なくしましたが、馬体を気遣ってというよりも、むしろ、障害に対する新鮮さを失わないようにと思いました。ギャランは賢い馬なので障害の大きさを見きわめて最小限の飛越をしてしまうからです。これは体にもよくありません。だからオクサーの中に変わったものを入れたり、土塁や干壕を間にいれたりして練習しました。また、フラットワークでは不整地をよく利用しました。筋力作りというよりも運動に変化を持たせるためによく間に入れました。

次は試合の準備運動についてです。馬の精神面のコントロールの最終目的は、試合の準備運動をいかに行うかだと思います。それだけ準備運動は大切に、日ごろの馬とのつきあいは全てこのための練習というつもりでいました。馬体のほぐれと馬の緊張感と運動量（発汗、息づかいなど）がうまくかみあうように組み立てました。長くて短くてダメでギャランの場合、20～25分が目標時間でした。そしてボルテージは100まであげず90%ぐらいでとどめるのがベスト。8月26日の道体の標準中障害では出番も一番ということで自分のペースで運動でき、全日学のとくと同じくらいボルテージをあげることができ、大きな自信となりました。最初の3～4分は常歩で長手綱にとり、ハミをとりにきたらおもいきり伸ばしてやり、また長手綱にとり…それを何度もくりかえし、ハミに柔軟にさせた。そして、短く手綱をとり、旋回運動で左右の脚反応を確かめた後、速歩、駈歩の収縮と小さい回転を繰り返した（7～8分）。注意した点は、回転でバランスバックするかどうか、直線の伸展で第一、二、第三步目が大きく出るとの二点だけでした。それができればいつでも障害飛越に移れました。ギャランは他馬を恐がったりしないので沈静に時間をさく必要もなく、またすぐにボルテージがあがるので組みたてがとても楽しかったし、思いっきりやることができました。

準備馬場には流れがあり、その流れの中にうまくギャランのベストな組みたてを入れることのほうにむしろ気を配りました。流れに乗れないといきなり大きな障害を飛ぶはめになったり、不安で早く馬を出しすぎて緊張の山が持続できないことがよくあります。（余分な運動量を果すことにもなる）これらは馬の精神面にとってとても悪いことで、みんなには数々の試合の準備運動をよく見て研究してもらいたいと思います。

特にみんなに注意してもらいたいところは、前進氣勢を持たせるには、どういう乗り方をすれば良いか、どういう脚の使い方をすればよいか、ということではなく、前進氣勢のある馬にするためには何をしたらよいか、というこもっとを重視して考えてもらいたい、ということです。

②について

馬体管理で常に心がけたことが、全シーズンを通して一定の運動量を保つことでした。完全馬休は作らず、試合も経路回りと同じようなつもりで運動量を調整しました。馬休日や試合の次の日も調馬索をまわしました。そうすることでその日の運動量をこなすだけでなく、馬体のチェックやはりつめた筋肉をほぐしてやれました。

また、毎日の練習では必ず10回以上不整地を登り降りするようにし、筋力作りとタフな関節作りに心がけました。反省点としてはもっと外乗に行って農場で走らせたほうがよかったと思います。

全日に出発する前の3週間、障害練習の前に外乗で走らせたのですが、準備運動にはもってこいで、

馬体を大きく伸展させるのと、気分よくボルテージをあげるのに役立ちました。外乗で走らせることの大切さをもっと早くから気づくべきでした。みんなも、北大の練習方式の中に外乗を効果的にもっと取り入れて欲しいと思うし、さらに言えば年間計画の中で、泊まりがけで帯畜大のステイブルコースで馬の汗を流さすということもやったらいいんではと思います。

ギャランは高齢であり馬体は強くありません。そこで自分が老人になったつもりで考えました。毎日適度に運動すること。体全体を使って歩かすこと。常に関節や筋肉をほぐすこと。汗をびしょびしょにかくまでやらないこと。日中は風通しのよい日陰で休ませること。等です。フラットワークの横運動もこうしたことを考えて行いました。

③について

意外と大切で、人間の気持は馬に伝わります。弱気になってはいけないということを学びました。またクラブの雰囲気も左右します。クラブが活気づけば馬も活気づきますが、これは今になって痛切に感じています。副将として、ギャランに乗る人間として、シーズン中もっと全体の雰囲気作りにがんばるべきでした。

コンパは大きなきっかけだと思います。僕は何度もコンパで落ちこみから脱しました。また勢いをつけてくれるのもコンパだと思います。翌日練習があるから、試合だからとってのまなのは大きく見ればマイナスです。つらくてもバカやって盛りあげることは、とても大切なことだと思います。

さらに落ち込みがはげしいときは、ディスコでおどりまったり、カラオケでバンバン歌ったり、部屋で長淵をガンガンならしたり、夜の街へ消えたりしました。（別な意味の方が強いけど。）

また、大きな大会でのまれないためにイメージトレーニングをしました。特に全日がそうでした。8月の末から過去の二回走行のビデオを見まくってギャランの走行のイメージをするのです。最初のころは、走行のイメージをしはじめたとたん、緊張して心臓がドキドキしてましたが、回を重ねるにつれ、冷静にイメージ走行ができるようになり、「二走なんて余裕、余裕」という気持ちになりました。これは経路どりの練習にもなります。

また、試合場での準備馬場で主導権をにぎるためには、やっぱり普段から声を出すことである。僕の場合練習中もっと声を出すべきだったと反省しているが、準備馬場ではなるべく声を出しました。「左側いきまーす。」「オクサーいきまーす。」「一穴あげていーですか？」という具合に。そうすることにより自分のペースに近づけるし、雰囲気に飲まれない一つの方法となりました。

次に、毎日の練習について、①、②、③で書きたりなかった点を簡単に延べます。

3年目の11月のおわりごろ、乗りかわり最中に、町田さんが一週間ほど来られて、ギャランをみてもらいました。そのときの指導が、大げさな言い方ですが、僕のバイブルでした。

1. ギャランはギャランなりのハミ受けをする。コンタクトは手綱の重さだけ。
2. ギャランは移行でつくれ。
3. くい～んとハミをとりに入ったとき、同時におもいきりゆるしてやること。

まだまだ重要なことがあったと思いますが、あとは忘れました。

1に関しては、中野さんの調教報告（3年目のときのもの）にもあったように、僕も、6月のはじめごろまでわからず、というよりいつも首をあげるので、強引に押し込めていました。そうすると頭は下がるんですが、なんかかかっている、動きもチョコチョコしていました。このままいくかと本気でなやみましたが違うことに気付き、とにかく、口にあてないように、あてないように、どんどんこぶしを送るようにしました。最初は首をあげればなしでしたが、だんだんそれなりにしっくりきて、屈とうには程遠かったが、何かつかめた感じでした。それが道自馬（6月23日）の前後でした。馬が前へ出るようになったのです。

2に関しては、今（平成3年3月現在）もあまりよくわかっていないけれど、ハミに口をあてないで発進、減脚ができれば、それだけで気分よくボルテージが高められると解釈してやってきました。実際バランスで歩度の伸縮、移行を目ざしてやっていると、だんだんかからなくなりました。

3に関しては、常歩でそれをやることじたい、いい運動でしたが、短くもった手綱の中でもそれをやることを心がけました。考え方の基本だと思います。

結局、1、2、3はどれも同じことだったと今になって思います。

後、たぶん町田さんも言われたことだと思いますが、僕は伸縮運動を特に重視してやりました。思ったとおりにグッと詰まってボンと前に出ればその日はO. K. という単純な練習方法でした。あとは、余分に下級生の騎乗に時間をさいたり、三級馬場の内容をやったり、障害練習を付け加えました。

8月いっぱいごろまではこんな調子でやってました。そして、それまでの試合のレベルでは通用していました。しかし9月の中旬に村上捷治さんに練習を見てもらい、全日の二走に通用するための根本的な問題点を指摘されてから、大いになやみました。

「駢歩がハミを支点にしているので前駆で走っている。前進氣勢を後駆に乗せなければ全日は飛べない」今まではスピードで飛んでいました。だがそれだけでは飛べないということを初めて実感として教えられました。

「後駆にバランスバックさせて飛ばすためには、障害前でせつたい追ってはいけない。馬が障害前で自然に出てくるまで、じっとがまんして待て」

これが指導内容でした。とても基本的なことです。そしてこのときのギャランの飛び方がその後、全日までの大きな目標でした。しかし理想的飛越はわかったものの、どうしてもがまんできず、気ばかりあせり、雑な乗り方になってしまいました。ギャランにもあせりが通じたせいか、ギャラン特有のキレのよさもなくなり、10月6日の岩見沢での道内親善大会のMC競技には最悪のコンディションで出るようになりました。しかし、内容は悪かったけど満点でかえってこれ、ジャンプオフでは最終障害を、ふみきりが全然あわなかった（ガンガンおいまくった）にもかかわらず、ぶっこわしてまでも通過してくれた。この試合で「それでもギャランは飛んでくれた。今までどおりいこう」と、ふっきれました。

そのあと全日までは、どんどん前を出して馬に自信を持たせること、とわりきってやりました。障害練習の前には農場で走らせ（伸縮をやった）、二走の各ポイントをピックアップし、低めの（幅は少しもたせた）ものを正しくクリアする練習をやりました。特に二回走行の4連続では最初の一個を正しく飛越しさえすれば後は馬まかせて飛べるように、人馬とも障害間の感覚を体でおぼえることに心がけま

した。陣川さんの助言、「馬が前に出んかったら、くよくよ馬場で考えるより農場で走らせて来い」の一言は、本当にありがたかったです。（陣川さんはシーズン中何度も見に来てもらい、はやる自分を冷静に立ちかえらせてくれました）10月も下旬になると馬の精神状態がだんだんよくなりました。なにかわきあがるものを感じました。そして絶好調のうち、全日入りしました。

全日の二走は今まで書いてきたことをくりかえしたにすぎません。

一走目 一落 -4

二走目 二落 -16 トータル -20 24位

ギャランに乗ってきて、一番の心のこりが、北日学の総合、耐久競技の大チョンボでした。一本道のスティプルコースで迷子。ふりかえって一反、タイム減点とで-5 99/15。決定的だった。スティーブルの恐さというものを終わってから知った。軽く見ていた。下見不足だった。認識不足だった。現役のみんなとギャランには本当に申しわけなかった。これまで書いてきたのを見ても僕はおおざっぱでした。いろんな面で細部まで目を通すこと（最上級生になってからずっと）をしなかった結果です。北日や全日では不思議と出るのです。

もう一つは、全日の二走目の冷静さの欠如。二走目の第一障害があんなに重要だと知らなかった。第一障害落下、馬も人間も一つの緊張感がなくなった。経験豊富な人ならば落ちついて立てなおすことができるのです。

こうした失敗は、実際やってみなければわからないことですが、とりかえしのつかないことです。みんなには、数々の大きな試合にでて、見て、イメージトレーニングして、経験をつんで欲しいです。

一番よかったことは、ギャランはまだまだ健在だと示せたこと。ギャラン、そして高村、あとはまかせた。

北 銀 号



騙 サラ 鹿毛
昭和55年4月28日生
上川郡新得町産
父 ヤマブキオー
母 ソーゴータカラ
競走名 トカチヤマブキオー

北銀号調教報告

林 憲 吾

僕が北銀に騎乗したのは11月の中ごろからであった。全日学で鼻を負傷したこともあって、初めは鼻革を着けず、運動もきわめて軽めであった。12月の間は主に体力をつけることを考え、それと折り合いをつけることを主にして、細かい運動はせずに基本的なことだけに重点を置いた。騎乗面以外では、北銀が以前からよく疝痛になりがちであったので、馬房をできるだけ清潔に保つように心がけた。クリボックスなども試したのだが他にゲップができるところをみつけてしまったり、また、ただ単にイライラするだけなのでやめた。気分的なものも結構影響するようなので、冬には吹雪でひどいとき以外は馬着を着せてでもパドックに放すようにした。それでも夕当のときなどにイライラしていることがあり、そんなときは馬場に放しておもいきり走り回らせたりもした。それと、以前の全日学の時、試合の当日に疝痛になり、その原因が前夜の夜飼だと思われることがあったので、極力夜飼を与えないようにした。実際この1年間で夜飼は一度も与えなかったように思う。そんなわけで、有難いことに疝痛には一度もならなかった。夜飼を与えなかったのが主な原因だと思うが。

年が開けて1月になってから、馬場の状態が良いときには障害練習を徐々に始めていった。よくやったのがクロス、クロス、オクサーで間歩が一間歩づつの連続であった。高さはそんなに高くせず、リズムよく飛ぶことを第一に考えた。ある程度リズムができてからは今度は第三障害の間歩を少し狭くして、飛越がフラットにならずに、上へ飛ばせるようにした。しかし、ただ障害間でバタつかせるだけで、思

ったように飛越できなかつた。それで、今度はもっと首を使って飛越するように、第二障害と第三障害をそれぞれオクサーにしたりもした。ただ、高さがなかつたことで、自分が思っていたほどには北銀にとって練習にはならなかつたようだ。馬場運動に関してはこの頃はまだまだあまり考えておらず、フラットワークでも大きく動かせることだけを考えていた。3月になってからは馬場の状態が悪くなり、思うようには練習できなくなつた。外に行っても運動できるような場所がなく、北銀の肢さばきが悪いこともあってどうしても消極的になってしまった。今思えば、この頃少し自分自身が消極的になってしまつていたように思う。もっと体力をつけさせるような運動をしなければいけなかつたのだろうが、それができなかつたために、シーズンに入ってから少々バテ気味になつたのではないかと思う。

七帝戦前の練習は、まだ馬場が良くなかつたので障害はせずに馬場運動を中心とした。自分がそれほど馬場に自信がなかつたので北銀がどの程度出来るか手探りのような感じで始めた。先ず、肢の運びが小さく、そして低かつた。内方後肢が踏み込んでくる状態にはなかなかならなかつた。それでも前をもって脚を使っていけばある程度は動くようになったのだが、段々脚にたいして重くなり、また、首は全く下がってこなかつた。脚に対して重くなつてしまうのには、普段から脚反応を試し、敏感にさせるように心掛けることでなんとかなつたのだが、首が下がってこないのにはどうしようもなかつた。半沢先生に乗っていただいたとき、先生は前を結構強く持っておられ、首も下がつた。しかし自分ではなかなか思うように行かず、ただ口を固くさせるだけだつた。それでも脚を使って練習しているうちに何とか銜受けらしい形になってきた。雪割りも終わり馬場が良くなってからは七帝戦まではあまり時間がなかつたが、障害に関しては以前北銀が飛んでいたときの感じを思い出さすような感じで練習をした。シーズン最初の試合ということで経路自体はそれほど難しくなかつたので、それで十分だつたと思う。実際、試合では他大学の選手が乗つたのだが、不安な点はなかつた。ただ、どうしても飛越がフラットになつてた。馬場では他大学の選手は思うように前に出せなかつたようで動きはそれほど良くなかつた。自分は三番目に乗つたのだが馬が全然緊張していなかつた。やはり準備運動の時点でもっともっと前に出すようにしなければならぬのだろう。この時に自分の馬場は、前には出ていたのだが、首は上がったままだつた。準備馬場の状態のまま本馬場には入れず、入つた途端に馬の状態が変わつてしまつたようだつた。焦っているような感じで、詰めることも伸ばすこともままならなかつた。北銀が自分の脚を受け付けぬ感じだつた。

七帝戦が終わつてからはおもに障害に重点を置いた。冬にやっていた連続を、高さを上げ、間歩も実際の経路のようにした。どちらかというとならオクサーよりも単なる単一のほうが苦手でよく落とつた。障害前でもっと詰めるようにしなければと思つたのだがどうしても北銀自身のペースにもつていかれて走られてしまつた。そのために回転で内に入られることもたびたびだつた。回転で馬体を起こすようには何とかできるのだが、障害前でもつていかれるのは結局半沢杯までには直せなかつた。半沢杯ではこのことがそのまま試合の結果になつてしまつた。馬場でも同じなのだが、結局北銀に未だ自分の脚を教えることができずに馬なりになつてしまつていたのだ。そのあとからはもっとフラットワークに重点をおいた練習をした。馬にもっと銜を意識させることと、障害練習中に駈歩での詰め伸ばしを頻繁にすることを第一に考えた。

ノーザンホースパークの試合は今シーズン初めての外での試合であるだけに準備馬場で北銀がどんな

状態になるのか不安であった。事前に馴致にも行っておいたがそのときには思ったほど興奮しなかった。それと今度はかなりの高さの障害があるために練習でも高めを飛んでおこうと思って、120のオクサーまで上げていった。試合当日は、心配していたように準備馬場で馬がパニックってしまった。鎮静も思うように行かず、経路走行も結局半沢杯の時と同じようになってしまった。それと、この試合のときに連続障害で不安を感じた。連続の最後の障害でフラットになってしまうことと、障害間で馬体が伸び切ってしまうために間歩が崩れてしまうことであった。試合後の練習においてこの問題を解決しようと色々考えたのだが、ますます連続が苦手になってきて特に高い障害においては拒止してしまうこともたびたびであった。

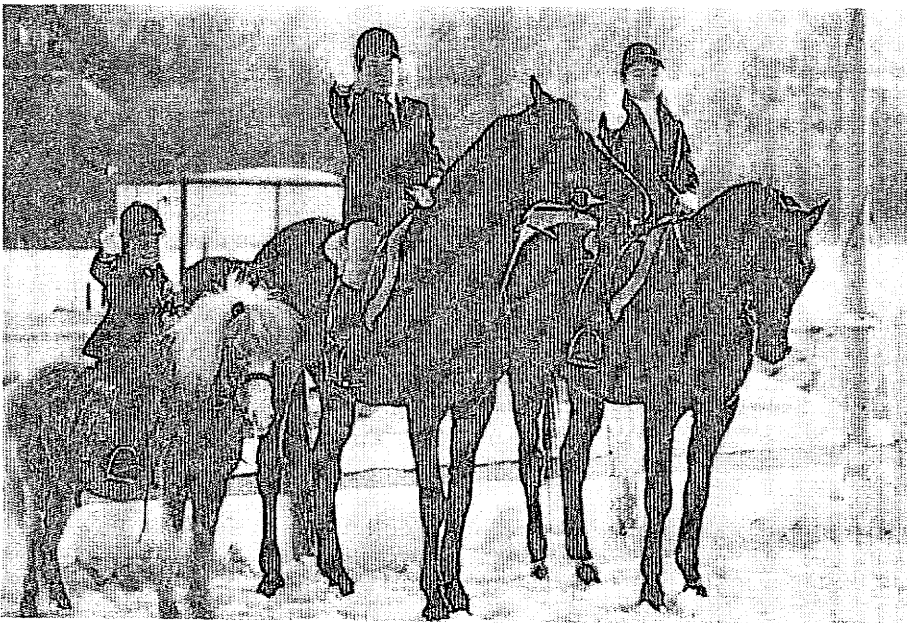
道自馬に向けては苦手になってしまった連続障害の克服が最大の課題になった。自分自身が苦手意識を持っていることも問題だった。飛びやすい間歩で何度も練習をしたのだがなかなか解決しなかった。また、道自馬の準備に追われてしまって思うように練習できずに試合をむかえてしまった。試合当日は、やはり思ったように連続の間で拒止してしまった。自分の気持がはやってしまって先飛びしてしまったためでもあるが、北銀自身の自信もなかったように思う。このあとは連続に限らず障害自体に北銀が自信をなくしてしまった。

北日まで一ヵ月になって、最悪の状態になった。飛越の形も崩れ、踏み切りもばらばらであった。この時点で公認は考えずに北日にむけて調整することにした。北銀の状態をたてなおすために、北銀自身の障害に対する自信を持たせることが第一だった。高さは二の次で踏み切りに重点を置いた。自分自身が踏み切りを読めるように他の馬で障害を飛ばさせてもらったりもした。いままでが全くの馬のペースであったので、自分が“ここだ”というときに脚で飛ばさせるように踏み切りの三間歩前を目印にして馬を追い出す練習を続けた。徐々にであったが北銀が自信を取り戻すようになってきた。しかし、連続においてはなかなかうまく行かなかった。第一障害ではうまく飛んだとしてもそのあとがどうしてもなだれこむ感じで、これでは高い障害は飛べない。今度は障害間で前をもって馬体を起こすようにした。それと、自分が障害間で詰めるか伸ばすかの判断ができなければならないと思い、間歩を多少広げたり、狭めたりして、その調整ができるように練習した。ある程度までは何とかあったが、踏み切りが確実でないことと、馬体を起こしきれないことが解決できないままに終わった。

結果的にはシーズン後半で状態が崩れてしまったことをたてなおせないままに北日をむかえてしまったのが敗因だろう。年間を通しての計画が立てられず、そのために調整もうまくいかなかった。初めのうちにもっと積極的にやっていたらもっと早いうちに問題点が見えてきていたと思う。それが、問題点があったのが北日の前だったというのが最悪だった。ぶっつけ本番になってしまったのだから。北日以降は北銀も自信を取り戻してきたように思う。あと、一年を通しての反省点を挙げれば、まず、冬の間にもっと体力をつける運動をすべきだったことである。シーズン後半で馬がバテてしまって練習できないことがあったから。それと、北銀にとって、もっと乗り手がコントロールすべきなのか、それともある程度は馬にまかせたほうが良いのか判断に迷うところだと思う。自分の場合は何とかしようと思って逆に北銀の調子を狂わせてしまった感があるからである。北銀のペースのままではいけないが、そのなかで乗り手が調節すれば良いのであって、ペースを崩してしまってはいけないだろう。それと、下級生の練習についてだが、自分の場合、下級生が乗ったときに北銀がだらけてしまって、なかなか練習に

ならなかった。その点をもっと解決するようにしたかったが、自分にはその余裕がなかったので、今後はそのことも考えていってほしいと思う。

一年前のことを思い付くままに書いてきたので、まとまりもなく、まるで日記のようになってしまい、申し訳ありませんが、大体自分はあまり計画的にものごとを考えない性格で、騎乗に関しても、練習のなかで考えながらやっていたために“報告”としてまとめるのにはちょっと無理がありました。本当はこの点が一番の問題だったのかもしれないですが、北銀にとってこの一年は何だったのかと聞かれると、返答に困ってしまうのですが、これから先もまだまだ活躍できるものを北銀は持っていると思います。非常に無責任であるとは思いますが、北銀の今後の活躍を願ってやみません。



北星乗馬クラブ

〒061-22 札幌市南区白川1814番地3

TEL (011) 596-2407

北 玲 号



牝 サラ 鹿毛
昭和56年4月8日生
幌泉郡えりも町産
父 ノーザンアンサー
母 クレメンタイン
競走名 クイーンクレメン

被調教報告

堀 川 環 樹

12月から北玲に乗ることになった。北玲は2年前に全日学で5位入賞を果たしている馬なので調教に関しては特に問題はないと考え、当面の目標は馬との信頼関係を築き上げることとリラックスした状態で運動することとした。

具体的には冬の間は3種の歩様での伸縮ができるように、障害に関してはコンビネーションによる随伴の練習に重点をおいた。伸縮運動では拳が堅いため馬の内方のハミを引っ張り首の筋肉を硬直させてしまったこと、脚による推進不足からくる後肢の踏み込みの甘さにより馬を焦らせてしまっていた。障害に関しては始めうさぎ跳びを多用したが人間が先飛びしてしまうことと馬が左に斜行してしまうことで人馬共にリラックスできず拒止をまねくことがたびたびあった。そこで1間歩や2間歩の連続障害にし、左によれないようにバーをたてかけるなどした結果余裕がもてるようになった。

次の問題点として運動の最中にささいな物音に驚いたりして騎手に集中させることができなかった。そのため横運動などのこまかな運動をしたり15分ごとに練習を区切ったりして馬の注意を人間に向けさせるようにした。例えば、準備運動でただ馬なりに歩かせるのではなく1歩1歩騎手の扶助に従って歩かせるために詰めた運動を多く取り入れた。さらに馬の持久力を養わなければと思い、重文や構内で走らせることを心がけていたがこれに関しては馬体の故障等あり思うように実施できなかった。

乗り始めたころから障害に対する躊躇心があり1歩詰まって飛ぶようなことが多く、それを解決でき

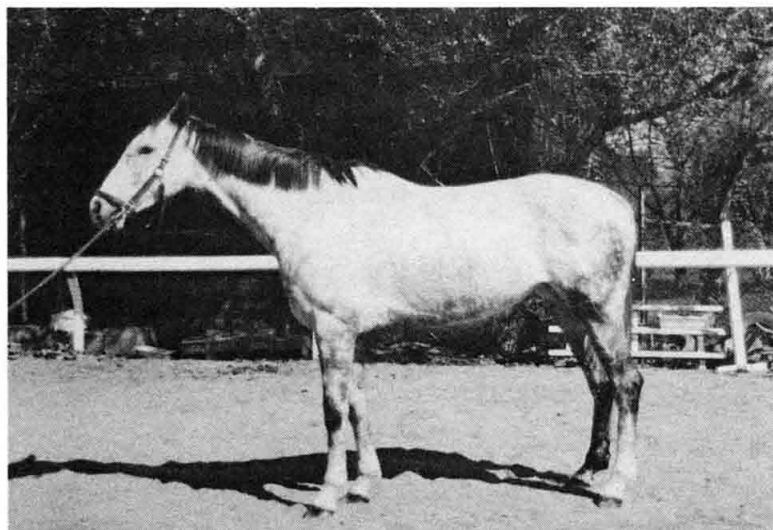
ないうちにシーズンをむかえてしまった。半沢杯の経路まわりなどでも踏切が合わないとっこんで拒止するようなことが多かった。原因としてまず騎手の騎座が安定せず障害前で馬の動きを阻害し遠めや近めから飛ばすことができなかった。また馬体が小さいため人間のバランスの崩れの影響が大きいことが考えられた。そこでそれまで3ポイントで乗っていたのを2ポイントに変え、しっかりあぶみにのってバランスを保つことで馬の動きを阻害しないようにしたことで徐々に拒止されることがなくなっていた。シーズンの数試合を通して試合場での馬の緊張感からくる良い動きというものを実感することができた。

北日学では二走と総合にエントリーした。二走の一走目では人間が意識しすぎ、体全体を使って飛越させることをせず、人馬ともに気持ちばかり先走ってしまい4番障害にっこんで人馬転をしてしまった。二走目は馬の躊躇心をぬぐいきれないで、前進氣勢を維持できず失権となった。総合の調教審査の準備運動では沈静がうまく行きますまずの成績を残すことができた。耐久ではどの障害にも良い感じで飛越することができ二走の悪い印象をぬぐいさることができた。余力では二走の反省から脚によって後肢を踏み込ませ馬体全体を使って飛越させることのみを考えた。結果1落で全日学の権利を手にすることができた。

全日学では馬事公苑到着後、競技前の数日間で運動をとぎらせず一定のペースで運動することで沈静する感覚をつかむことができた。競技では拳のコンタクトを一定に保つことができず後半つかかかってしまった。耐久では一定のペースで走ることができず走路でつかかったあと馬なりになってしまい2拒止をまねいた。結局24位という結果に終わり、調教審査のレベルの違いと耐久コースの難しさを痛感した。

引き続きもう一年北玲に乗ることとなった。今までの経験を生かし全日学で入賞するためには何をしなければならぬのかを常に念頭において騎乗していきたいと思う。

北 凜 号



牝 サラ 芦毛
昭和57年4月8日生
北海道浦河郡浦河町産
父 ゼダーン
母 ヤマニンパー
競走名 ヤマニンスプリング

調教報告にかえて

小林 佐代

スプリングに乗った1年間、結局自分の一貫した方針がたてられず、OBや乗馬クラブの方々の考え方にふりまわされてしまっていました。ただ、スプリングという馬が好きで、かわいくて、そして他の人が何と言おうと、こいつは障害を飛べると信じていました。

スプリングは私達最上級生の間では、下級生の練習馬という立場でした。私は1、2年目の時、障害練習をさせてもらうことが少なく、障害を飛ぶことに対して恐怖心さえもったまま最上級生になってしまいました。こんな最上級生がいるようでは問題だと思ったので、スプリングを使って下級生にもどんどん障害練習をさせてやりたいと思っていました。馬が障害を飛べる状態かどうかなど、まったくわからないまま、下級生を乗せて障害に向かわせ、拒否されるということが続きました。このような練習が馬に与える精神的な影響はすごく大きいものだったと思います。また拒否されることによって、運動量が増え、馬がいつも疲れている状態でした。

結局一番大切なのは馬の気持ちだと思います。馬も人も楽しく障害を飛べるように毎日の練習を組むことができれば試合でも確実に帰ってくるようになるでしょう。馬上では、自分の全神経を使って馬の気分、気持ちを感じることが必要です。

障害に向かう時には、馬が障害を飛べる状態かを必ず確認しなくてはなりません。馬が飛ぶ気の時には、障害に向かう直線にはいった時に、障害に対して注意を向け、自分から前に出ていくのが感じられ

ます。馬の飛ぶ気が感じられず、障害をふみ切る直前に脚や鞭で馬の気合を入れることがよくあったのですが、障害を飛ぶことに馬が集中できなくなり、また騎手もバランスを崩してしまうので、馬は苦しい状態で障害を飛ばなくてはいけなくなってしまいます。普段の練習でこのようなことを続けてしまい、馬は障害をとぶことが苦痛になっていったのではと思います。

スプリングは鞭を入れたとき（障害で拒否した後）後退するくせがありました。後退するのは一番悪い反抗の仕方なので絶対にさせないように、と気をつけました。鞭を入れる時には、馬を障害に対して横を向けてしっかりとめて、まず一息ついてから思いっきり一発。馬に反省させることが大切なのです。

とりとめのない文章になってしまいましたが、スプリングは、性格も良く、体力もある馬です。チームになる人は私のような失敗をくり返さず頑張って能力を引き出してやって下さい。

太田装蹄所

☎782-6084

札幌市東区伏古10条1丁目15番5号

北 駿 号



騙 ア・ア 栗毛
昭和58年4月3日生
北海道三石郡三石町産
父 トップホース
母 プルコワヒメ
競走名 チャフルガイ

北駿号調教報告

堀 崎 敬 史

北駿に騎乗してはや1年。振り返ってみれば色々なことがあった。この1年北駿に騎乗して思ったこと、感じたことをここにストレートに書いてみることにした。正しいこと、間違っていることその他いろいろあると思うが、これを読む後輩達の役に少しでも立ってくれたら・・・と思う次第である。

○冬期間の騎乗について

冬期間は、馬よりもむしろ人間のトレーニングに重点をおいた。北駿は、フラットワークにおいても障害飛越においても非常に動きの大きい馬であるから、騎手はその動きに早く馴れ、ついていけるようにすることを一番の課題とした。そのためにフラットワークでは、拳をじっとさせて肘・肩を軟らかくして馬の動きについていき、障害では、必ずたてがみを持って随伴するように心がけた。前者については、自分の拳が上下するのが分かっていながら北日学が終わるまで意識して治すことができず、本当にマズイと思ったのは北日学の二回走行で失権してからだった。後者については、僕が2年目の時から長屋さんにみていただいて、昨年北玲に乗った時もそのような乗り方をするように心掛けていたから、さほど苦勞することはなかった。今にして思えば、障害飛越の時に必ずたてがみを持つというのは、馬の口を引っ張ることなく、また高さや幅のある障害を飛越する時も騎手が自然と楽に馬の動きについていけると言う点で非常に重要なことだと感じる。こういった騎手の基礎的なトレーニングが冬期間に十分

できていれば、シーズン中は馬のことに集中して臨むことができると思う。

冬期間はフラットワークにおける運動の組立を1つのシナリオとして作り上げる（これは、シーズンにはいって試合での準備運動を行なうのに非常に役に立った）と、低い障害（クロス・単一障害・コンビネーション）をたてがみをつかんで馬の動きについていく練習に終始した。フラットワークでは、リズム良く運動を行なうように心がけた。各運動の移行に注意し、運動の流れの中のリズムを崩さないようにした。（これについてはまた後で書くことにする）。

また、雪が多く降った朝などは努めて外乗に行き、メインストリートや農学部裏の直線道路でステップルを想定して駆歩運動を行なった。これは、馬の馴致・体力作り・気分転換や北駿の持っているパワーを知るのに役立った。

今年は4月の上旬に七帝戦が北大であったため例年よりも早めに馬をある程度仕上げなければならず、七帝戦が気になってじっくりと乗り込むことができなかった。そのため人間の方のトレーニングが不十分で、特に正反撞でしっかりと乗ることができずシーズン中ずっと苦勞した。やはり4月の上旬くらいまでは、半澤杯が気にはなるが後々のことを考えて人間のトレーニングに重点をおいた方が良いと思う。

○フラットワークについて

馬場に重点をおく日、障害に重点をおく日、そのいずれにしても馬体をほぐし、緊張感を高めるという意味で両者のフラットワークは同じであると思う。

毎日の練習では、まず常歩できちんとハミを受けさせながら肩を内へ、腰を内へ、斜め横歩、前肢旋回、後肢旋回の運動を行なうようにした。これらの二蹄跡運動は、馬体をほぐすだけでなく脚反応を確かめて良くするという効果もあり、ひとつひとつの運動を正確に行なうように心がけた。斜め横歩では、左方向よりも右方向の方が（つまり左内方姿勢をとった時）動きが悪く、首を大きく傾けてしまいがちだったので、蹄跡を用いて運動することで矯正したりしたが、基本的にどの二蹄跡運動をとっていてもきちんとした動きをする。前肢旋回、後肢旋回は前肢あるいは後肢を軸にしたまま踏みかえないで旋回してしまうことが多いので、必ず蹄跡上で前肢旋回は前へ出しながら、後肢旋回は脚を使って余りバランスバックをしないようにして注意したが、後肢旋回はなかなか改善することができなかった。

次に速歩運動に移行した。軽速歩で馬場全体を使い、大きな回転の中に小さい回転を混ぜながら輪線運動を主体として行なった。小さい回転や回転で手前を変える時には、必ず内方脚を強く使い内方後肢の踏み込みを良くすると共に、外方脚、外方拳でしっかりと受け内方姿勢をきちんととらせるようにした。特に右回転で馬が内方に刺さりやすく、右手前の運動はより脚を強く使い注意を要した。馬に緊張感を与え運動のメリハリをつける上であまりだらだらと速歩運動を続けず、こまめに停止、後退などを入れるようにした。

そのまま駆歩運動へと移行した。駆歩発進は必ず常歩から行なうようにした。これは、速歩からであると惰性で発進してしまいがちで、それよりは人間が落ち着いてしっかりと鞍に座り、脚反応を確かめながら発進した方が良いと考えたためである。右駆歩が出にくいことがあり、右駆歩発進の際の扶助と騎座に注意した。駆歩運動は馬がフラットにならないように詰めた運動を行なった。北駿の駆歩は動きが大きく、その動きについていくためには人間の肩・肘・拳の軟らかさが必要となってくる。僕の場合、

それらが堅く、始めのうちは首を上下に振られてばかりいた。シーズンにはいつから、何となく知らないうちに首を振らなくなりついていけるようになった。自分としては、外方脚を使って推進しながら内方脚を強く使い、内方拳を楽にし、外方手綱を強く持ってやるのが良いと認識している。このあと3種の歩様について移行を入れ、馬場運動あるいは障害へと移った。

フラットワークの課題としては、速歩でのハミ受けを良くし頭を下げさせて運動することである。手綱を短く持っても首を軟らかく使い斜め前方へハミを持っていくようにしなければならない。そういった形にはなるにはなるのだが、そうすると人間の推進不足もあって前進氣勢が失われてしまう。もっと拳を軟らかく、バランス良い騎座が必要であると思う。

一連のフラットワークを煮詰めていくうちに、自分の中でこうしたらいいというシナリオができてきた。このシナリオは、試合前の準備運動を行なう時に非常に有効であった。

○馬場馬術について

北駿は障害飛越の力は充分にあったので、馬場馬術で点を取れるようになることで総合馬として良い成績を取ることができるようになると考えた。シーズン中の馬場馬術のエントリーも北日学の総合の調教審査を意識して、3級馬場のある試合には必ずエントリーした。結果的には北日学の調教審査では1位だった訳で、馬場馬術に関する自分なりの目標は一応達成できたと考えている。

シーズン始めの七帝戦で東大の選手が北駿に乗って3級を回ったのを見て、馬場馬術では前へ出すことが非常に重要であると認識した。が、実際なかなか前へ出すことができず、半澤杯、道自馬と前進氣勢がなく、また馬を沈静させることもできず（これには自分が緊張して堅くなり、あせっていたせいもあると思う）、なかなか点が伸びなかった。公認大会の時は、馬も落ち着いて前進氣勢もあり、学生班で3位だったことで非常に自信を持って北日学に臨むことができた。北日学では駆歩区間が非常に良く、多少頭が高かったが自分としてはほぼ満足のいく結果だったと思う（調教審査は1位だった。）道体では成年総合に出場しオリンピック馬場を回ったが、学生の調教審査とはレベルの差がありすぎて、何回か経路回りはしたものの本番は経路を回るのがやっとだった。ハーフパスなどは、北日学の後1週間ほどで形らしいものを作っただけで真面な点はつかなかった。

国体に出場することになって、国体レベルともなると調教審査の点でかなりの差がついてしまうので障害飛越もさることながら馬場運動にかなり重点をおいた。尋常歩・中間歩・伸長歩それぞれのメリハリをしっかりとつけることと、速歩で頭を下げさせてハミ受けを良くすることの2点に注意して練習した。具体的には、前者は幅の広いキャバレッティーをまたがすなどをしたが、キャバレッティーを取ってしまうと人間の騎座の悪さで馬を押せないため、特に速歩であまりメリハリをつけることができなかった。また、後者については以前から気になっていた点であり本番でもこの点で他の選手と差がつくだろうと考えていたため、福岡に行ってから毎日競馬場の小川さんに見て頂きアドバイスを受けた。その結果、頭を下げてハミを受けることは出来るようになったが、そうするとやはり人間が押せないため前進氣勢に欠けてしまう。拳をいじってしまうせいもあると思う。本番でも首の高さばかり気になって前進氣勢に欠け、イレギュラーをして危うく跛行失権するところだった。

本番の準備運動はそのやり方にもよるが、僕の経験では北駿は運動を始めて沈静して20分くらいが一

番良い状態であると思う。馬場に関して、準備運動のやりすぎは馬が飽きてくるし人間の方もやる事が無くなりそのうち馬との折り合いがつかなくなってしまう。これは、普段の練習でも同じことで、短時間にメリハリをつけた運動を行ない馬の緊張感を高めるといったやり方がベストだと思う。普段からそういった運動をしていると、試合の時もどのように馬をまとめていったら良いかが分かり易いと共に上手く行くと思う。そうなるとフラットワークの運動内容と組み立てが非常に重要になってくる。

北駿は馬体が割と小柄に見えるものの、その動きは非常にダイナミックであり、馬場の時などは審判にアピールするものがあると思う（特に駆歩などは）。だから、馬場の点はその運動の仕方でもまだまだ幾らでも伸びると思う。そうすれば、全国の場でも馬場でさほど差がつかなくなるだろう。

とにかく馬場で点を取るには、まず前進氣勢とリズムを保ちポイントをしっかり回ること。それに頭を下げてしっかりとハミを受けていれば更に点が良くなると思う（当たり前のことだけれど）。

○障害飛越に関して

冬季間は、前述のとおり人間の随伴の練習に徹した。クロスバーの前後2.7mに踏み切りを置いた障害を始めとして簡単なコンビネーション〈クロスバー（5.8～6.0m）垂直（6.0～6.5m）オクサー：カッコ内は障害間の間歩）まで、余り高さを上げずに飛越時には必ずたてがみをつかんで飛越し、随伴の練習をした。人間の練習に重点を置いていたから、駆歩飛越はほとんど行なわなかった。

4月にはいってから徐々に障害の高さを上げていき、駆歩飛越も行なうようにした。半澤杯では中障害にエントリーした。内容はさんざんで、ただでさえ拳が堅いのに人間が緊張してしまい、拳が上下してしまい非常にふらふらとした走行になってしまった。結果は水濺の着水で-4だった。1週間後に静内で井上喜久子杯があり、中障害にエントリーした。この時は、馬を前に出しコンスタントなリズムで飛越するように心がけた。また、初めて北大以外の馬場が出る試合でもあり、馬の馴致と言う面から北日学に向けて今後試合場でどのように馬をまとめていけばよいかを考えるつもりでもいた。試合場の馬場の砂が非常に深く何回か馬が足を取られたりしたが、結局満点で2回目のジャンプオフまで残った。2回目のジャンプオフでは、いきなり1番障害で突っ込んでしまい落下してしまっただけだったが、130cmの正オクサーをクリアでき、高さの点で馬には全く問題がなく、また自分自身の大きな自信となった。この試合では、コンスタントなペースで飛越することが出来たが、障害前で拳でリズムを取ってしまい馬の踏み切りを狂わせていることが分かった。馬の馴致面では特に問題はなかった。

6月の道自馬では、静内での試合の結果と北日学の二回走行を意識して、1日目にスピードアンドハンディネス、2日目にMBにエントリーした。スピードアンドハンディネスは、翌日のMBの馴致を主に考えて無理のない走行を心がけた。結果は満点であったが、前半はあまり馬がピリッとせず踏み切りも近くあまり良い走行とは言えなかった。しかし、120cmまでの障害は完璧にクリア出来ると言う自信は持てた。翌日のMBは2反2落下だった。馬の状態は非常に良かったが、やはり高さが130cmともなると人間の方が緊張してしまい、それが拳の揺れる原因となって2拒止を招いてしまった。

7月の公認大会は、北日学の2週間前ということもあり経路回りを兼ねて標準障害のみにエントリーした。この時は北日学のことを考えて予めの馴致をいっさい行なわず、いきなり試合場へ連れて行って

競技に臨んだ。1回目の走行は満点だった。準備運動も良く、走行中も障害を見て躊躇することは全くなく馴致に関しては合格だった。ジャンプオフでは勝負をかけ、最終障害の前までは非常に良い走行であったが、人間の気の弛みから最終障害のレンガに突っ込んで1落下だった。

北日学を前にして本番と同じコンビネーションを作り練習したが、練習すればするほど人間が飛ばそうという気ばかり先走ってしまい、障害前で追いつきそれが馬に障害に対する自信を無くさせて拒止されることが多くなった。拒止されると人間が焦ってしまい、次に障害に向かう時にまた障害前で追ってしまい拒止されるという悪循環に陥ってしまった。今になって思えば低い障害で速歩飛越からやり直すべきだったと思うが、北日学前という状況が状況だっただけに人間が落ち着きと自信を取り戻すことが出来ず、そうこうしているうちに本番を迎えてしまった。

二回走行の1走目。準備運動でも何回か止まられてしまった。後で思ったことだが、この時もっと馬の気持ちを考え、今まで自分がやってきたことに冷静になり、自信を持つべきだったと思う。結局1番で2回、2番で1回止まれ3反抗失権だった。2走目も3番で失権。非常にショックだった。今年こそはどうしても全日学へ連れていかなければならない馬を失権させてしまい、馬に対して、4年目に対して申し訳ないとともに、これまで自分の練習の支えとなってくれた下級生に非常に申し訳ないという気持ちでいっぱいだった。気を取り直して総合へ臨んだ。調教は1位。あとは耐久のことを考えるのみだった。野外の障害はさほど高くないし、6月に馴致を行なっている上、馬のボルテージが上がればどんな障害でもクリアー出来ると思った。だから1番・2番障害に注意した。が、油断禁物とは良く言ったもので、左カーブからの連続バンケットで使役用の脇道にそれてしまい1反抗、直接向け直して2反抗。これにタイム減点に加わって順位を大きく後退させてしまい、全日学への望みはほぼ絶たれてしまった。余力は二回走行のことがあり非常に不安だったため、準備運動を長屋さんに下で見て頂いた。この時は、前日の耐久の余韻が馬に残っていて、飛びは非常に良かった。結果は2落下。ゴールを切ることが出来た。なぜ始めからこのように出来なかったのだろう。自分が非常に情けなかった。

北日学の後2週間後に道体があった。北駿を出来るだけ良い状態で下級生に引き継ぐことができるかが課題であった。4年目からは無理に競技に使う必要はないとの意見が多かったが、野外騎乗の後の障害飛越は馬のボルテージを上げやすく競技に臨みやすいことと、国体でもよいから何とかして北駿を全国大会の場に出させてやりたいというひとりよがりの考えを4年目に聞き入れてもらい、再び総合にエントリーした。北日学の敗因は、自分の拳の荒さが馬の踏み切りを不安定にさせていることだった。これは以前から言われていたことであったが本当に分かっていなかったのだと思う。馬を元の状態に戻すには、自分の拳を直すことが先決だった。普段騎乗しているときに意識する以外に直す方法はなかった。また、馬に障害に対しての自信をつけるため、低いクロスバーを中心にうさぎとびを組み入れたコンビネーション〈踏み切り(2.7)クロスバー(3.5)クロスバー(5.8)垂直(6.0~6.5)オクサー〉の練習をした。特にコンビネーションではうさぎとびを組み込むことで最後のオクサーの踏み切りが合わせやすく、オクサーにボリュームを付けてもクリアーすることができ人馬の自信につながって良い練習だと思う(最後の垂直とオクサーの間歩を広げたり狭めたりすることで馬を遠くからあるいは近くから飛ばすことができる)。

道体では調教3位、耐久満点、余力2落下で1位だった。馬の状態は、完璧とは言えないがだいぶ以

前の状態に戻っていた。耐久は満点であったが、このときの北駿のスピードとパワーには非常に驚いた。後軀からくる突き上げと障害飛越時のパワーにこの馬の持つ潜在能力というべきものを感じた。余力では人間が踏み切りをしっかりと読み、障害前で拳をじっとさせて馬の邪魔をしないように心掛けたが、後半少しそれを忘れかけていた。にもかかわらずゴールを切れたのは馬のおかげ以外の何ものでもない。

国体出発までの1ヵ月半は、主に人間が踏み切りをしっかりと読んで馬が飛ぶのではなく馬を飛ばせるように努力した。具体的には、道体前に行っていたコンビネーションを中心に9月下旬からは駆歩飛越をおりませて実践的な練習をした。駆歩飛越では18mや21.5mなどのロングの間歩や、7.5mでのオクサー・オクサーのダブルの練習をした。特に7.5mのオクサー・オクサーのダブルは、Aのオクサーの飛込みとそのあとの体の起こしをしっかりと行わないと、Bのオクサーで落下したり止まられたりしてしまう（道体の余力ではこのダブルのBを落下したので重点をおいた）。これらの練習ではいずれも高さを無理に高くしないで行なった（人馬の息を合わせるため）。また10月の月上旬に経路回りを行なったが、このときも高さを110cmまでとし、人馬のコンビの確認をする程度にした。このころには人馬とも以前の状態に完璧に戻っていたし自信も十分だった。

福岡に行ってから調教審査の日まで1週間も日があったので、調整はやりやすかった。初めの2日くらいは多少輸送の疲れがあったが、試合の前までには回復していた。試合の前まで毎日コンスタントに障害を飛んだが、日を追うごとに人間が落ち着いて距離を読めるようになってきた感じがした。馬の方もこれといって驚く様子もなく、非常に落ち着いていてこれが人間の方も落ち着く原因だったような気がする。試合当日には人馬ともベストの状態で臨むことができ非常に嬉しかった。

野外の障害は、高さも低くどの障害も飛んだことのある障害ばかりで、下見の段階ではタイムだけが問題になると思った。本番では水にはいるところで馬が多少躊躇したのが最後まで尾を引いてタイム減点を食らってしまった。水を躊躇したことに関してはちょっとショックだったが、その点以外はまずまずの出来だったと思う。余力では1反1落だった。1落下は垂直の踏み切りが近かったため仕方ないにしても、最終障害で突っ込んでしまい馬体を起こせないために拒止されてしまったのが非常に悔しかった。が、その他の内容、馬のペースは今シーズンでは最高の出来だったと思う。

試合の時の準備運動は短時間にまとめ、飛ぶ障害の回数もあまり多くしない方が良くだろう。準備馬場で馬が汗をびしょりかくほど障害を飛んでいる馬を見かけるが、準備運動はあくまでも馬をリラックスをして障害に行く気にさせるとともに人馬の息を合わせる事が重要で、必要以上に障害を飛ぶ必要は全くないと思う。試合になると人間が不安になりつい障害を多く飛びすぎるが、これは馬を疲れさせるだけだ。こうなると馬場の時と同様に、日頃の練習でいかに試合を意識できるかが重要になってくる。準備運動ができたならば、あとは出番まで常歩で馬を落ち着かせればそれで良いと思う。

この1年間最後まで自分の荒い拳を矯正できず、それが馬に迷いを与えてしまい北日学で失敗したことが非常に悔しい。全日学で活躍できる力は十分にある馬だから、あとは乗り手がじっくり構えて乗り手の練習をすれば必ず良い結果を残せると思う。来年こそは全日学へ連れて行ってやって欲しい。

○馴致について

今年はシーズンにはいってから精力的にあちこちへ馴致に行ったので、シーズン後半は初めての所へ

行ってもおじけづいたりすることは全くなく、非常に落ち着いていた。障害もちょっと変わった障害に向けると多少見るが、騎手が行けと言えば大きくクリアーする。北駿はとにかく人間に対して従順な馬なので、人馬の信頼関係を深めれば深めるほどどんな場面でも人間の要求に答えてくれる。あとは人間が自信をつけることだけが必要となるだろう。

野外の馴致としては、冬の構内駆歩の他に、雨上りの朝に構内へ外乗に出掛けて水たまりをジャブジャブ歩いて水の馴致をしたり、たまに農場を駆歩して緊張感を高めたりして馴致を行なった。(水たまりの馴致をやりすぎて、水濺を飛ばずにそのまま入っていったりして少し困ったが)しかし構内の馴致には限りがあるので、人間の馴致も兼ねて畜大などに行つて実際にスティーブルのコースを走るのも良いと思う(今年は7月の中旬、シーズンの試合の合間に畜大に行つた)。ただしこの時はあくまでも馴致だからやりすぎに注意する(今年は少しやりすぎた気がした)。

いずれにせよ馴致は重ねるにこしたことはないので、シーズン中もコンスタントに行なうべきだと思う。

○馬体について

北駿は両前肢のエビで競走馬からあがった(部報No.32参照)が、今は全く心配ない。シーズン中も試合前などハードに乗り込むと多少熱を持つこともあったが、運動量の調節でおさまった。コンスタントに調子良く乗っている時は肢の調子も非常に良かった。また、熱のある時も水冷を重点的に行い、インテパンなどの薬はできるだけ使わないようにした。これは試合の時などどうしても薬を使いたい時に薬の効果を高めることができて良かったと思う。現在はこれといった故障もなく、肢も丈夫で馬体に何の問題もない。

馬体に何の問題もないと言うことは非常に良いことで、振り返ってみればこの1年大きな怪我もなく、そのために馬休にすることもなく良かったと思う。普段の練習、放牧、また試合(特にスティーブル)の時など怪我がないということは、自分の計画通りに練習し試合にエントリーすることができとても重要なことだと思う。馬に怪我をさせないという気持ちは常に忘れてはならない。そういう意味で北駿の世話をしてくれたサブチーフの下級生たちには頭の下がる思いでいっぱいである。

○馬の躰について

北駿は現在クラブにいる馬の中ではだいぶ大人っぽくなってきてはいるものの、まだまだガキっぽいところもある。接する人によって態度を使い分けているようで、僕なんかは普段から厳しく接しているから、調子にのっている時は少し叱ってやるとすぐピリッとするが、1年目が接している時は、人に対してなめてかかるところがあり、重文に行く時など時々ひきずったりもする。彼に接する時は、叱る時は叱る、誉める時は誉めるという明確な態度を示したほうが良いのではないだろうか。

あれもこれもと書いてているうちに随分と長くなってしまった。たかだか3年半馬に乗った者が偉そうなことばかり書いてゴメンナサイ……

最後に未熟なこの僕と立派な北駿のためにいろいろと助言して下さいました皆様、この場を借りて深く

お礼申し上げます。ありがとうございました。

北駿を全日学へ連れて行けなかった……それだけが心残りであり、北駿にすまないと思っています。

—— 来年こそは全日学にデビューさせてやってください。

北駿もきっとそれを待っていると思います ——

大自然の価値ある休日

乗馬・テニス・ペンション

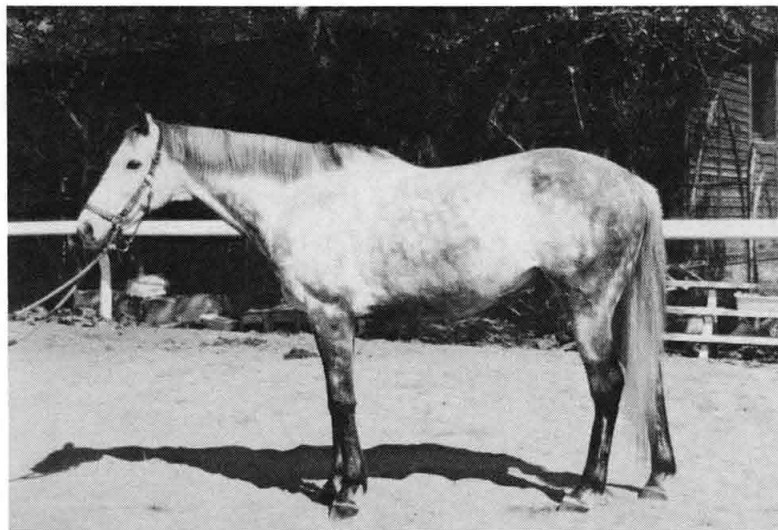
FRONTIER HOLIDAY RANCH

フロンティアホリデイランチ

〒061-33 北海道厚田村しっぶ165の3

TEL (0133)66-3 8 5 8

北 瑛 号



騙 サラ 芦毛
昭和55年4月18日生
北海道勇別郡鷓川町産
父 トレントム
母 ホクエイフブキ
競走名 ニューギャロップ

北瑛号調教報告

真 鍋 い づ み

賞典を目指す馬は北大にいてもよいのか。

障害をとばない馬をどのようにして使っていけばよいのか。

最上級生となり北瑛に騎乗した8ヶ月間のうちシーズン半ばの6月まで結論を出しかねていました。しかし最終的に8月の北日学で学生賞典にエントリーし、自分なりの手ごたえを得、また北大が三種総合で一位になり、わずかながらクラブに恩返しができたのではないかと思います。

調教報告などと大きなことは言えませんが、北瑛と私の試行錯誤の一年間をふりかえてみたいと思います。

①冬から春にかけて

1月から本格的に北瑛に騎乗するようになり、まず感じたのは前進氣勢がないこと、くびをつかわないこと、でした。脚に対して反応が鈍くハミに出ていかない感じであり、脚をつかうとチョコチョコと、あせった動きをしました。そこで冬の間は馴致、体力づくりも兼ねて外乗を多く取り入れ、外で大きく走らせ、運動することにより、寒さによってさらに縮こまってしまうがちな馬の動きを大きく大きく全身を使って行うことを重視しました。また障害飛越も外乗で主に行いました。その結果、前後に対する脚に対してはかなり反応がよくなりましたが、左右の単独脚に対してはまだまだ鈍いものでした。この単独脚の有効な使い方と、それに伴う騎手のバランスはシーズンを通して大きな課題となりました。

②半澤杯（三級馬場、新人新馬）

半澤杯までの練習では、自分自身は特に三級の課目は意識せず、障害練習を中心としました。コンビネーションよりむしろ単品の障害飛越を重視し、より実践的な練習を心がけました。障害をこわがらず、また自分の前にきた障害は飛越するものなのだ、と言う意識を馬に持たせたいと思いました。最も問題であったのは、馬の状態が日によってかなりムラがあること、言いかえればコンスタントにハイレベルにもって行ってやれないことでした。良い日はハコ障害も問題なく、心配していた駈歩飛越での踏み切りも全く問題なく自信をもって向かっていきましたが、調子の悪い日はたとえ低いバッテンであってもためらいを見せました。その違いはもちろんフラットワークからくるものであるし、飛越にしても飛べば良いというのではなく、一回一回いかに良い飛越をしているかを騎手が十分に意識し、チェックしているか、の微妙なところからくるものです。乗りかわって最初の一步をどう歩くか、最初の小さな障害をどう飛ぶかで、馬の気持ちは大きくかわってきます。半澤杯まではそれが十分に意識できなかったと思います。当日も結局馬のボルテージを十分にあげてやることができず、3反となってしまいました。

三級馬場についてはメリハリのついた運動を心がけ、演技として、見せるための馬場を意識しました。つまり、一步目からの確実な伸縮と安定したペース。しかし脚と拳のバランスという点においてどうしても拳が先行してしまい、形を求めてしまいがちになり、口がかたくなり内方姿勢がうまくとれなくなってしまいました。本番では無難の一言。練習以上のことが本番でできるはずはなく、重視していたポイントとメリハリという点では満足のいくものであったが、左右にはかたくなってしまいました。

③道自馬（三級馬場、L級B障害）

道自馬に向かって重視したのは馴致でした。北英にとって今シーズンはじめて北大以外で行う試合でした。障害についてはLBを行うということになり、決着のつもりでエントリーしました。

ひきつづき左右の硬さも残ってはいましたが、道自馬の2週間ほど前から、馬の歩様が大変良くなりました。シーズン通して最もよい時期であったと思います。後軀をしっかりと使った歩き方をしました。この時期北大に来てくださった方、またモモセファームに馴致に行った時など多くの方にアドバイスをいただいたり、時には乗っていただいたりしたことが好影響を及ぼしたと思います。

障害に関しては、半澤杯の時の反省から、日々コンスタントにハイレベルまでもってゆくこと、そのためにさらに馬の動きに敏感になることを目標としました。また練習内容も引き続き実践に即したものと考えました。垂直は良いもののオクサーは苦手、といった問題点はありましたが、半澤杯の時ほど日によってのムラはなく飛んでいました。

道自馬での三級はやはり無難というのでしょうか。しかし馬の歩様の良かったこともあり、結果としてはまあまあのものでした。自分にとって大きな発見があったのは、LBの準備馬場です。駈歩をしていて自分がいつもより意識して体をおこして腰を張った瞬間、馬の動きが全く変わったのです。微妙なバランスのせいでしょうか。ハミをしっかり受けた良い駈歩となりました。この感覚は、後、学生賞典を目指す際大きな目標となりました。障害を飛び始めてもかなり行く気があり、今までにない調子良さでした。しかしいつも苦勞することなのですが、障害に関してはこれだけの時間でこれだけのレベルに持っていけるという自信が持てず、もしかしてうまく行かなかったら、という意識から、準備運動を長く取ってしまいます。今回もそれで、馬にしてみればピークを少し過ぎたところで本番になったような

気がします。もう一つ失敗の原因はスピード。本馬場に入ると馬のスピードは速くなります。馬をフラットにはいけないという意識がかなりあったため、丸めようという気持ちから、馬の行く気をジャマしてしまいました。本馬場に入ると速くなるのは当然で、それは決して焦っていてフラットになるのではなく、行く気がでて歩幅が大きくなるだけだから同じように持っていないといけない、と後から話を聞き痛感しました。自分の障害に関する甘さ、経験の少なさを悔しく思いました。

結局障害に関して北瑛と私に間に決着をつけることはできませんでしたが、あの準備運動の感覚を得たことと、3反の原因をしっかりと把握できたことにより、エントリーしたことを良かったと思います。

④公認～北日（公認：三級、北日：賞典、三級(open)）

道自馬以降、北日の賞典一本に焦点を合わせ、馬場運動に絞りこんで練習を行いました。大勒をつけるのは人馬とも初めての経験であり、試行錯誤の連続でした。二人(?)でつらい思いもしながら苦勞して少しずつ何かものにしていくという感じでした。

まず第一は大勒の馴致。半澤先生、岡田監督の御指導のもと、まず乗らずにとにかく口の中に入れさせることからはじめ、それから放棄手綱でごく短時間歩くこと、少し速歩してみることに慎重に行いました。ただでさえ、馬格も口も小さい馬であり、最初は口の中にあれだけ大きいものがあるということにかなり違和感を持っているようでした。放棄手綱にしていともいやがって口を開けたり、少しでも手綱を持つものなら舌を出したりしました。ハミに対する信頼感を持たせるため、水勒である程度良い運動をし、ハミを信頼している状態になってからつけかえ、また状態によっては大勒の後再び水勒で運動し、気分を直してやるようにしました。また、あまりにも当然のことではありますが、ハミのとりはずしは静かに行うこと、乗っている時以外のコミュニケーションの充実にもさらに気を配りました。

北日に備え、公認の三級は大勒を付けて出してみたいと思い、公認までに大勒を付けた状態で水勒と同様、あるいはそれ以上の動きができることを目標にしました。初めてつけてから手綱を持ち、一通りの運動をするようになるまで約二週間費しました。騎手の側にしても初めてのことでだらけでとまどいの連続でした。最初は日ごろの不勉強から大勒の効果あるいは装着の仕方もあるやふやであり、また手綱の持ち方、強さ、使い方もあてもない、こうでもない馬に痛い思いもさせながら乗っていきました。大勒を付けて最も強く感じたのは、今まで自分がいかに拳に関して鈍感であったかということ。自分がそれまで持っていた脚と拳のバランスの感覚というのが音をたてて崩れてゆく、という感じでした。馬が不慣れで緊張していたせいもありますが、少しでもハミにあてたり引っぱったりすると、口を開け、舌を出し、というように反応があからさまに返ってきて、今までの数倍も数十倍も拳に気がつかうようになりました。道自馬の頃から、馬場運動に関しては、馬が十分に良い状態であれば馬は脚ではなくバランスで動くものであると思っており、大勒をつけることにより、それをさらに感じました。

公認大会まではごく基本的な運動のみを行いました。一応従順に動きはするものの、ハミに対する信頼という点では40～50%しか達成できず、かなり不安を残しながら試合に臨みました。当日も準備馬場でまず水勒で運動し、ある程度良くなってから大勒を装着しました。最初はかなり落ち着いていましたが、本番直前、他の馬が跳ねているのを見て驚いてしまい、それを落ち着かせることができない間に最悪の状態の本番となりました。もともと気の小さい馬で物見をすることもありましたが、いつもならすぐ平静に戻っていましたが、いつまでもそれが尾を引いたというのはやはり馬がハミを信頼して

いなかったからだと思います。おそらく物見をする前あるいは日ごろから、馬は少しずつ違和感や不信感を持ち、物見をしたことはその引き金となったにすぎないと思います。

公認から北日までの一ヵ月弱、この時点で信頼感という点においてできることは、良い状態で良い運動をしてやることであると思いました。やらなければならないことは山のようにありました。三級馬場と賞典では様々な違いがあります。一つめは当然のごとく運動内容のレベル。まず収縮運動。尋常、中間、伸長の使い分け、ハーフパス、ピルエット、そして駢歩踏歩変換 e t c、それらが大変細かく組み立てられています。踏歩変換はできずどうしても一步入ってしまうとか、ハーフパスが完全ではないとか運動課題については問題点は多々ありましたが、残された本当に短い時間の中でできることは、その一つ一つにこだわるよりも全体の流れ、ペース、メリハリをしっかりとすることであると考えました。馬場は演技であり、見せるためのものであるという意識はずっと自分の中にありましたので、まずは全体的なまとまりを重視したのです。流れよく運動するということは、安定したペース前進氣勢、敏感な脚への反応は不可欠であり、それができないとレベルの高い課題をこなせるはずはありません。馬がその気になっていないときに何かを無理矢理教えようとしても覚えるはずはなく、むしろそれによる何らかの弊害もあるはずです。また、どんな単純で基本的な運動をするにしても、必ず自分の頭の中に自分の目指す所のイメージを持つことが大切です。イメージなしでは何も生まれてきません。馬に良い動きを求めてゆくこともできません。練習中は馬の動きに妥協しないで、少し良くてもさらに高い所を頭に描いて運動すること。そして馬としっかり話してしっかりほめてやること。

踏歩変換の練習も多少は行いました。方法としてはバーあるいはキャバレッティ（時には立てて）をおき、駢歩で通過した時変換させる、あるいは斜め手前変換で、またはハーフパスをして蹄跡上で、などを試みました。キャバレッティを使うと上手くいく時もありましたが、自分もどういう扶助が有効なのか明確にはわからず、かなり困難でした。しかし一般的に上記のような方法がしばしば用いられるようです。

三級と賞典の違いの二点目は時間。三級馬場の競技時間はせいぜい5分。つまり5分間緊張が持続できれば良いわけです。しかし賞典馬場ではそのおよそ二倍。実際に経路を回ってみて、馬にしても騎手にしても10分間緊張のピークを持続させることは予想以上に苦しいことでした。ともすれば気がゆるみ、いいかげんになってしまいがちな動きを、馬をはげまし、馬にはげまさされ、頑張っていました。一度経路を回ると息があがり、日ごろの自分の不精進を感じました。経路回りにおいては、先ほども書きましたが歩様の違いを明確にすることとリズムを大切に、踏歩変換についてはできるだけ速歩一步入るだけでできるようにと考え、ポイントの一步前でおこしポイントから駢歩をすぐ出しなおす、というふうになりました。またこの時期、腰の痛みもあってか、左手前の運動（特に駢歩）を少し嫌う気がありました。少し楽にしてのびのび走らせてやることを多くとり入れていきました。経路回りでは特に目立たないと思い、変に意識はしませんでした。

帯広畜産大学に行ってから、馬の精神状態はかなり落ち着いたものでした。昨年北日では、一週間ずっと落ち着かず、飼も食わず、心配しましたが馴致という点でのこの一年の馬の成長に安心しました。試合までの練習で、先ほどの左手前の運動に少し硬い点もありましたが、今さらどうなるものでもなし、特に気にしないようにしました。

当日の準備馬場では、今までにないほどすばらしい状態でした。やわらかいくびとしっかりしたハミ受け、脚への反応。馬も状況を感じていたのか、かなりの手ごたえを得ました。しかし恥ずかしいことに持続させることができませんでした。北瑛は馬格も非常に小さく、そもそもバランスに非常に敏感な馬です。また気も小さな馬です。本番となり、周りの雰囲気も手伝って、馬はさらに緊張した気持ちになります。そのとき良い状態であればあるほど馬の扶助（特にバランス）に対する許容範囲が狭くなるようです。すると経路回りの中で上手く経路をふんでいけばいるほど、騎手のちょっとしたバランスのくずれが苦痛になり、耐えられなくなり、その結果跳ねるなどの反抗となるようです。それをなくすにはどうしたらよいか。まずは人間が上手くなること、当然です。もう一つはもっと肝っ玉の大きな馬にすること。私がつきあった二年の間にも少しは馬は成長し、大人になったとは思いますが、この点においてはかなり本質的なものであり、イザという時のプツンをどう矯正していくかはかなり難しいものです。普段いろいろ馴致に行けば良いというだけの単純なものでもなく、毎日の練習の中でいかにその状態に近づき、慣れさせてゆくことができるかが勝負であると思います。様々な工夫が必要です。結局本番の途中でそのような状態となり、満足のいくものとすることができず、馬にもクラブにも本当に申し訳ないと思います。北日本の馬場のレベルの低さもあり、10頭中5位という成績ではありましたが、はずかしいものです。あと二ヶ月いえ一ヶ月あれば…とありがちなことを考えもしましたが、道自馬まで障害の試合に出させてもらい、その後は馬場に専念し、結果は少しも残せなかったけれど、北瑛と共に歩んできた二年間を本当に幸せであったと今ひしひしと感じています。

北大馬術部という障害中心のクラブの中で賞典に出場したということは、単なるわがままであったかもしれないし、本当に小さいことであったかもしれませんが、とにかくこのシーズンを北瑛と共に悩み、共に過ごしたことを宝と思います。

北瑛騎乗にあたり、御指導下さり、また見守って下さいました半澤先生、岡田監督、畜大OB鷺田さん、そして北大馬術部の皆様に心から感謝致します。

G a l l o p ありがとう。

北 鷲 号



騙 サラ 黒鹿毛
昭和59年4月24日生
新冠町産
父 ノーアテンション
母 ヤマニンアツコ
競走名 ヤマニンウィザード

北鷲号調教報告

伊 藤 顕 治

書きたい事はいくつもあるが、特に必要と思われる事について以下に記す。

- ①クラブ全員で調教しているという事
- ②馬を感じてやる事
- ③馬がわかるまでがまんし、あきらめない事
- ④自分の行うことに対し、自信を持っていどむこと
- ⑤感情的にならず、常に冷静でいること
- ⑥馬に体を使わせること
- ⑦その時その時にあった調教をする事
- ⑧日誌をつける事

思いつくまま書いたらこのようになった。まだあるかもしれないが、思いつかない。これらの事に
いて少しずつ説明を加えておく。

- ①クラブ全員で調教しているという事

言うまでもない事だと思うがあえて書いた。僕の場合は、現役ばかりでなく、長屋さんや加藤さんと
いったOBの力もかしていただいた。具体的にはどうとは言えないが、例えば、自分でわからなくなっ

た時、他の人に乗ってもらい、その感じをきいたり、また、その人の乗り方を見て参考にしたり、自分には馬に対する何らかの不信感があると感じたときには、後輩を乗せて自分がやるレベルの所まで要求したりした。その時はあくまでそうとは言わないで、その人がいつもと同じ状態のできる様にした。また、私自身の希望もあって、あまり下級生をあてないで欲しいとたのんだ事もあった。練習に当たった人のレベルにあわせて、準備運動から整理運動を考えた。4年生ばかりでなく、3年生に対しても「どうして〇〇した」と言うように心がけたおかげで、3年生からもいろいろ意見が出たのは良い事だと思う。他に、「何か1つだけここを見ていてくれ、悪かったら横を通ったときに言ってくれ。」とたのんでおいたりした。他にもあるがわかってもらえると思う。

結局、全員がそれぞれのレベルで全ての馬について考えて欲しいという事だ。私自身はそうして来たし、みんなにも北熊の事を考えてもらえるように、いろんな手を使ったがうまくはいかなかった。1年生も教えられているだけではなく、自分も、例えば馬をどんどん歩かす事ができれば、ウォーミングアップぐらいにはなるし、考えれば他にもできることはいっぱいあるはずだ。チーフになればたしかに目はゆきとどかないかもしれないが、他の馬の横を通るときにちらっと見て、一言言うぐらいはできるはずだ。特にそれがみるようにたのまれていたところなら当然の事であろう。

下級生も自分の思った事は言うべきだと思う。当然的はずれな事もあるだろうが、それは仕方のない事だ。

北熊に乗って一番感じたのがこのことだった。特に協力してくれる人とそうでない人の差をはっきりと感じたためであり、その協力が非常にありがたかったからだ。

全員がすべての事に進んで関わって行って欲しいと思う。

②馬を感じてやる事

これはいろんな事すべてにおいてである。

馬の感情、ばかにしているのか、わからないのか、はみの強さ、脚の強さ、はみや脚に対する反応、注意力があるか、体ががたいか、特に左右のくせはあるか、性格はどうか e t c. e t c... 数えあげればそれこそきりが無いぐらいある。しかし、これらの事を感じとろうとする場合、よほどひどく左右のちがいがあつたら、とか、そういったことがない場合には、乗り手がそれらに対する意識を頭の片隅にでも入れておいて、時々ひっぱり出さなければならない。うまくいかない事があれば、それは何故か、どういう時にそうなるか、など、いろいろと乗っていない時も考えているべきだと思う。

北熊の場合、体は堅く、特に右手前が下手であった。また脚やはみに対しては強くあたると頭を上げる事が多く、けっこう自分でかってに判断してしまうことがよくあつた。北大ではできる事が他所へ行くときほとんどできなくなってしまう。さらに、ちょっとした事でびっくりして本当にドキドキしているの
がわかるほどだつた。北大内ではけっこう人をばかにしたところがあつた。わからないのか、ばかにしているのかわからないこともあつたが、下級生が乗っている場合には、ほとんど完全にばかにしていた。これもこの馬の性格である。

これらの事をふまえて、気持ちはきびしく、あたりは柔らかくと心がけたが、あまりうまくはいかな

かった。もちろん失敗ばかりではないし、馴致によって、かなり他所へ行っても平気になった。

③馬がわかるまでがまんしあきらめない事

特に僕が乗ったころはまだ新馬の部類に入る馬だった事もあって、他の馬ならわかる事でも、北熊にはわからない事がいろいろあったと思う。具体的にはあげないが、馬がまじめに注意を向けているにもかかわらずできない事はそうだとみなして良いと思う。そういう場合にはいらいらして荒い扶助を出したりおこったりせず、すぐに停止してもう一度やり直してやる必要がある。わかってくれるまで何回でもやるつもりでいた方が良い。どうしてもある方法でうまく行かないときは、原因と、対策を考えるべきだ。そして少しでも進歩がみられた時はとにかく良くほめてやるのが大切だと思う。

北熊は基本的にはほめる事を重視した方が良い馬だと思う。しかし、まだ馬も何をすると良いのか、あるいは悪いのかがまだよくはわかっていない。したがって、ほめる、あるいはしかるタイミングをはずさないよう心がけなければならない。ただやみくもにほめる、声をかける、では、馬は何が良いのか、悪いのかわからない。良く知っている古馬なら、ただ馬に馬鹿にされるだけだが、新馬同様の北熊には混乱を招く材料にしかない。

ただし、ほめてばかりではつけあがるので、そうなりそうな時はしかりとばしてやる事も必要だと思う。

④自分の行う事に対して自信を持っていどむこと

人間の感情はどういうわけか良く馬に伝わる。それだからこそ馬に乗れるとも言えると思う。

つまり人間の迷いは馬の迷い、ひいては人間への不信感につながると思う。そうなってしまっただけは馬は人間の言うことを聞くどころか、人を乗せたがらなくなるだろうし、当然コンビネーションどころではなくなるだろう。

あれこれ自信なく考えるよりは何も考えない方が良いかもしれない。しかしこれでは馬が成長することはあり得ない。結局、馬を成長させようと思えば、自信はなくとも考え、考えた事は正しいと信じて行っていくしかない。何も一人で考える必要はなく、「こう思うけど、どうだろうか」と同輩や先輩に聞けばいい。過去の例は正しいことばかりではないが参考にはなる。

自信を持って、信念を持ってやった事は決してマイナスにはならない。たとえそれで成果が得られなくとも、少なくともその方法ではだめだということがわかる。反対に自信なくやった事は良い結果が出るわけがないと思う。なぜなら、やっている本人がそれを信じていないからだ。そういう僕自身、最初は何も考えず、中間は自信なく、シーズン中頃からだんだん正しいと信じてやるようになった。

自分だけではどうしても自信が持てない場合は、相談すれば良い。近くに先輩がいるではないか。

⑤感情的にならず常に冷静でいること

このことについては③のところでも少しふれた。常に冷静でいることは非常に困難だ。感情的になるといってもいろいろある。うまくいかなくてイライラし、バクハツすること。あるいはおちこむこと、試合場、その他の場所でも、頭の中が真っ白になってしまうこと。などなど。

馬からおりてしまえば、そういった事も良い（しょうがない）と思う。やはり、いろんな事があるのだから。しかし馬上の人となった時は、乗り手＝馬の主人である。当然その馬の安全は確保しなければならないし、その馬が他に迷惑をかけることを防ぐのも乗り手の役目である。さらに言えば、乗り手は調教師でもある。

乗ることに夢中になってまわりがみえなくなるなどはもってのほか、馬乗りは後ろも見えている（あるいは感じている）必要があると思う。安全を確保する事は、その馬も安心でき、集中できるし、当然他の人馬もそうであろう。うまくいかなくてイライラするときもあるだろうがそこはガマンのしどころである。目をつぶって一回深呼吸すると良い。おちこんだ時は……おちこむヒマがあったら失敗の原因を考えろ、と言いたい。（あたえられた時間は短い。1年あってもせいぜい3分の2と考えるべきだろう。）冷静でいる事がなぜ必要か。今何が必要かを正しくとらえるために、突発事故に対処できるように、視野を広げて、自分自身を見つめるために、と考えていました。それらの事ができたかどうかはわからないが、少なくとも危険は避けることができたし、他の人馬を見るゆとり、精神的余裕があった事は事実である。

⑥馬に体を使わせること

昔何かのコマーシャルであった。「きたえれば全身がバネになる。」と。馬に求められるのはまさにそのバネであろうと思う。しなやかな動き、高い飛越その他何でも柔らかな体とバネだと思ふ。そのバネも体全体を均等にきたえなければ、その力を発揮することはできない。馬も体ができて飛べる自信があれば飛ぶだろうし、動きも無駄がなくなると思う。人間だって100%の力で何かすることは難しい。100持っているうちの80くらいでやれば楽なはずだ。

体を使わせる事とは、筋力と持久力のトレーニングにつきる。方法についてはみんないろいろ知っていると思うから、特に書かないが、すべて本や先輩方の話、あるいは先輩方の練習方法を見て使えと思ったものばかりである。

ただ、1ついえる事は楽しんでトレーニングはできないという事、冬でも汗をかくぐらいやって当然で、むしろトレーニングは冬の間やってシーズンに備えるものだと思っていて欲しい。

⑦その時その時にあった調教をすること

簡単に言えば、いつまでも同じ事をする必要はないし、いつまでに何をやる、と決めてやるものでもないということ。例えば目標として〇月△日までに何をできるようにする、と決めたとする、この場合、その日より先にできればそれで次に進むべきでその日までその事をしている必要はない。反対にその日までになくてもかまわないわけで、むしろできない事の方が多いと思う。短い時間しかなく、あれもこれもと思いがちだが、そんな事は無理だ。あせってもしょうがない。

あと、日によって馬の調子も人の調子も違うという事を忘れないで欲しい。およそチーフになって1～2ヶ月すればまたがってちょっと反応を見れば馬の調子はわかるものだ。調子の悪い時に無理をしてもしょうがないし、調子の良いときにいつもと同じ事しかしないのはもったいない。但し、人馬のコンディションの調整は、チーフ、サブチーフの仕事だと思う。

ちょっと話は違うが、1日中（練習時間中）同じ事をしていると、馬もあきるので、1日の中に2つ～4つぐらいのメニューを考えておくと良いと思う。

⑧ 日誌をつける事

これは僕自身の反省から来るものです。自分でも覚えていませんが、そうとうたくさん事を考えたのも事実です。今となっては、すでに思い出せず、あとに残してやれなくて後悔しています。また、現役中にも、時々“あの時どうしていたっけ”と思いかえす事もありました。そういった事がなくとも、時々読みかえせば、流れがつかめてやりやすいと思います。日誌はメモ書きでよいと思います。未来の自分への報告書のような気持ちで書いてみてはどうでしょうか。

さて、いろいろ書いてきましたが具体的な事はほとんど書きませんでした。いろいろ思い返して、自分がこうすると良いのではと思ってやった事、あるいはこうすれば良かったのでは、と思うところを書いてみました。細かな反省はほとんど役に立たないと思ったからです。それは、同じ（全く同じ）ケースはないだろうし、そのときの状況によって同じ事が起こっても対応が違おうと思ったからです。僕のつたない文章が少しでも現役に役に立てば幸いと思います。わからない所は手紙でも下さい。できる限り答えます。

最後になりましたが、岡田監督、高野さん、長屋さん、加藤さんには本当にお世話になりました。この場を借りて、お礼申し上げます。ありがとうございました。また他の先輩方や、同輩、後輩にも感謝しています。北熊は僕の人生の何ページかを飾ってくれました。後輩のみんなにもそういう馬があらわれる事を期待して…

1991. 4. 3.

グレンエトワール号



牡 サラ 鹿毛
昭和61年3月26日生
北海道静内郡静内町
父 サクラシンゲキ
母 ホシローズ
競走名 グレンエトワール

横 幕 宏 幸

現在6歳、元気まんまん青春まっさかりである。たぶん馬より人が好きで、以前、エトワールのはなされている放牧地に人が入ると“ポッポッポッ”（あそぼーっ）って鼻を鳴らしながらほおずりをしてき、前足でちょっかいを出し、あげくのはては乗っかかってきました。放牧中彼に近づく時にはきんちようしたものです。そんな訳で、上級生の男しかこの馬に接することができませんでしたが最近では、さまざまなかう（？）もありましたが、最近では、めっきりとおとなしくなったように思われます。

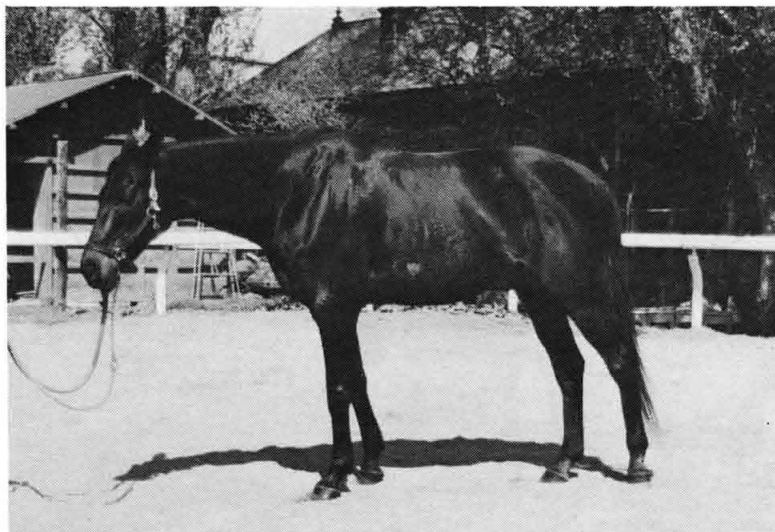
とは、いったもののこの馬もやはり牡馬、曳き馬中物におどろいて立ち上がるなんてことはありませんが（たとえ、横でラグビーをしていようと）雨で馬休になった時の曳き馬などはかなり怖いものがあります。立ち上がる、乗っかかるといったことも、対象が他の馬ではなく、人という点で、人が気を付けてさえいればクリアーできる問題です。

まだまだ子供っぽいところもあり、木の棒をくわえて投げ飛ばしてみたり、かいおけで遊んでるなって思っていると、思いどおりにかいおけをくわえることができないのか、興奮しはじめるなど、この馬を見ててもいっこうに飽きることはありません。

そんなおちゃめなエトワールがはたしてこの先大人になれるのでしょうか。

最後に“エラがはってる”と人は言いますがそんなことはありません。エラではありません。ほっぺたが大きいだけです。

パシオン・M号



騙 サラ 黒鹿毛
昭和56年4月19日生
北海道三石郡三石町産
父 アローエクスプレス
母 スターブルー
競走名 ダイエクス・ピー

パシオン・M調教報告

加藤 ゆうこ

1989.3月から、1991.1月まで、パシオン・M（以下P）の調教担当者ということだったのだが、昨年度の部報には、とうとう調教報告を書かず、今年もさんざん締切を延ばしてしまい、部報担当諸兄はもとより、Pの行く末を常々心配して下さっていた水野さんにも大変申し訳なく、この場を借りて、お詫び致します。

馬から降りて半年以上もたってしまった現在、残念なことに、様々なことはすべて記憶の片隅の方へ追いやられてしまったようだ。また、すでに次の次のチーフに代替わりしているPについてここで2年も前の私の経験談を持ち出しても、時すでに遅しだろう。調教報告とは言いがたい内容であることを許していただきたい。只、私が常に参考にしてきた、水野さん達から送られてきた膨大な資料は、そのコピーを渡しておくので、現役部員はぜひ読んでほしい。

馬に求めることは、柔軟性と、バランスである。このことは、北玲に乗っている頃に教えてもらったことで、Pに関しても変わらなかった。Pは特に、乗馬としての調教が始まったのが、遅かったため、新馬によくある馬体の妙な柔らかさはなかったが、柔軟運動をさせるには、少し堅いような気がした。力で馬を縮めてしまうことは簡単だが、形を求めるとその枠の中で動く馬の動きは、非常にぎこちない

ものになる。馬が自然に体を動かすスタイルを覚えるようなフラットワークや障害練習をするように心がけたつもりである。

運動の基本は、まず頭頸の伸展から始めた。これにより馬体の隅々まで使って動くこと、後駆のエネルギーが、背を通して頸そしてハミまで伝わるように努めた。低伸のスタイルを取った後に、手綱を短く持ち、徐々に馬を丸くしていく。このときに前述のようなぎこちなさが出てきたら、すぐに低伸の基本に戻るといふことの繰り返しが必要だと思う。頭頸の伸展は、Pの場合調馬策で随分とやってきているので、基本に戻るといふことは簡単にできると思うが、バランスバックにより馬を起こしていく段階の一つ一つは注意深く行っていった方がいいだろう。このときに、無理に型にはめようとせずに、例えば障害なら間歩をいろいろと変化させる、平馬運動なら半停止を少しずつ行う、というような工夫をしていけばよいと思う。

年齢的に、調教を急がねばならない状況にあったため、いろいろと端折ってしまったところがある。これは、様々な方向から、馬のソフトとハードにアプローチをしていったということで、いい加減にしてきたという意味ではない。一つのことができるまでひたすらその練習を続けていてはいつまでたっても先へ進めないからである。また、いろいろな要求をすることで、馬により意味での刺激を与えることもできるだろう。多くの要求をのべつ幕無しに突きつけられてきて、かわいそうな気もしたが、彼の能力を思えばこそであった。ただし、ソフトの面でPはかなりてこずったため、当然そこから生み出されるハードのほうもなかなか順調には進まなかった。

彼の独立心はかなり強い。北玲は、人を頼ってくる馬だったため、その差は驚くほどだった。判断力を持っている馬は、時として騎手を助けるが、まだ人との約束ごとが成り立つ前に勝手に判断されてしまっは、もともこもない。信頼関係の成り立ちと共に、解決されて行く問題だが、最初の頃のPは、「俺がこうと言ったらこうなんだ」という意思表示を体全体で示してくるので、本当に困った。しかもパニックに陥った自分にまた驚き、ほとんど半狂乱の世界に入ってしまうので、危険だった。そんなわけで、馴致不足のまま、次のチーフの長屋さんに引き継ぐこととなったが、この点も、長屋さんがかなり改善してくださったのではないかと思う。

Pの特長は、彼の馬体に内在する爆発的なエネルギーと、それとは対称的なガラスのような精神であると思う。どこで、そしてどの様にそのエネルギーを出すかということ、その繊細な神経でもってコントロールできるようになれば（あるいは、騎手がそうさせられれば）全日学で勝負を賭けることは十分にできる馬である。彼が彼たる所以を理解することが、お互いの理解につながるのではないだろうか。

馬は、臆病であるが故に、非常に賢い動物である。そして人の心を見抜くことができる。いい加減な気持ちで接していると、必ずしっぺがえしがくることを決して忘れないでほしい。人とも馬とも真剣勝負でつきあうことが、成功の鍵だと思う。

Pのような馬に乗れたことに深く感謝しつつ、この辺で筆をおくことにする。

明日檜 (あすなろ) 号




騙 ア・ア 栗毛
昭和52年5月23日生
北海道沙流郡平取町産
父 フロルア
母 ギンチョウ
競走名 フロルアタロウ



明日檜号 調教報告

横山 勉

去年、獣医の実験馬から乗馬に返り咲いて九死に一生を得た明日檜号ですが、まだまだ能力に疑問がもたれ、今年の成績次第では再度獣医行きかも知れないと自分に言い聞かせて乗りました。そうは言っても、馬歴もない若干3年目が試行錯誤したところでたいしたことができるはずもなく、成功とも失敗とも判断しかねる1年ではありました。誠に勝手ながら、調教報告は現役のためのものだというのを念頭において書きましたので、だらだらと長い報告になり内容もつまらないかぎりですので、さっと斜め読みでもして頂けたら幸いです。現役の皆さんは、下手くそな3年目が、足りない技術と知識の中でどんな事を考えて乗ったかということで参考になるかも知れないので、暇な時にでもゆっくり読んでください。文中、字数節約のためにも、明日檜号のことを“”と表記しましたので、「アスナロ」または、「シケレペ」「ペー」「ハコダテウマ」「ヘベレケ」などと読んでください。

騎乗面について

チーフとして乗り始めたのは1月中旬で、そのころは何をするにしても落ち着きがなかった。コンビネーションをやれば突っ込んでいくし、手綱を短く持つと、自分の拳が堅いのもあってすぐにかかってしまい、1日の練習中に2~3回は走られて他の馬の運動の邪魔ばかりしていた。落ち着いて運動させるために正反撞で小さな輪乗りをして、しっかり腰を張り、なるべくゆっくりしたペースで、巻き乗り

思うと恥ずかしかった。自分ではもっとましだと思っていたのでなおさらだったし、こんな大荷物を背負ってよく飛んでくれたものだと、曾に非常に申し訳なく思った。よく、体を起こすのが早すぎると注意されていたので、その点は意識していたのだが、全然良くならなくて不思議に思っていた。しかし写真を見て、体を起こすのが早いのではなく、そういう問題の前に、初めから前傾姿勢をとれていなかったことに気がついた。先飛びをしないようにと意識しすぎた結果、腰を後に残したままお情け程度に拳を送っていただけだったのだ。それ以降は、先飛びに注意しつつも思い切り腰を上げて体を前に送るように意識したが、一度付いてしまった癖がそう簡単になおる訳がなく、現在でも随伴が大きな課題となっている。

北日前は全体的に非常に調子がよかった。調教審査レベルの馬場運動は特に問題なかったもので、練習時間のほとんどを障害に当てたが、あまり止まられることはなかった。ただ、野外走行だけは不安だった。前進氣勢をもたす事には全く苦勞しなかったので馬場運動では非常に助かっていたが、野外で走ったらあさつての方向にすつとんで行ってしまうのではないかと思った。実際、農場でスピードの感覚をつかもうとして走るといつもつかかって止まらなくなり、ポプラ並木の方まで走られてやっと止まるといった具合だった。もう一つが水の馴致。中央ローンの川にはどうやっても入らなかったし、下りて曳いて入れようとすると一歩で反対岸に飛び上がってしまい、結局水の中に止めることができないまま臨むことになってしまった。今から思えば、かわいそうではあるが、もっと徹底して何回も馴致しておくべきだった。かわいそうと思って妥協してやめてしまうことが、後々に取り返しのつかないほどかわいそうな運命を曾にもたらすかもしれないということに気がつかなかった。

北日は帯広畜産大学で行われた。試合馴れしたのか、準備馬場では運動ができないほど興奮するようなことはなかった。二回走行の一走目は、意識をしていたもののまだ十分にやる気にさせることができず、また二番障害で反抗された。めちゃくちゃ派手な花段は少しも躊躇することなくクリアしたが、十番のオクサーで二反抗され失権。十番障害は高さも幅もあり、下見でとても大きく見え、人が大きさを意識しすぎて推進が空回りして邪魔をしてしまったのが原因だった。二走目は、曾にとっても自分にとっても、何がなんでも帰らなければいけないと気合を入れ、スタート前に普段以上に意識して大袈裟なくらいに伸縮を行った。気持ちが伝わったのか、二反抗一落下でなんとか帰ることができた。曾に助けられた。

総合は野外走行が全てだった。何度も下見をしたが、じっくりまわればまわるほど自信がなくなっていった。特にスキージャンプや川飛込みは到底通過できる気はしなかった。やる前からそんな気持ちではいけないことは分かっていたとしても、それを振り払うことはできなかった。（調教審査前の泥酔状態といい、耐久審査前の自信喪失といい、馬付きの一年生には迷惑をかけてしまった。）ところが、走りだすと曾は信じられないほど勇敢だった。スキージャンプや川飛込みでは躊躇はしたものの、「行け！」という感じで脚を使うと飛び込んでいった。向け方を誤ったの反抗と、減点区域外ではあったが二回の落馬による大きなタイム減点で、人馬泥まみれになってゴールを切った。終わったときの率直な感想は「すごい」の一言だった。風を切る走行と障害のスリル、そして曾の力強さと勇敢さにとても感動した。自分がもう少し冷静に誘導してついていってやれたら減点がだいぶ減つただろうと思うと曾に申し訳なく思った。そして、「人馬一体」とはこういうものなのだろうか、というものを感ずることができた。

翌朝の馬体検査では、外傷もなく、他の馬に疲れが見えるのに対してピンピンしていて全く問題なかった。余力審査は下見をしていて余裕だと思った。二走や野外の経路を飛んできて、こんな経路を曾で満点で帰れない訳がないという気さえした。人の誘導ミスでつまらない減点がないように、下見はどこを目標にして回転したら障害にまっすぐ向けられるかに注意して念入りに行った。本番も、下見のときの注意点を冷静に思い出して、ほぼ予定どりのコースどりで満点で帰った。しかし、余力の満点よりも、耐久をボロボロになりながらも帰ったことの方がずっと嬉しかった。北日全体としてはたいした成績を残すことはできなかったが、人馬両方にとって大きな自信を残すことができた。

曾は試合に出てはいても登録がまだできない状態で、あくまでも乗馬ではなく、権利のかかった試合にはオープンでしか出ることのできない馬だった。全日学を目標にできない以上、クラブ全体の目標は全日学であるが、その他に、道内で曾の名を広めて能力のある良い馬であることを示し、来年こそは一人前の乗馬にしてあげて自分を自身の目標にしていた。そのためには北日で終わってしまうのではなく、道体にも出て学生以外にも能力を示したかった。しかし、わがままを言って総合に出させてもらいながら、耐久審査の水濺で失権をした。明らかな馴致不足で、口だけだったことを恥ずかしく思い、折角の舞台で曾の能力を自分のせいではじめで示せなかったことが非常に悔しかった。せめてもの救いだったのは、余力に出させて頂いて、出場人馬中唯一の満点だったことだった。負け惜しみではあるが、普通の障害の経路なら満点で帰れるという自信があったし、曾を信頼していた。

シーズンを終わって振り返ると、自分はしっかり腰を張ってしっかりと脚を使うことを覚え、曾は落ち着いて運動をし、騎手に注意を向けることを覚えた。現在の状況としては、馬場運動ではいつでも前進気勢があり、しかも騎手の扶助には素直に反応するのでとてもやりやすい。ただ、銜受けは悪く（大部分が人の問題であるが）、拳がきつくと頭を上げたり、推進が足りなかつたりすると巻き込んで動かなくなる。腰を張ってつまった運動ができていれば、シンプルチェンジや駆歩からの停止もでき、三級や学生の調教なら問題ない。障害ではボケていて逃げることはあっても、深癖症のためか落下させることは殆どない。下手くそな3年目でこれだけできたのだから、やる気にさせてしっかり誘導し、人が馬の邪魔をせずしっかりとついていってやれば、MCやMBなら絶対帰れると思う。ただ、前に出ているからといって馬なりに走らせるのではなく、しっかりと脚を使わないと本当にやる気にさせることはできない。L級くらいなら、走るのを抑えることさえできれば下級生が乗っても満点で帰る。やり残してしまったことは水の馴致で、これは殆ど手付かずの状態、無責任な言い方が地道な努力が必要だろう。8ヵ月ほどの付き合いだったが、曾の能力を十分に引き出してあげられなかったのが非常に残念だった。来年も引き続いて曾に乗って全日学へ行くのを冬頃まで夢見ていたしその自信もあった。しかし、団体競技である以上、そして最上級生である以上、クラブ全体のことを考えればわがままを言うことはできなかった。曾も14歳、いくら丈夫な曾でも元気なのはあと2～3年だろう。その間に、一度でいいから、わがままで寂しがりなくそ爺いを東京へ連れて行ってあげてほしい。その能力は十分あると信じている。

騎乗面以外について

練習では、全馬常歩までに運動を終わり整列をしたらすぐにあげると決めていた。曾の身になって考

えれば、全馬常歩が練習の終了を示すもののだということくらいは分かっているだろうから、そのあとまた運動をするのは騙されたようで苦痛だろうと思った。しかし、シーズン中、特に試合前はそんな騎乗事は言っていられないこともあり、そんな時は整列後も運動を続けた。但し大前提として、練習前にその日の時間配分を考えると、整列後も運動することを決めていた。整列までに終わろうと思っていたが、下級生を教えるのに熱中してしまったり自分がうまくいかなかったりして運動時間を延長するというような事はしたくなかった。如何なる事においても、如何なる理由でも、自分の失敗のしわ寄せを曾に向けたくなかった。少し位その日の運動を良い感じで終われなくても、翌日まで尾を引くような馬ではなかったので、そうするくらいなら、自分が乗る時間が5分になってしまっても自業自得と考えて整列できっぱりとその日の練習はやめた。これが果たして好影響を与えたのかどうかは知る由も無い。

昨年同様今年も登録できないことを知り、前述のような目標を掲げた訳だが、その為にはまず試合でそれなりの成績を残し、部内での曾の地位を向上させ、また、部員に好かれる馬にしたかった。試合では、同じ競技に出る部馬に対してはかなりのライバル意識を持った。結果として曾の評価が少しは上がり、来シーズンはエース馬の仲間入りができる事が僕の唯一の業績かもしれない。今になって思えばこだわり過ぎだと思うが、負け惜しみだとも思うが、権利を取ることを目標にできない以上、このようなことを考えるしかなかった。

気を引かせるような馬にする為にもいろいろなことをした。引き綱を今までには無い傾向の目立つ色にしたり、プロテクターや鞍下や手入れ袋に工夫をしたり（サブチーフには多大な協力をして貰い大変嬉しかった）、外厩に隔離されたときには、サブチーフ以外の部員も見に来るように外厩の壁に工夫をした。もともと、そういう事をするのが好きだったので結構楽しかった。

しかし、下級生に対する印象は良くなっても、それぞれ自分の馬をもった上級生に対する印象はなかなか変わるものではなく、何度か悲しい思いや悔しい思いをした。今さら掘り返しても仕方の無い事が敢えて現役の為に書くと、一つは、新馬が入って一頭外厩に出さざるを得なくなった際に、理由も聞かされずに、当然の如く曾がその一頭にされたことがあった。馬体的に弱い馬やエース馬を出したくないと思うのは仕方がないし当然とも思う。しかし、曾は嗜みついたりするが、さく癖や熊癖などの悪癖は持っていないし、馬一倍寂しがり屋であることは分かっているはずなのに、さらに一頭でいても全く平気で馬体的にも特に問題無いと思われる馬がいるはずなのに曾が出されたということは、まだまだ曾は部内において、どうでもいいとは言い過ぎだが後回しにされる馬なのだと感じられて残念だった。

また、曳き馬中に何かに驚いたかで某エース馬を蹴ってしまったときに、何の前置きも無しに、「明日檜は絶対に近付けないこと。」などという掲示がデカデカと貼りだされ、危険馬の扱いをされたこともあった。折角、だいぶ印象が良くなってきていたときだったのに、それ迄の努力が水の泡になるようなことが起きて非常に悔しかった。この問題に限らず、馬同志が蹴りあったとか、暴れて怪我をしたというようなことを、加害馬であろうが被害馬であろうが馬のせいにするのは論外だと思う。馬という動物は、もともとは一日中仲間と一緒にいるのが本来の姿であり、そこからこのような特殊な環境に引っ張り出してきたからには、それ以後に生ずる問題は全て人間に責任があるはずで、それを馬のせいにするのは責任逃れだと思う。馬にとっての本来の姿と現実とのギャップを意識し、こういう状況にしてしまったからには何をしてあげるのが馬にとって一番の幸せになるのかを考えて可愛いがるべきだと思う。

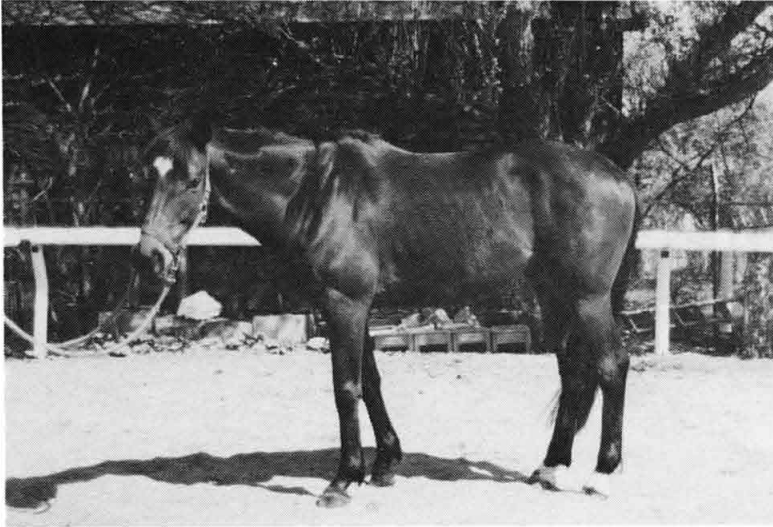
話が抽象的なことに飛躍してしまったが、最後に、つきあってみて気付いた事について。容易に想像できると思うが、曾は曾・窓のたぐいは大の苦手である。今年は良かったが来年は北日が北里なのでその辺のことも考える必要がある。しかし昨年の北里の北日では、3年目（福庄さん、根井さん）や2年目（自分）が乗って、馬場でも障害でもそれなりの成績を残しているのに、苦勞はするだろうが大丈夫だと思う。もし失敗してもそんな事で曾や曾のせいにはできない。全部人間の責任である。

馬添いはいいと思う。北日のときに夜中に寝返りを打って、あの馬添いの悪い？北銀の馬房にお邪魔してしまったが、何事もなく一夜を共に過ごしてしまったくらいだから問題ないだろう。馬体的には、14歳という年齢にもかかわらず至って元気で、疲れを知らないのではないかと思うほどである。ただ、皮膚が非常に弱い。春に、血行障害だったのを感染症だと思いこんでリバノール水冷を一晩行っただけで、管全体がひどい繁腫のようになり、皮膚がボロボロになって完治するまでに3週間くらいかかってしまったことがあった。もう一つ絶対に忘れないでほしいのは、曾は外見と性格に似合わず極度の潔癖症であること。その潔癖たるや、練習中障害に向かっているときにさえボロは立ち止まってしようとするし（これは困ったものだが）、体にボロを付けていることもまずなく、馬房でも隅に綺麗にボロを積み上げる（曾の精神的、健康的状態を把握するのに役に立った）。その為、夏は前日の汗でびっしょりの臭いボアゼッケンは嫌だろうから、鞍下を入れてそれを頻繁に洗うようにして、馬具を含め、馬体及び馬房周辺は曾の身になったことを考えて清潔に保つようにしていた。この点、何らかの対処すべきだと思う。要はどの馬の場合でも同じだと思うが、馬の身になって、その馬がより気持ち良く運動でき、生活できるような環境を作ってくれればいいと思う。信じて尽くせば必ず応えてくれる馬である。

後半は随分生意気なことを書いて申し訳ないと思いますが、シーズンを通して三年目として考え感じたことを、曾のチーフとしての思い入れを中心に正直に書いたままであり、あくまでも現役部員に対して、教訓・参考として言っておきたいだけです。敗者の屁の突っ張りだと思って御容赦下さい。自分でもこだわりを持ち過ぎたと思うときもありましたが、若しシーズンが終わったときに、曾が性格も悪いし試合でも失権ばかりでちっとも役に立たない馬だという印象を部内で持たれていたとしたら、乗馬の登録どころか曾の命に関わってくるのだと思っていたからこそこれだけこだわってきたのです。それにしても、権利を取る資格の無い馬に3年目が乗るという形だった為か、プレッシャーもそれ程感じることなく自由に乗ることができ、人馬共に大きく成長することができました。岡田監督をはじめ、シーズン中熱心に見て頂いたOBの方々や、このような機会を与えてくれた上級生に感謝致します。そして曾ちゃん、泣いて笑った楽しい一年をありがとう。

新馬紹介

ファストバロン号



騙 サラ 鹿毛
昭和61年3月8日生
浦河郡浦河町産
父 スイフトスワロー
母 インターブロッサム
競走名 ファストバロン

ファストバロン号新馬紹介

平山潤子

競馬ファンの人ならだれもが知っていたという“ファストバロン”。菊花賞にもでたことがあるほどの実力者でしたが右前繋を骨折してしまった為、OBの本城さんの御紹介で北大に来ることになりました。平成2年4月7日入厩。急激な環境の変化についていけなかったのでしょうか、入厩したての頃は馬房の中で暴れることもしばしば——。朝の練習中にいきなり厩舎のほうから“ドンドン!!バンバン!!”音が聞こえてくると思ったら、彼が馬房の中でピョンピョンととびはねていたのにはびっくりしました。あわてて裏戸を閉めに行ったのを覚えています。そんな彼も時がたつにつれ落ち着いていき、昼間などにはよく馬房から顔を出してポーッと外を眺めていました。（一体何をみているのだろうか?どきな事を考えているのだろうか?）彼の表情をみればみるほどそういった疑問がわいてきます。いつもどこか遠くの方を見ているような不思議な魅力をもった瞳をしています。ポーッとしてとても穏やかどうにも見える半面、実はものすごく繊細でカンの鋭い馬です。まだまだ幼い面があちこちに見られますが心身共に成長して北大の主戦馬となってくれると思います。

北 遥 号



騙 サラ 鹿毛
昭和62年4月17日生
浦河郡浦河町産
父 ベストブラッド
母 カワチカホ
競走名 ベストエンゼル

北遥調教報告

前 田 武 己

昨年8月の末、堀川主将より依頼を受け、騎乗することになった。当初、3月迄ということであったが、私が札幌勤務となり、6月より再度、騎乗することになった。

北遥は昨年7月27日、札幌競馬場より入厩した。4歳1回出走し11頭立て10着であった。競走馬としては、今ひとつということで大北に来ることになった。8月の印象としては、食べさせてもらっていないかということ、骨と皮だけであり、いかにも頼りなさそうであった。個人的な趣味の問題はあるとしても、顔つき、馬体、いずれをとっても、非常に幼そうだと感じた。

肢には大きな問題はなく、きれいな肢をしている。これは、競馬に使っていないからであろうが、この状態を、保っていけるかどうかは、今後の運動、馬体管理にかかっている。

この1年間は、シーズン末の試合に間に合えばラッキーという感じで（無理をせず、あくまでも馬の変化を見ながら）運動を組み立てた。

発進、停止、減却、伸縮（加減速）、方向転換といった基本運動と、コンビネーションを中心とした障害飛越を行った。現在、三種の歩度の移行、伸縮、回転、いずれも、こなせはする様になって来ているが、まだ動きがかたく、満足のいく状況とは程遠い。騎乗し初めの頃は、巻き込んでどうしようもなかったが、3月に水野さんが来札されたのを機会に良化し、4、5月、横山君の騎乗で、かなり解消した。今はこれを、ハミにとりつかせる、受けさせるという段階ではないだろうか。障害は、1ストラ

イド、2ストライドのコンビネーション（単一、OXER）を中心に行ってきた。飛越も力強くなり、フラットワークのほうも、駈歩運動が出来る様になってきたので、これからは駈歩での飛越、コンビネーションを中心とした小経路、様々な障害への馴致に取りかかろうというところである。アプローチからバスキュールへの移行ではまだなめらかさに欠けるし、肢の引きつけも不十分であるが、障害を良く見て飛ぶところ、バスキュール、潔癖症はこの馬の良いところである。馴致では、多少、手を焼くことがあるかも知れないが、大切に育てていけば、案外良い馬になるのではないかと期待している。

最初の印象で幼さを感じたと書いたが、実際のところ確かに彼は幼かった。この1年間この幼さへの対処が大きな問題であった。馬にしてみれば、何度も競馬に使われ勝ち負けになるレースをくり返してきたチアフルやエトワールにはかないませんよとなるのだろうが、これでは困る。現在は、彼も更生中である。

さて、これからの1年、やらなければならないことはいくらでもある。今シーズン中にデビューできるかどうか微妙だが、無理に帳尻を合わせるものでもないので、あえてこだわってはいない。試合に行く前に、もう少しフラットワークをていねいにできる様にならなくては、経路は回ってこれない。さまざま障害の馴致も行わなくてはならない。やはり大切なのは、結果のみならず過程しかりだと思う。この辺りで誤ると、肉体的にも精神的にも、馬にダメージを与えることになると、絶えず自分自身で反復している。周りから見れば、歯がゆいこともあろうが、あくまで馬と相談してのことで、自分に可能なレベルで進めないと失敗すると考えている。

最後に、この1年間、やってこれたのは、4年目、またサブを中心とした、現役の皆さんのおかげです。また、色々迷いが出たときに、長屋さんには適切なアドバイスをして頂き、いくつものステップを越えることができました。

この1年、本当に有難うございました。

北楡号離廐報告



中戸川周子

新しい代に変わり新たな活気に満ちた9月4日、北楡号は百瀬ファームへと出発しました。試合や馴致とは違って北大の廐舎へは帰れない旅立ちでした。

現在、百瀬ファームで館谷さんをはじめとする女性数人の持ち馬になって暮らしています。特に館谷さんは毎朝熱心に馬場馬術の調教を進められているようで、今後の競技会での、北楡号と館谷さんの活躍を期待できると思います。

7月に札幌競馬場の小川さんから‘初心者でも乗れる性格の好い馬’と新馬との交換の話があり、最上級生と次の代で、どの馬を離廐させるかについて、時間をかけて話し合いました。その結果、北楡を離廐させることとなりました。

北楡には金田兄の後を引き継いで、2年連続で私が乗りましたが、せっかくの北楡の能力を、乗り手の致たらなきのために無駄にしまいました。

この悪例を語り継ぎ、全日学での活躍を目指す北大馬術部での、新馬調教、主戦馬のトレーニング、乗り手の技術向上を兼ねた練習法、馬配の決め方、部のあり方などについて考えてみる必要を感じます。

最後になりましたが北楡調教にあたって、OBの長屋さん、OGの加藤さん、OBの仲村さんには大変お世話になりました。そして金田さん、申し訳ありませんでした。

ポッチ、ごめん。

北 楡 号 戦 績

S 6 3	10. 9	山 下 杯	L 級	金 田	失 権	
	10. 23	O B 戦	小 障	金 田	- 4	
H 1	7. 8~9	国体選考会	成年2部三級	仲 村	262	
				中戸川	244	
	8. 4~7	北 日 学	三 級	中戸川	292	4位
			新 人 新 馬	仲 村	失 権	
	10. 14~15	道 自 馬	三 級	堀 崎	275	15位
			新 人 新 馬	長 屋	失 権	
	10. 21~22	障害選手権	ジムカーナB	仲 村	47" 87	
			L 級 B	仲 村	- 4	
				長 屋	- 8	
	11. 19	O B 戦	L 級	堀 崎	失 権	
				中戸川	失 権	
H 2	4. 6~7	七 大 戦				
	5. 5	半 沢 杯	三 級	野 田	189	23位
			小 障	野 田	失 権	
	5. 13	井 上 杯	シニア障害	中戸川	- 0	OPEN
				祝 前	- 0	OPEN
	5. 20	NHPステークス	初 級 障 害	中戸川	失 権	
	6. 23	道 自 馬	三級(一般)	堀 崎	316	10位
			L 級 B	中戸川	失 権	
			新 馬	中戸川	失 権	
	7. 21~22	公 認	三級(学生)	中戸川	309	17位
			二 段 階 障 害	中戸川	失 権	
	8. 8~12	北 日 学	三 級	中戸川	297	11位
				外 山	279	16位
			新 人 新 馬	中戸川	失 権	
	8. 25~26	道 体	三 級	福 庄	325	12位
				高 村	288	20位
			L 級 新 人	福 庄	失 権	
				堀 崎	失 権	

東京OB会だより

1991年の夏から秋にかけての関東地方は、台風と前線により青空を上げたのはほんの数日でした。全国のOBの皆さん、現役部員の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。東京OB会の近況をお知らせ致します。

I. 平成2年度の活動報告

今にも泣き出しそうな雲の中、何とか乗馬会は行えたものの、夕方には本格的な雨模様となりました。そうです、今日は東京OB会で最も楽しみな観桜会の当日なのです。前代未聞の観桜会雨天中止かと思つて会場予定地に行ってみると、そこには2張りのテントがあるではありませんか。千葉先輩のご配慮で雨中のすばらしい会場が出現したのです。しかし、参加者は集まるでしょうか？ご心配なく。そこはさすが北大馬術部OB、三々五々、暗闇の中に傘が現れ、東園会長とラム肉も無事到着。例年通り、いや、例年以上に、思い出深い観桜会となりました。

(4月22日、馬事公苑、参加OB27名、家族等をあわせると約50名)

今年の新年会で話題にのぼった御料牧場バスツアーが、初夏のさわやかな日曜日に実現しました。早朝の丸の内を、若手のH君がついに現れなかったというハプニングがありましたが、貸し切りバスにて出発。広大な御料牧場を見学した後の、お昼のジンギスカンは忘れ難いものとなりました。来日した某国大統領のお口に合わないとかで、最上のラム肉が我々に回って来たのです。牧場の皆さん、そして東園会長、どうもありがとうございました。

(5月27日、那須御料牧場、参加OB26名、家族等をあわせると約50名)

現役部員と馬たちを迎えての秋の懇親会は、即位の礼に関する警備強化のため中止せざるをえませんでした。残念でした。それでも応援に駆け付けたOBは、現役部員の活躍に拍手を送りました。来年もみんなで来いよ！

(11月10日、馬事公苑、中止)

平成3年の新年会は、2月17日に行われました。簡単な総会の後は、それぞれの昔話や近況報告に移り、お酒が入って盛り上がるころには今年には北海道ツアーでもやろう、という話も飛び出しました。

(2月17日、ホテル高輪クラブ、出席OB26名)

II. 事務局より

東京OB会では、乗馬会・観桜会（4-5月）、現役部員との懇親会（11月）、総会・新年会（1-2月）を定期的な会合として活動しております。関東地方以外のOBの方もこれらの直にこちらへ来られることがあれば、お気軽にご連絡ください。また、東京OB会の活動について、ご意見、ご要望などがございましたら、事務局までご連絡ください。

OB会のもう一つの大切な目的は、現役部員の応援・援助にあると思います。この件に関しては、十分な活動が行われているとは言えません。東京OB会員のみならず、全国の、特に札幌在住のOBの皆さんのご意見、そしてなによりも現役部員の要望をお待ちしています。

北大馬術部東京OB会

会長 東園基文

幹事長 樋口正明

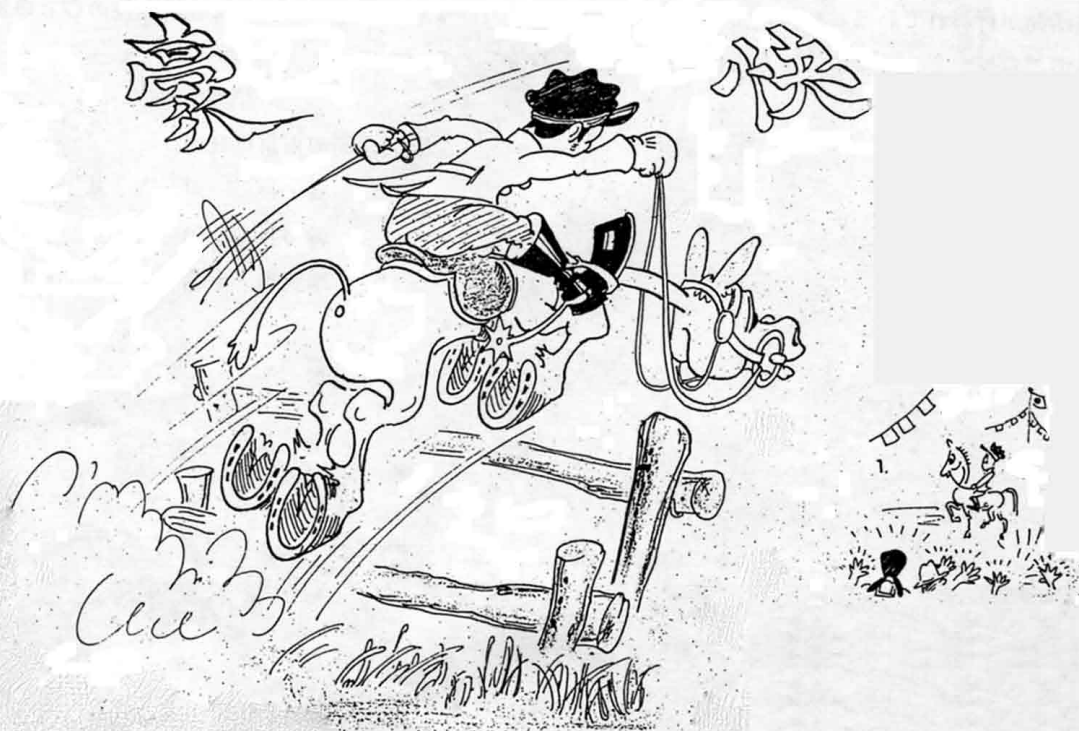
（記 事務局 名越正泰）

雨でもこの通り（観桜会、馬事公苑にて）



特 集

一冊のアルバムから



平成2年の忘年会において、和田晴さん（S22年卒）が昭和初期の北大馬術部についての大変貴重なお話をしてくださいました。当時の記録がほとんど失われている時期でもあり、記録を残すことの必要性、また、とても興味深いその内容を、その場にいた私達だけのものにするのを勿体なく思いましたので、文章にまとめていただき、掲載することと致しました。また、当時の貴重なアルバムをお貸しいただき、その中からイラストを抜粋、掲載させていただきました。

ご協力をいただきました和田さんに、この場を借りまして深く御礼申し上げます。

一冊のアルバムから

S 2 2年畜産 和田 晴

§ 序にかえて

12月20日、北大馬術部の忘年会に本当に久しぶりと云うより、卒業以来と思われる位に出席をした。正に浦島太郎の心境で右を見ても左を見ても見知らぬ人の中に取り囲まれて……と行って行ったところ、先輩の岡田光夫監督、福岡邦泰先輩を始め、斎藤部長他部員諸君も暖かい雰囲気の中で、和やかに歓談、さすが馬を通じた共通感と、北大馬術部の一貫して流れる伝統を感じた。

一人づつ挨拶をと云うことになり、部活動に対する御無沙汰のお詫びを兼ね、戦争中から終戦、戦後の北大馬術部の活動状況を報告したところ、何分にも40数年前の、現役諸君にとってはこの世に生を受ける20年も以前の話で、隔世の時代、しかも部の歴史としてはブランクの時代の話として非常に興味をもって聞いて呉れた。

会が終わってから幹事の方から是非今の話を部報に載せたいとの申し出があり、戦中、戦後の混乱期に、北大馬術部がその伝統を継ぐことが出来ずに中断をした当時の状況を、何かの形で残すためにも意義があると考え、引き受けることとした。

然し、いざペンを執り紙に向かうと、当時の記録は実家の火災で消失しており、わづか一冊のアルバムの数頁が残されているのみで、記憶を呼び起こし乍ら当時を偲ぶ、誠に頼りない話となってしまったが、勇を鼓して、残された記憶をもとに、思いつくまゝに断片的なエピソードとして筆を進めてみようと思う。時間的な系統立てた連がり、事実の多少の誤り等のご寛容を頂きたい。

§. 戦時中の馬術部の活動

昭和17年、私が予科に入学した時は、既に前年12月8日、日米開戦後5ヶ月、国内は戦時体制一色の時代となっていた。

入学して間もなく兄の親友で中学の先輩大手さんに勧められ、馬に触れたこともない私が馬術部に入部をした。これが私の人生を大きく方向づけしたことになった。

当時の北大馬術部は、桜星会騎道班として活動しており、全国に覇を唱えた北大馬術部黄金時代の余韻が強く残り、太奏部長、半沢先輩を始め、未だ角帽の岡田、大戸、稲葉、福岡、大手先輩がづらりと顔を揃え、予科の先輩には羽島、小林、故安達、木全、宇津見、山崎等直接薫陶を受けたお丁々の名前が浮んでくる。また、一緒に入部した仲間として、(故)本庄、宮崎、(故)岡本、(故)大西、紺野、久保、田辺、永田、加藤等多彩な顔ぶれが揃っていた。

練習は、月寒の北部軍司令部及び、六三部隊の将校用乗馬を借用、土曜日の午後、日曜日の午前が練習時間に当てられ、直接先輩及び軍の教官から厳格かつ充実した指導を受けた。

入部したとき、(故)本庄は神戸一中、宮崎は大連一中の中学時代から乗馬経験をもっており、馬は初体験の私にとっては、彼等が先輩に伍して馬を乗りこなしている様は、羨望と、もに大きな目標とな

った。少くとも彼等と同等の技術をマスターしてインターハイ出場を目標とした闘志をかき立てられ、おかげで、月寒の部隊の訓練、夏休み、冬休み、春休みの一週間づゝの旭川5部隊（騎兵連隊）の合宿の他第一農場などの乗馬練習は一日も欠かさず馬に熱中した。

月寒部隊の練習の思い出を呼び起こしてみると、当時は戦時下のため小樽、岩見沢間の学生は通学区間として入寮は許可されず、汽車通学を強いられた。そのため日曜日の練習には小樽発5時半頃の列車で、小樽で仕入れた魚の入ったガンガンを担いだおぼさん達と一緒に札幌に向かい、札幌駅から北12条にあった石狩寮迄徒歩、寮の窓をたたいて紺野を起し、彼の食事を待って市電で豊平駅迄、更に徒歩で約30分で月寒の部隊の営門を潜るのが8時30分頃、そして9時から12時迄の3時間びっしりが我々の練習時間であった。

また、旭川の第五部隊の合宿は、一週間営舎内に宿泊、1人2頭の馬が割り当てられ、朝夕の飼い付け、馬体の手入れを行ない、午前、午後各3時間が乗馬練習の時間として、覆馬場での馬場馬術、障害馬場での障害飛越のほか、練兵場に出るの野外騎乗、時には近文台迄の遠乗など、内容の充実した訓練が、熟練した下士官の担当教官から直接熱を入れた指導のもとに行われた。真夏の酷暑の中で、人馬共汗まみれになった後の馬の手入、-10度を越す手足が痺れる程の厳寒の中での野外騎乗など、辛い苦しかった思い出が、今では、練習のあと教官の計らいで、酒保で食べた羊かん、まんじゅう等と同じ位の甘い楽しい思い出として残っている。

当時のお世話になった今津中隊長は、自分で考案した銜を使って、次のオリンピックに出ると自慢をしていたが、その他の親切に指導をして呉れた教官の皆さんも、その後戦争の中でどうされたか、知るすべもないが、私にとっては貴重な体験の思い出として鮮烈に残っている。

8. 故大西誠一君の思い出

共に予科に入学し、馬術部員として苦楽を共にした仲間のうち、若くして故人となられた安達先輩、本庄、岡本君がおられるが、特に大西誠一君のことは忘れられない思い出である。

大西誠一君は、京都一中時代ボート部に籍を置いたと云う、がっしりとした体躯の快濶な男で、好きな酒を飲むと談論風発、彼の周囲は常に笑いに満ちていた。

昭和19年、南方戦線が熾烈となっていた時、樺太の国境線近くに飛行場を建設するため予科生に動員がかゝった。

7月末だったか、稚内埠頭から稚泊連絡船で樺太に向った我々は、行先も知らされず大泊の港から直接列車に乗って北上、列車の窓には全部ブラインドを降して外界と遮蔽するよう命ぜられた。わずかな隙間から見ると、黒々と焼け焦げた木々が林立する丘陵と小高い山なみが、たゞ延々と何処迄も続いていたことを憶えている。樺太では、下草がツンドラの厚い層で、一度山火事が発生すると何時迄もツンドラが燻り続け、一旦消えたと思われた火が再燃して燃え続ける、と云う話をその時間かされた。

果てしないような旅の末、我々が着いた目的地は、当時の上敷香から更に北、国境線から僅か30～40kmの気屯と云う処だった。見渡すかぎり疎林とツンドラの他何もない、北に聳えている1000m程の山からは、ソビエトとの国境線とソ連領が見渡せるとのことであった。その昔、女優岡田嘉子が、杉本良一と手を取り合って亡命した国境線は、このルートであったと聞かされた。

この気屯に駐留していた軍の指揮下に入って飛行場建設にかゝったのであるが、指揮を取る連隊長の乗馬を見て、思わず、“六三部隊だ”と叫んだ。何と、将校乗馬は皆月寒で我々がなじんだ馬だったのだ。何という奇遇か、それからの約1カ月の作業期間は、懐しい馬達との再会を通じて特に兵達と親しくなり、作業の合間には羊かんを食べ乍ら歓談したり、時には酒を汲み交したり、毎日の生活が非常に楽しくなった。

そんな日が続いて作業も後半に入ったある日、突然の悲劇が起きた。大西誠一君が、不寝番の夜、兵隊と歓談している時突然心臓麻痺で倒れ、看護の甲斐なく急逝したのだ。夏とは云え日本の再北端の極地で、夜間冷え込みの激しい特殊な気候の中での連日の作業と、馴れない幕舎生活からの疲労が重なり、酒の強かった彼ではあったが、心臓にかゝった負担は大きかったのであろうか、がっしりした体躯の彼にも、日ごろ心臓に軽い持病があったことを後に聞かされた。

大西君の遺骨は、学友の胸に抱かれて無言の帰還をし、学校葬として盛大な葬儀が行われたが、共に馬に親しんだ同僚を失った我々の悲しみは一段と深いものがあった。

戦後44年を経た昨年、樺太で最も激戦地となった気屯の地に、未だに眠る兵士の遺骨と遺品の集収が行われたとの報道を見た時、当時の思い出が鮮明に湧き上がり、更ためて大西誠一君と、戦場に散った兵士と馬達の冥福を心からお祈りした。

8. 瓔珞号と宮武号のこと

昭和18年度に入ると戦線は拡大し、軍は海外に派兵され、軍の乗馬練習は不能となり、又先輩は次々と戦線に駆り出される戦時体制下となり、学生生活も食料、物資不足に圧迫され、勢い部の乗馬練習は殆ど出来ない情勢になっていった。始めは中登別にあった軍用保護馬訓練所での合宿や、第一農場の実習用馬を借用、畜産学科の学生との合同練習など細々と練習していたが、次第に組織だった練習は出来ない情勢となった。しかし、馬に乗りたい、北大馬術部の輝かしい伝統を何とか守り続けたい、との願望が通じたのか、安達先輩のお世話で小樽の奥沢で飼っていた軍用保護馬を譲り受けることとなり、私が引取りに行き初対面をした。栗毛の中間種で10才の騙馬、繋が大きく鈍重な感じの大人しい馬で、馬場馬術向きではないが、折角の寄贈で渡りに舟と有難く頂戴した。

小樽から札幌までの輸送は、銭函中継の部員交替の騎乗輸送とし、小樽～銭函間は私が担当した。当時の札幌国道は車の往来も少なく、春うららかな日和の中の海沿いの国道を、気持ちよく馬上に揺られて張礁のトンネルにさしかかった。長いトンネルの1/3ほど行った頃、対向して走って来たバスが、車道一ぱい左に寄って歩いている馬の方に寄って来て、避ける間もなく乗っている馬の右側にドンと接触、そのまゝ走り去った。危く転倒も落馬も免れたものゝ、暗闇の中馬の怪我也気になり、直ちに馬首を廻してバスを追跡、トンネルの入口でバスを止めてバスの運転手と馬の損傷を確かめた。幸い右腰角部に擦過傷が出来た程度で、運転手には謝罪をさせ事無きを得たが、まかり間違えば折角の自馬保有も夢となる珍事であった。

この馬は瓔珞号と命名、苗穂に近い馬車屋に預託し、当番を決め部員交替で飼養管理をし、乗馬訓練をした。これが戦時下であったが北大馬術部が自馬を保有した第一号となった。

瓔珞号の乗馬練習は第一農場の馬場で行っていたが、バスに接触しても驚愕しない程のズブい反面丈

夫な馬で、高度な馬場馬術などは望めなかったが、軽い障害飛越などは結構こなし、部員は交替で練習したあと、初めての自馬を持った喜びで真剣に手入、管理をして可愛がった。然し一頭の馬を頼りに10名ほどの部員の練習は限度があり、飼料不足と過労が負担となったのか、瓔珞は次の年の冬北大構内の理学部横で、騎乗中突然倒れたため、部員一同で馬籠に馬を積んで家畜病院に運び込み、実験用馬として繋養、治療を加えた。約3ヶ月繋養後看病の甲斐なく斃死した、病名は栄養失調であった。

この窮状を馬学の松本久喜先輩に報告したところ、代馬として宮武を譲って頂き、一同欣喜して、自馬第2号として大事に飼育することとなった。

宮武は青毛の軽半血種で、年齢は16才と既に盛りを過ぎていたが、体高が高くスリムで、軽快な歩様と、障害に向かうとピョンと高く跳躍して、喜んで障害に向い非常に高い跳躍で120cm程度の障害は軽く飛越する、乗馬としては申し分のない馬で、大いに部員を喜ばして呉れた。

然し激化する戦局の下、学生も長期間飛行場建設などに動員され、加えて、食料難、資材不足など運動部としての活動も制約を受け、飼養管理も満足に出来ない状態が続く中で、非常に残念ながら宮武号も20年の春瓔珞号と同じ運命を辿ることとなってしまった。

以後当時の部員は夫々本科に進学、自馬を失った北大馬術部は、後継者に伝統を託すことも出来ず、なすところなく長い空白時代に入ることとなった。

8. 戦中、戦後の馬術試合

昭和17年、私が入部した年、最後のインターハイがあり、安達、羽島、小林等先輩が活躍した話を聞くにつけ、我々新入部員もインターハイ出場を目標として技能の錬磨に全力をつくしていたが、戦局の激化に伴ない、学生スポーツの大会開催など、次々に消え去ってしまった。

先輩を次々に戦場に送り、軍の乗馬の練習も失った我々は、せめて学外の対抗試合として弘前高校、東北帝大、帯広高獣専に相手を求め、定期戦開催に持ちこんだ。

昭和18年19年の間に東北帝大戦1回、弘高戦2回を第一農場の乗馬を借りて開催、帯広高獣専は、北大帯広交互の会場で4回戦程実施したと記憶している。

昭和20年以降、世相は学生スポーツを許す状態にはならず、8月終戦を迎え、世相は戦後の混乱期に入り、北大馬術にとっても全くの空白時代がこれから続くことになった。

昭和21年秋、戦後の国民の意慾昂揚のため、第1回国民体育大会が京都で開催され、学生馬術競技が取入れられることになった。

戦後初めての馬術の全国大会で、私にとって北大馬術部に籍を置いての始めて最後のチャンスとして勇躍参加をした。

これが北大馬術部の戦後全国大会に出場した第一号の記録となったので、その詳細を項を別にして記してみたい。

8. 第一回国民体育大会馬術大会出場の思い出

第一回国体馬術大会は、21年11月京都の長岡競馬場を会場に学生対抗競技として行われた。

終戦後1年の世相混乱の時期で、十分な乗馬資源の確保が困難なところから、名古屋を分岐点として

東西の学校から選抜した学生選手による東西対抗の形態で、障害飛越競技と野外騎乗の2種目で行われた。

先づ東日本の代表選抜は、東京世田谷の馬事公苑に、名古屋以東の大学、高専馬術部の選手を一堂に集め、選抜予選が行われた。

戦後初めての全国大会である。畜産に籍を置いていた私は、入部以来培っていた全国大会出場の夢を表現しようと、工学部の宮崎と語らい出場申し込をした。

然し、約2年に近いブランクは、騎乗感覚、騎座外の体力に全く自信が持てず、急遽札幌競馬場の高木氏に頼み込み、誘導馬を借りて特訓を始めた。芦毛の誘導馬は競争馬上がりて銜受けがかたく、微妙な銜の扶助感覚など味わえないので、主として騎座の鍛練と、バランス感覚を養うため、競馬場の走路を疾走し乍ら、毎朝4時半から2時間の練習を出発前の2週間、毎日欠かさず続けて大会に臨んだ。

札幌から上野迄の切符の購入も不自由な時で、通路迄満員の列車に、長靴と騎乗服、鞭の入ったスポーツバッグを大事に抱え、2週間分の米をリュックに背負って、青函連絡船經由丸2日間揺られて上野に着くと云う、今では想像も出来ない旅行であったが、待望の全国大会出場の希望が、さして苦痛とも感ぜず上京をしたものだ。

馬事公苑での予選会に臨むと、何分にも戦後初めての馬術競技と云うことで、我も我もと60名を越す選手が集い、その顔ぶれを見ると、慶応、学習院、成蹊、成城、専修、明治、法政、麻布高獣等馬術競技歴の錚々たる名門校が名を連ねており、北海道からは、北大から宮崎、和田、西村（予科）3名、帯広高獣から祿沢キャプテン他4名が、これ等の選手に伍して参加をした。数多い選手の中で、在京各学校は、馬事公苑を始めとする乗馬施設での練習の機会に恵まれていたようで、中でも専修大学の喜多井キャプテンは、遊佐幸平師がオリンピック候補として特訓教育をしていた程、一目置ける技能を持っていた。

予選は、これらの参加者の中から、障害競技8名、野外騎乗8名、計16名を選抜する非常に厳しい審査条件の中で、行われた。使用馬は、警視庁の騎馬警官隊の乗馬が貸与された。

選抜予選の第一日目の馬術競技は、驚いたことに鞍から鎧を外して、鎧なしの状態で馬場馬術を行ない、常歩、速歩、駈歩夫々の定められた蹄跡運動が要求された。基本技能の未熟、練習不足のものは一日にして半数以上が淘汰され、残された通過者が第2日目の馬場馬術競技、第3日目の障害飛越競技に出場、総合得点上位のものから選抜されることになった。

幸い宮崎と私は、出発前の札幌競馬場での特訓の成果が実り、揃って、2日、3日目の競技に出場することが出来た。

第2日目の馬場馬術は、2人とも大過なく終了、残された障害飛越競技が勝負の決め手となった。

第3日目障害競技に先立って騎乗する貸与馬抽選となり、私の引いた馬は、前述の私が目標としていた喜多井選手と同じ馬に決まり、しかも有利なことに発走順位は彼が先行することとなった。

喜多井選手の順番が来てスタート前の準備運動をしている時から、その乗り方を注目していると、軽快な歩様で申し分ない馬であるが、左拳をわづかに控え、左内方姿勢を常に取った乗り方で、右、左の巻乗りをしているのを見て、左の銜受けの固い癖の馬のように見受けられた。彼はさすがに巧に乗りこなし、見事に無事無減点通過を果たした。

勇躍騎乗、準備運動に入った。巻乗りをして見て矢張り私の判断に間違いのなかったことを確信、喜多井選手と殆ど同じ騎乗方法で扶助に留意しながら次々に障害を克服、最後の三段を無失点で飛び終えることが出来た時は“やった！”と、予選の上位通過を確信した。この競技での無減点通過はわづか数名であった。以上のような厳しい選抜の結果、北海道からは、北大馬術部の私と宮崎君の2名だけが残り、京都の試合に出場することが決定した。

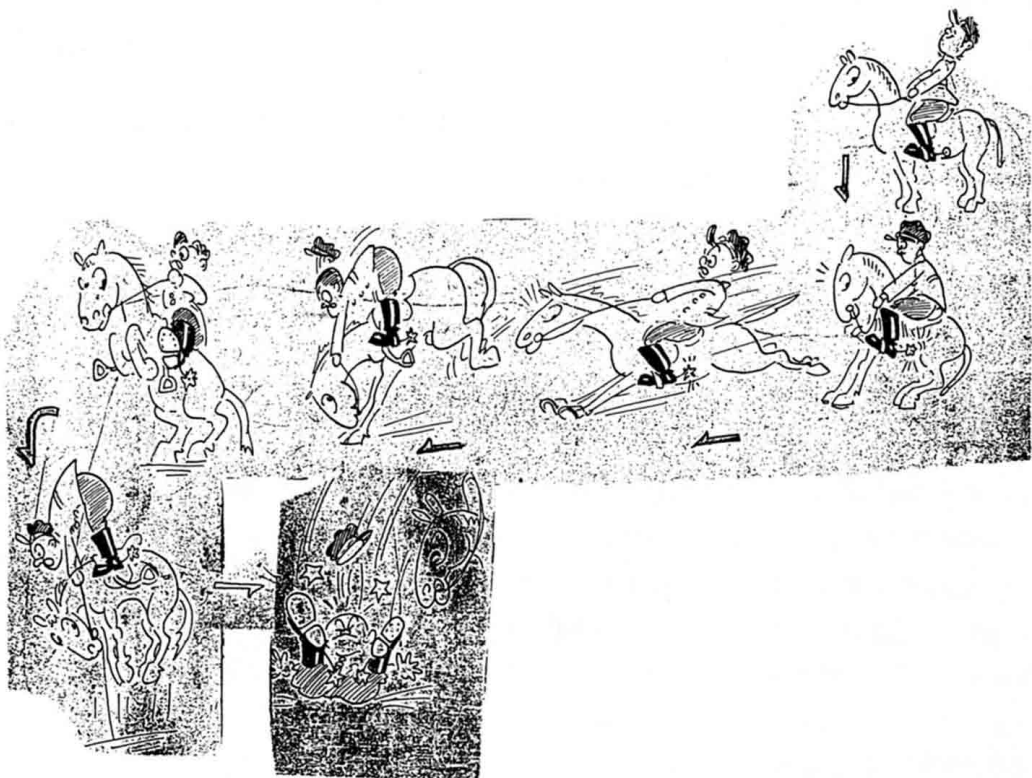
予選通過した東日本代表選手18名は、障害と野外2チームの選手として、夫々技術訓練とチームワークを養うため、そのまゝ馬事公苑で一週間の合宿に入った。私は札幌競馬場の特訓もあり、野外騎乗チームのキャプテンとしてリレーのアンカーを努めることとなった。

11月3日の国体での成績は、私の出場した野外騎乗競技は東軍の優勝、障害飛越競技は僅差で西軍の勝利となった。

戦後の第一回国民体育大会の馬術競技大会に、北大馬術部として参加、聊かでも伝統を守った成果を、記録として残す機会を失っていたが、当時の状況を一枚の写真から記憶を引き出し乍ら記して見た。

8. あとがき

思いつくまゝに、記し終って当時を振り返ると、既に45年余の歳月の彼方に、当時の記憶が、或ものは透明ガラスを透かすように鮮明に、或ものは曇りガラスの向うのようにボヤけてよみがえって来る。出来れば、当時苦労を共にした同僚たちに呼びかけ、より確かな記録にまとめる機会が来ることを期待し乍ら取敢えず、北大馬術部の戦中戦後の空白期を埋める一助となればと思ひ筆を置く。



卒 部 に あ た っ て

伊 藤 顕 治

振り返って

入部するとき、特に馬術部でなくても良かった。ただ生き物と生活する時間が欲しかった。単に動物が好きただけだった。

1年の時、馬に接し、乗っていくに従ってのめり込んでいった。

2年の時、春先から痛めた腰のため騎乗を断念した。8月頃から「いつから乗れるのか」といった事を何回も聞かれたが、自分でもわからずはがゆい思いをした。結局秋になっても良くはならず、悔しさと情けなさが込み上げて涙した。自分には哭けるだけの思い入れがあった、と感じた。当時言われた言葉を2つ今も覚えている。1つは「自分の健康管理もできない奴に馬体管理なんかできない」もう1つは「乗れるのにちゃんとやらない奴もいるのにな」といった内容だった。身に滲みた。

3年の時、春にはようやく普通に乗れるようになったものの、やはり1年分のブランクがあった。秋になったとき自分は馬をもてない事を覚悟した。クラブをやめようと思ったこともあったが、いままで受けた恩を返すまではやめられないと思い直した。乗らなくてもやる事はいっぱいあると思った。雑多なことを引き受け、その分他の人たちに活躍して欲しいと思った。結果的には馬を預かる事になり、特別余分な仕事を引き受ける事もなかったが、その分この馬を何とかしてやろうと思った。

4年の時、思う存分やらせてもらった。ありがとうございました。

最後に、少し気になる事があるので書いておく。

1つは、下級生の練習についてで、下級生の練習を馬の練習や、調教と切り離して考えすぎではないか、ということ。全くの新馬調教や、特に新しい事をさせるときなら切り離して考える事も必要かも知れないが、特にそうでない場合は、例えば、運動の最初に放棄手綱でどンドン前に出していく事や大きな図形を描く事などを1年生にやらせ、運動のレベルが上がるに従って上級生がやるようにしていけば有効だと思う。障害飛越もしかり、1年生だってキャバレッティーバツェンぐらいはできる。馬にしたらいきなり高い障害を飛ぶ訳にはいかないし、下級生にしても低いものから徐々に練習を重ねていかなければいざというときできない事になる。障害を飛んだことのない人にとって80cmの障害でもかなり大きく感じるはずである。こういうことを書くと、1年生では前に出せないから練習にならないという人がいるかも知れないが、前に出すことも大切な練習だと思う。このほかにも似たようなことはたくさんあると思う。

もう1つは、精神的なことで、これはうまく言葉にできないのでニュアンスとしてつかんで欲しいのだが、馬術部が乗馬クラブ化してきているのではないか、という気がする。こんなことを書くと怒られそうだが、もしこの馬を何とかできなければこの馬を殺すことになるとか、うまくいかなければいつでもおりなければならないとか真剣に本気で考えているだろうか。そうである人は何を今更……と欲しくればいいが、そうでない人はちょっと考えて欲しい。これは上級生に限ったことではない。下級生

だって何らかの役にたてるはずである。そしてもしそう思うのであれば、技術的なことは後でいいことに気付くだろう。まず先に、自分と馬が何ができ、何ができないのかを見極め、他の人はどうか、他の馬はどうかを見極めなければならない。欠点が見えればどうやって直していくかを考えればいい。自分でわからなければ他人に指摘してもらおうべきだ、絶対何か欠点はあるはずだ。そして何かをするに当たって、自信を持ってやらなければならないが、決して自惚れてはならないこと、物事を客観的にみて、積極的にぶつかっていくこと、うまくいなくても粘り強く頑張り、柔軟に対応していくことを忘れないで欲しい。

11/23 1990 伊藤頭治

小林 佐代

入部した時から、いつやめようかとばかり考えていました。こんなに忙しくてこんなにつらくて、こんなにドロドロとした部活は、他にはない。もっと楽しくやれる部はいくらでもあるじゃないか、と。

部員数が多く、その中でもへたくそだった私は障害の試合にはほとんど出してもらえませんでした。毎日の練習でも障害を飛ばせてもらうことは数えるほどしかありませんでした。障害を飛びたかった私は、3年目になる時、思いました。「こんなにおもしろくない思いだけしてやめるのはバカだ。意地でも最上級生になって、チーフになって、自分の思うようにやってやる。」と。

いつでも馬が最優先、まあそれは当然です。でも部員あつての部活だと思います。部員が楽しめるような練習、そして部の活動ができないものかと思います。お楽しみ乗馬クラブにしようと言っているではありません。だけど、楽しめる余裕をもてる部というのは強くなれるのではないのでしょうか。

自分の我がままだけで続けてきたので、同輩には本当に迷惑をかけたと思います。ほんとうにどうもありがとう。

OB、ならびに乗馬クラブの方々、お世話になりまして、どうもありがとうございました。

後輩のみんな、1頭の馬の責任を持ってはじめてわかること、その馬を通じての他の人達とのつき合い、最上級生になって部を運営していくときにわかること、すごくいい経験になります。中味の濃い学生生活が送れると思うので、頑張って4年間続けてみて下さい。

根井 智

最初はちょっと偉そうなことでも一発かますかと考えもしましたが、飛沫号という文字も、もしかしらこの部報が最後になるのかもしれないと思い、彼が死んで4日後に書いていた文章をそのまま使うことにしました。超ひとりよがりな“卒部にあたって”になりますが、御了承下さい。

8月6日の津軽海峡は船の衝突事故が発生したほど霧がひどかった。

8月7日の朝いつものように東山に着くとなんだか雰囲気がおかしかった。長靴に履き換えていると、吉崎さんが“馬が死んだ”と教えてくれた。そのときなぜだか解らないけどパンサーが死んだんだって

直感が働いた。“どの馬です？”“根井くんの馬だよ”
なぜだか知らないけれど“ああ やっぱり！”と思った。

彼の姿を見ても、何の感情もわかなかった。

半目を開き、口もとじず、そしてなによりも異様にふくれあがった腹がみじめだった。サラブレッドのあの美しいスタイルとはまったく別の“物体”が、目の前に横たわっているだけだった。あっちこっちに傷ができてる体に触れてみた。動物のもつ、ほのかなぬくもりはなくひんやりとしていた。

四肢をロープでくくり、丁度豚の丸焼きのようなかっこうにされ、シートをかぶせショベルカーに乗せられて運ばれていった。

その日の作業を終えて、うちに帰り、酒を飲んだ。パンサーの昨夜の気持ちを考えようとしてみた。あいつは腹が痛くなって苦しかっただろうな。その痛みから逃れようと思いきり暴れたんだろうな。厩舎の馬栓棒をぶっこわして外に出たのはなぜだろう？・・・

あんな狭いところで死ぬのはいやだったんだろうか？

馬場に出て、あいつは恐ろしいほどの白い霧に包まれた世界を見てどう思ったんだろう？

真っ白で美しい、ほんとうの天国みたいに、あいつの目には映ったんだろうな。そう思ったとき初めて涙があふれてきた・・・

・・・馬の命なんて本当にはかないものです。たった一晩で簡単にあっけなく死んでしまうのです。馬体管理に“絶対”はありません。それだけは肝に銘じておいて下さい。

飛沫号に関してはもちろん、北水馬術部の主将として後輩達には何一つ残してあげる事ができませんでした。でも、こんな自分についてきてくれた田村、橋本、松島には本当に感謝しています。どうもありがとうございます。君達は僕の誇りです。

最後に一言書きます。“飛沫号ってすごい名馬だったんだよ！”

中 戸 川 周 子

- ①一つの目標に向かって皆で頑張るということは、素晴らしく難しいものであること
- ②北日学で取れた権利は、主戦馬とそのチーフだけのものではないこと
- ③団体権利を取るためには、部員一人一人が自分の役割を考えた行動を取る必要があること
- ④ひき馬、バイト、当番すべてが勝つためのものであること
- ⑤自分の周りのもの全てに愛情を持って接することにより道が開けること
- ⑥とにかく馬は愛しい存在であること
- ⑦以下略

これから全日をめざす下級生たちに解ってほしいことはたくさんあります。こんなわたしですらたくさんあるのだから、他のOB、OGの方々は山ほどあるのでしょうか。コンパなどでそんな話ができたらいいのになんて思うのは現役から遠退いた証拠かも知れません。

林 憲 吾

昭和62年の春。未だ桜も咲かぬこの北の国で僕は希望に満ちあふれていた。地獄の受験戦争からようやく戦線離脱して、目の前に広がる夢のような大学生活。何をしようかな。何でもできるよね。大自然の広がる北海道だもん。ダイビングがいいかな。海に潜ればウニだって採れるだろう。採ったばかりのウニを浜で焼いて食べたらいいだろうな。鳥だっていっぱいいるだろうな。免許取ったらいろんなところにいこう。冬になればスキーだってできるしね。

そんなことを考えていたある日のこと。そう、それはほんの一言から始まった。

「入っちゃえば千円いらないよ。」

この言葉に一体何人の新入生がだまされたのだろう。たった千円のために、それまでの夢も希望もまるで桜のごとく散っていった。

あれから三年半、つらいことも、苦しいことも今となっては楽しい思い出になってしまった。どれをとってもまるで昨日のことにように思い出される。そして、このクラブを通してさまざまなことを教わった。そのなかでも自分にとって一番の財産は、自分の欠点を認めてくれる友に出会えたことだったと思う。

自らの無能さのために多くの方々に迷惑をかけてしまいました。相談にのっていただいた諸先輩方には心から感謝しています。そしてなによりも、一緒に頑張ってくれた部員のみんな、本当にありがとう。

福 庄 亮 逸

何を書けばいいかわからないので二つ、三つ下級生の酒の飲ませ方を紹介しよう。

その1. 下級生が便所に行っているすきに、なみなみとついでおく。[少しせこい]

その2. 「まっ、きもち、きもちだけでいいぞ。」こう言えばなぜかたいがい飲んでくれる。[日本的である]

その3. 「まっ、半分だけでいいぞ」全部あけてくれたらしめしめ。4分たったら、「おいっ、半分でもいいぞ」とまた半分のませる。この時、10分でコップ一杯あげさせられる先輩より、とても優しく思われるのだ。[知能的である]

その4. 「おいっ、ビールでいいぞ、いいぞ」とやさしく言って手持ちのSSをあげさせる。[おもいやりである]

その5. その4の続きで、「てめー、おれが白いのに、なに色つけてんねん、こら」と開きなおって、続けてビールをあげさせる。[論理的である]

その6. いろいろ理由をつけて、とにかく乾杯こうせい。(自分もつぶれる危険あり)[団結的である]

その7. 試合の前日に、酔ったふりをしてのむ。そうするとかわいい1年目が、よろこんでかわりに飲んでつぶれてくれるのだ。[詐欺師的である]

その8. 下級生の鼻をつまんで呼吸とともに飲ませる。(かなりアブナイ)[堀川的である]

その9. しぶく「まあー、飲め」(やっぱりこうでなくちゃ)[正当派である]

のは、下級生の練習について、もっと乗り手を育てる練習方法を考えるべきだと思う。下級生の練習をどうするかというのは難しい問題で、僕らの代も系統だてた練習というのを考えた（部報35号、主将から参照）。うまくは教えられなかったが、もっともっと突っ込んで下級生の練習を考えるべきだったと思っている。上級生は自分のことで精一杯になりがちだが、次代を担う下級生の練習に目を向けて、どんどん新しいことを取り入れて乗り手を育てていって欲しい。下級生もそれについて行かなければならないでしょうが。

あれこれと偉そうなことばかり書き連ねてすみません。この馬術部で過ごした4年間は僕の青春の1ページとなり、一生の財産になると思います。つきあった人、馬、決して忘れることはできません。「人の心を知って、馬の心を知る」 お互いのそして人馬のつきあいは真に同じものだと思います。現役のみなさん、頑張ってください。そして最後に、半澤先生、岡田監督、斎藤部長はじめ長屋さん、加藤さんをはじめとしたOBの方々、下級生の人たち、そして馬たちに――本当にありがとうございました。

真鍋いづみ

9月になって、交代して、やっと人間らしい生活をするようになりました。夜ふかしして、朝はゆっくり寝て…。昼寝する必要はないし、学校がいそがしくてもミーティングのないこの気楽さ。

3年半別世界のように考えていたことを実際自分がやるようになって、“ああ極楽、極楽”と思います。でもたまに思ってた練習見に行くと、一応上級生の目で見ると偉そうなこともいう反面、“こいつら本当によくやってるなあ”と感心したり、“右にまがった、左にまがった、すごいすごい！”と、ド素人のようなこと考えたり。

いまの自分の生活を安易でいいと思いつつも、一生懸命いろいろ考えて夢中で馬に乗っている下級生の姿を見ていると、やはりうらやましくてたまらなくなります。乗っている上級生も、下で箱番している下級生も、それぞれがまぶしく見えます。

一年目!! これからのクラブを影で支えていくのはあなたたちです。もっと馬のこと勉強して、知ってやって、それを伝えていってください。

二年目。 はじめて馬持ってわからないことだらけだと思います。二年目はある意味で自由な時です。自分がよいと思うことをどんどんやってみてください。

三年目。 あっという間に春が来てあっという間のシーズンです。悔いの残らないよう力一杯やってください。期待しています。

4年間いろいろな馬と出会い、いろいろなことを馬からおそわりました。特に北瑛は、はじめてサブチーフについた馬であり、また2年、3年と騎乗し、本当に縁の深い馬でした。大学時代の4年間をこの馬達と共にすごせたことを本当に幸せに思います。

四年間いろいろあったけど、馬術部やってきて本当によかった。

堀 崎 敬 史

一度、原稿は書いたのですが、部報委員に尋ねたら「堀崎さんの卒部にあたっては、まだワープロで打っていません」ということなので、ワガママを言って書き直させてもらうことにしました。前の原稿を書いてから9カ月くらいが経つのですが、ようやくクラブのことが色々（自分が現役だった頃も含めて）冷静に考えることができるようになったのが、書き改めようと思った原因です。

僕は3年目の時に北玲に、4年目の時に北駿に騎乗した。2頭とも北大馬術部の主戦馬であり、このような馬に2年間も騎乗できたのは、本当に幸せなことだったと思っている。が、結局2頭とも全日学へ連れて行くことはできなかった。北駿は北日学の予選で大失敗したのちの国体予選で優勝して国体へ連れて行くことができ、人馬とも全国の舞台を踏むことはできたが、やはり全日学へ連れて行きたかった。この原因は何か――OBになって今考えてみると自分のメンタル面での甘さが原因ではないかと思う。やらなければならないということは分かっている、いざ本番に勝つという時の精神力の甘さ、馬が自分に何を訴えかけているのかを知ろうとする心、その他いろいろあるが、様々な面でのほんの一瞬の気のゆるみ（普段の練習等も含めて）が、こういう結果につながったのだと思う。これではいけないと思ったのは、4年目の北日学が終わってから。国体予選には、馬を良い状態で下級生に引き継ぐというのが目的で、それをやるなら総合にというタテマエで出場した。しかし、本音は絶対に権利を取ってやるという気持ちでいっぱいだった。それまで、北日学で勝つということを目標に、下級生たちが毎日毎日文句のひとつも言わず、ハコ番、手入れなど私をバックアップしてくれてきたのに、北日学で大失敗をし、何とか下級生に形を残してやりたいとも思った。勿論、ドンパの4年目にも。国体予選までの毎日、自分を追いつめてそれに勝つという気持ちだった。そんな精神力が（主戦馬に乗る以上あたり前の精神であるが）良い結果につながったのだろう。

どの代でも主戦馬に乗る人もいれば、そうでない新馬に乗る人もいる。新馬に乗る人は一年間まず檜舞台を踏むことはない。毎日毎日コツコツと努力していくのみである。主戦馬に乗る人は勝ちを意識するのは当然だけれど、その裏に裏方として頑張っているドンパ、下級生がいることを決して忘れて欲しい。主戦馬に乗ると、他の馬のことまで気がまわらなくなってしまうことがありがちなので。

主戦馬に乗る人は、全日学だけとは言わず東日本、全日本、国体と全国大会にどんどんチャレンジして欲しい、思い切りやれるのは学生時代だけなのだから。僕は国体に行ったけれど、自分の思っていたイメージとは大違いだった。北海道国体（平成元年）ではホースマネージャーをやったが、実際に選手になり出場してみると違うものだった。プレッシャーも並たいていのもではなかった。人馬ともにいい経験だった。他の都府県の馬と同じ土俵で戦って、終わったときは道内で試合をしたときよりも充実感が2倍3倍とあった。全国大会に出場するというのは、人馬そしてクラブにとって良いものだ。

話は変わって――今のクラブ、優秀な馬匹がそろっている。道内見回してもこれだけの馬匹がそろった馬術部、乗馬クラブはないのではないだろうか。それに乗っていくのは現役である。今ちょっと思う

卒部して半年、最近自分の手が少しは普通の娘さんの手に近づいていくような気がしています。現役のみなさん、精一杯、馬乗って、酒飲んで、泣いて、笑ってください。東京でまっています。最後に、4年間、あるときははげまし、あるときはしかってくれた、林、福庄、伊藤、堀崎、小林、中戸川、そして根井、本当にありがとう。人生のこの時期にみんなに出会えたことをほこりに思います。

佐藤留美子

あっという間の3年間、というのは現在だから言える言葉で、思い返してみるといつやめようか、の繰り返しで随分息切れしながら続けてきた。後輩からみてもかっこ悪い、頼りない先輩だったと思う。

入部当初から、「医短だから忙しい」「医短だから続かない」と周りから言われて、それが嫌でたまらなくて、そう言われないように、みんなと同一線上で頑張っていこうとしたつもりだった。でも、実際は、もともと不器用なたちだから、実習と部の両立のバランスがとれなくて、何度も泥沼にはまってしまった。本当に今思うと考えるひまがあるなら練習に行け場いいのに、目が覚めてもあれこれ考えてしまって結局ボツってしまう悪循環の繰り返しだった。そして、馬や部の仲間に入れこめば入れこむほど、「自分は3年間しかできないんだ」と言う思いが強くなっていった様に思う。そこで、周りの人より短い3年間だからこそ、人一倍強く頑張らなければならなかったのに、最後まで、発想の転換をしきれず、自分への甘さをひきずってしまったのが、結局、自分の弱さなんだとつくづく思い知らされた。2度も大きなケガをしたり、学校と部活、理想と現実のギャップに苦しみながら、そんなにも不安定な状態で、それでも部をやめることができなかったのは何故なんだろう。

学校から逃げたい、という気持ちから逃げ場にしてしまったことも確かにあるけれど、それだけじゃなくて、やっぱり接すれば接するほど、どんどん馬が好きで、みんなが好きで、馬術部が好きになっていった。辛いこともいっぱいあったし、いつでも逃げ出してしまいたかった。だからやっぱりこのクラブに入って良かったと思えるし、辛いことも楽しいこともみんなひっくるめて、何年かたって大学生活を思っても一番先に出てくるのは馬術部のことなんだろうな、と思う。

部から離れてみて改めて馬術部生活を思うと、特に同輩のみんなには頭が下がる気持ちでいっぱいになる。

こんなことを言っても仕方がないけれど、でもやっぱりこの仲間と一緒に4年目になって、一緒に卒部したかった。あるOBの方がいていた様に、「一番楽しくて辛い、一番印象深い4年目」を一緒に過ごせずに、先にさっさと卒部してしまう自分が、残念で悔しくてたまらない。

でも、8月で引退するときに、3月まででもできるときまででいいから続けてみないか、と言ってくれたのは、涙が出るくらいうれしかった。本当に、本当にありがとう。そして、こんなことしか言えないけれど、頑張っていてほしい。大好きなみんなに、やるだけのことはやった、という気持ちで、来年、卒部を迎えてほしいと思う。

引退してからずっと、練習に顔を出そうと思いつつも、自分の力不足を思うと行っても何もアドバイスできないことから、足が遠ざかってしまって本当に申し訳なく思う。今後は、就職も札幌で、家も

近いんだからもっと自分の気持ちに正直に、部に顔を出したい。

反省だらけの、まとまりのない文章になってしまったけれど、今の思いをそのまま素直に書いたつもりです。

最後に、大好きな馬達と馬術部の今後の健闘を祈って。

3年間、どうもありがとうございました。

中古車と整備

民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北18条西5丁目 ☎726-1526

木材 建材 一般金物 塗料 建築金物

有限
会社 **まるへい商事**

札幌市北区北24条西5丁目 ☎736-5331~3

自己紹介・他己紹介

◆ 4年目

伊藤 顕治

変な奴だ。

おわり

ではきっと怒られるだろう。

はっきり言って口べたである。というか表現力がない。損な人間だと思う。果たしてこの3年半のうちに行った何人の人が僕を理解してくれたのだろう。よくわからんし、結構気にしながらもどうでもいいと思っている。

真剣な奴は好きだが、謙虚でない奴は嫌い。やる気のない奴や、他人の事を考えない奴はもっと嫌い。不幸にひたってる奴、今の自分に甘んじている奴、嫌い。他人に頼る事を知っている奴は好きだが、頼るだけで自分で何もしない奴は嫌い。いろいろあるが、完全な人間はこの世にいない。ときどき自分も嫌いになる。大きな人間になりたいと思っている。

お人好しの部類に入るのか、こんな奴はしらん、と思いながら見捨てきれない事が多い。

頼りにされる事は嫌いではないが、中途半端や、頼られ過ぎるのはいや。

すべては書けないけれども、こういう奴です。

おわり

☆

☆

☆

長岡さんの乾草あげバイトの帰り道のことでした。汗をかいてそれが冷えて、寒がりの某小橋が本気で寒がっていると、兄は突然運転席から自分のシャツを脱いで、彼女に渡したのです。自分だって寒かったはずなのに。忘れられない思い出です。やさしいやさしい、けどそれをなかなか表に出さない兄です。でも必死でとびのりをしている横で、兄がくまとしゃべっているのを見たらうらめしかったなあ。最近お引っ越しをされて、卒論にがんばっておられる様子。体だけは大切に、ちゃんと食べてちゃんと寝下さいね。4年間、本当にご苦労様でした。

☆

☆

☆

4年で農機を卒部した例が近年稀なため、農機における卒論と馬術部生活との両立については想像を絶するところである。しかし、腰や胃を煩いながらも彼は様々な壁を乗り越え、その精神を罫に伝えた。雪印においても立身出世すること請合いである。

P.S. 彼女のの前ではファイヤーマンしないように。

小林 佐代

馬術部で身につけた体力と根性、獣医学部のかわりに行った農学部でもらった農学士の資格をもって青年海外協力隊に行ってきます。

☆

☆

☆

あゝ遂に着いた。セネガルのダカールだ。このどこまでも青い空。灼熱の大地。ここにいると人間って生きものがいかに小さな存在かって思い知らされるねえ。天はこの大自然を造り、そしてこのとてつもなく広い大陸で一生懸命に生きる人々を育てて来たんだねえ。あゝあそこに日本人がいる。女の子だ。彼女は北海道で一生懸命馬に乗って、それから今、青年海外協力隊としてここで元気に活動しているそうです。大学時代に培ったガッツとパワーでこれからも頑張りたいねえ。“北凛というワガママ娘とつきあっていただけだから、セネガルの人達ともきっと仲良くやっていけます”と彼女は笑いました。この言葉を聞いて僕は、はるばるダカールに来たかいたがあったと思ったねえ。

～立松和平のバリ・ダカ奮闘記より

☆

☆

☆

そう、馬術講習会の2日目。私は北凛号にまたがり、小林姉に馬場を引いてもらっていた。その時の姉の言葉「明日から朝早く来てごらん。もっとたくさん乗せてあげるよ。」そして私は現在にいたる。その姉も、来たる春には、私の聞いたこともないような（無知と言ってくれるナ！）お国へ行ってしまわれるという。白いペガサスにでもまたがって飛んで行かれてしまうのだろうか？どうかお体だけは大切に、例え、月と太陽の出る順番が日本と反対の地であっても、頑張ってください。

中 戸 川 周 子

4年前の3月11日、馬術部に入部できた喜びは、今も胸を火照らせます。夢を追い続けた4年間、夢が散った9月4日。こんな私を支えてくれた同輩、後輩、先輩方、OBの方々に感謝するばかりです。

☆

☆

☆

中戸川は本当にガンバリ娘だ。よく先生になれたなー。ドジせーへんやろか。生徒にいじめられへんやろか。酒で地がでんかったらいいんやけど。心配だ。いつまでもその根性を忘れるなよ。

☆

☆

☆

時には、厳しい言葉もあったけど、いつも優しく、頼ったら必ず、応えてくれる。まさに、理想のお姉さん像でした。ちなみに僕の入部動機の数%以上をしめている人です。

根 井 智

彼はHAPPY ENDのストーリーしか信じていなかった。しかし残念な事に現実はそううまくいかなかった。彼はしばらく柄にもなく落ち込んでいた様だったが、“終わり悪ければ全て悪し”という言葉はないと気が付いた。

数カ月後、彼は旧友から、“妙に明るい”“スキー狂”“発情期”などと誉めてもらい喜んでいらしい。

☆ ☆ ☆

いつも明るいハッピー根井君は、自分では二枚目取ったつもりでも、やっぱりどこかが三枚目。でも、周りを愉快にしてくれる大事な存在。九州男児は悲しい顔は似合わんばい。涙なんか見せんとたい。今日も行け行け元気良く。明るいしあわせ待っている。

☆ ☆ ☆

何をかくそう、実は僕は兄の数多いファンの一人です。フフフ……。

クラブでは、兄の思いやりのある態度に、笑顔を絶やすことのない人柄に、北水馬術部をひっぱっていく実力に、（カラオケでは兄の歌のうまさ）感心してしまうのでした。ところが、僕はコンパの席で記憶のとんだまま兄と話しながら調子良いことを口走ったようで、「そんなやつだったのかー」とすっかり兄の信用をなくしてしまった愚か者です。

兄は他大学にも数多くファンがいるとか。北大自慢の兄です。

林 憲 吾

夏の終わりのある日の午後、何も言わずに姿を消した黒い瞳の少女は何処へ行ってしまったのだろうか。おそらくこの街にはもう二度と帰ってはこないだろう……。

ああ、もっと早く気が付けば良かったことの何と多いことか……。

☆ ☆ ☆

表向きは非常に物静かな感じのする奴だが、酒を飲ますと人間が180°変わってします。変わり過ぎて年に2回ほど手が付けられなくなる程になる（今年の七帝戦のレセプションは記憶に新しい）。

主将をやると言うてからの責任感の強さは非常に素晴らしかった。この責任感の強さを、これからの人生に役立てて欲しいと思う。……たまにはクラブのことも思い出せよな。

☆ ☆ ☆

夜も昼も輝き続ける不思議な一番星。

春夏秋冬ありがとうございました。

そして、ちょっと照れるのですが……

『はやあしさん、大好きです。』

福 庄 亮 逸

わりきりとこだわりの人生を僕はこれから歩む。

☆ ☆ ☆

寮を愛し 酒を愛し 馬を愛し 顔に似合わず タバコまで愛す。去年は愛馬北皇子にまたがり、全日学出場をはたし、あわやテレビ……でした。4月からは、京都で家事手伝いと。頑張ってください。

☆

☆

☆

福庄兄といえば酒、福庄兄といえばコンパ。あとカラオケ、ディスコもお好きなようです。卒部後もコンパにはまめに顔を出され、にっこり笑いながらSSもついでくださいます。部室で2次会をする時には電話で呼び出して下さいます。問題はその時間が午前2時だったりすることなのですが……。4年間御苦労さまでした。いつまでも福庄兄は福庄兄でいて下さい。またコンパにもいらしてください。兄の笑顔があれば、SSなんか、SSなんか……

……やっぱり不味いですね。

堀崎敬史

入部という始発駅から馬に乗って……卒部という終着駅にたどりついた。
この終着駅は……また新たな始発駅となる。
新たな始発駅からは……また変わった旅になりそうだ。
どこかで途中下車して……新たな旅を始めるかもしれない。
人生なんてそんなものなのかなあー

☆

☆

☆

個性豊かで頼りがいのあるひょうきんもの。決して、黙して語らず、といったしぶいタイプでわないが、彼の行動力すごい。特に夜の……。他人に認められるとどんどん本領を発揮する、うらやましいかぎりの才能を秘めている。であろうと思われる。

☆

☆

☆

兄はよく大声で笑ったり怒鳴ったりします。とても大胆なことをやったりもします。しかしそうかと思うと時々ものすごく弱気になったり、ごく小さなことにこだわったりします。「どっちが本当の兄なのだろう？」今まで兄をみてきて兄は何に関してもとても能力があり、またバイタリティーにあふれていると思います。あと思いきりさえよければ、鬼に金棒なのではないでしょうか。

彼女をどんどん引っ張って行ってあげてください。

真鍋いづみ

おまえに会ったことは 私の人生の中で 最も大きなイベントでした。おまえと4年間共に 泣き笑いできてよかった。きっと近いうちに おまえが 馬事公苑に立つ日がくることを信じてるよ。

——と下級生にプレッシャーをかけておこうっと。

☆

☆

☆

ギャロップに乗っている姿のみならず、ディスコで踊っている姿までも、思わず感動して頭にやきつ

いてしまう姉の、その存在感はとても大きなものでした。僕が突然の腹痛におそわれてどうしようもなかった時、すぐに薬をもってきて飲ませてくれたのも真鍋姉でした。強さと明るさとやさしさを合わせ持っている人だなとつくづく感じます。

今となっては真鍋姉といえば“リゲイン”。この不思議な飲物を通して、試合前に姉の“活力”をふきこまれた人も多いはず！？

あー、また姉の18番、松田聖子がききたいと思う今日このごろなのでした。

☆ ☆ ☆

入部してすぐの頃のこと、ギャロップに乗って、ビシバシ障害を飛んでいた姉をみて、「かっこいい」と心の中で叫んでいたのは私だけじゃないはず。練習中の厳しくWILDな姉とは対照的に普段の姉は、頼れるお姉さんタイプ。人体の絵のぬりえをさせてくれたり・・・この部の馬たちにとっても、姉は大切な存在でした。時には保健室の先生のごとく、優しく馬たちの心配をしたり、またある時には、そ知らぬ顔で、馬のおしりに注射をブスッ。なんてことも。

姉をみていると、自分が小さく小さく見えてしまうのです。いつか姉のように大きな人になりたい。

◆ 3年目

佐藤美幸（会計・農学部農学科）

いい言葉が見つからずに、言えずに、のどまで出かかってもグッとのみこんで・・・ついに、おなかパンクする、という夢をみた。

☆ ☆ ☆

彼女を知るためにはまず、2m以内に接近し耳をすませます。ほら、きこえてきますよ。彼女のつぶやきが・・・。「ああねむい、ねてるときがいちばん楽しい」「つかれた」「胃がいたい」「さむい」そう彼女は本能のままに生きているのです。

☆ ☆ ☆

さとみ姉は感情にするどい。馬は口に出して話をできない分だけ人が敏感になってやらなければいけないのに、私は人一倍うとくて、何故馬がそういう行動に出るのか、わかってあげられなかった。さとみ姉はすごいと思う。プヒ——ッ！

佐藤留美子

人は誰でも2面性を持っている、と聞いた事があるけれど、私はとんでもなく多重人格だと思う。だから、あなたがたの知っている私は、ほんの一部分にしか過ぎないのですよ。フフフ。

それにしても雪女だ、ゴンタだ、といろいろ言われましたが、一体私のどこが「ゴンタ君」に似ているのでしょうか?! えーい、責任者(?) でてこーい!!

☆ ☆ ☆

疲労、いらいら、怒り、そういったものをすべて吹き飛ばしてくれる彼女の笑顔。本当にすてきです。今年はまだ立派な看護婦さんなのですね。現役部員の頃はあんなに忙しかったにもかかわらず、病気ひとつしなかった彼女が、今、体をこわして食欲さえもないとききます。やっぱり馬と離れてしまったからなののでしょうか? 今からでも遅くはない。もう一年留年して私達と一緒に卒部しませんか。

さとの、今年絶対みんなで全日行くから。団体が権利をとるから。そして目標は全日で団体入賞! そのときはさとも一緒に馬事公苑いこうね。

☆ ☆ ☆

さとの姉は、いつもやさしくにこにこしている。大変なこと、つらいこと、人よりいっぱい持っているのに、いつも笑顔でいられるそのパワーは、どこからくるのでしょうか?

人の痛みを本当に分かってあげられる姉、白衣がととも似合うと思います。

清水礼子 (馬匹・獣医学部)

Things get bad, Times get tough
Everybody knows
You gotta be a little stronger
Just to have the things you need
Everybody knows if you try a little harder
You're gonna live a whole lot longer

You got to believe in something
When you believe in
These are the best of times

You got to have faith in someone
When you have faith in someone
These are the best of times

Don't give up, don't give in, never lose a minute
It's a long hard road back from nowhere
Love is not what you take out
It's what you put back in it
Take your chance, there's no doubt

Everything will all work out

☆ ☆ ☆

清水 綾子

原産地・・・東京都

生息地・・・北海道 札幌市 北区 北18条付近

その他、米国・ディスコ等にも出没する

性格・・・どんな生物にもなじみやすく、移行点は高い。スキー場では真っ黒なボディコン娘と化す。その発達した胸と巧みな話術で中年男性（N屋さんや、S野さん等）はいちころである。

☆ ☆ ☆

彼女はその優しい性格といい、また背丈といい、我が馬術部の姉さんの存在である。と同時に、その厳しい性格といい、体格といい、我が馬術部の母さんの存在であるかもしれない。寄らば大樹の陰ではないけれど、下級生が安心して頼れるような良き先輩となって、頑張ってもらいたいものである。

高村 理香（会計・歯学進学課程）

学校とクラブに毎日おわれつつもなんとかここまでやってこれたことを嬉しく思います。

みんな ありがとう。

☆ ☆ ☆

エヘヘ～と言って、姉が近寄ってきたら要注意。「後輩いじめ」を趣味として楽しんでおられるのです。でも、とても面倒見が良く、いつも相談相手になってくださり、練習に対して厳しいその態度は、私の理想でもあり、目標でもあります。どこまでも、ついて行くのでよろしくお願いしますね。そういえば、姉の家で勉強をする、というつもりが一緒に朝までこたつで寝ちゃったことがありましたね。

☆ ☆ ☆

姉は、「私なんか退部届3回も書いた事があるんだよ」と私が悩んでいた時に笑い飛ばしてくれました。そのときは、姉にいろいろはげましてもらいました。

そんな姉ですが、実は「後輩いじめ」と「先輩いびり」という奥の深い趣味を持っておられるようです。情報をキャッチするのが人一倍速く、それを即座に部全体に広げるという特技も持っておられます。今年はギャランと共にがんばってくださいね。

田村 亮 —（水産馬術部主将・水産学部増殖学科）

まわりの速い動きに少々、ついて行けなくなってきた。新しい頭と超人的な体が欲しいものだ。

☆ ☆ ☆

「まだまだ甘いな」、「世界一うれしいよ。」など数々のヒットを生んで北大馬術部にぎわしていた彼も今では北水の主将です。入部当時はいかにもチャランポランでポヤ～ッとしてたよりないなあ

と思ってたけど、やはり人間というものは年とともに成長するんだなぁ、と思いました。チャランポランに見えたのは本当はまじめでいっしょうけんめいな自分をかくすためにわざとチャランポランにしていたのだと最近私は思うのです。

☆ ☆ ☆

激動の北水の引っ張っていく中心的人物。持前の根性と行動力があれば、どんな苦しみも、乗り越えられるはず。これからも大変でしょうけどがんばってください。

外山敬子（副将・農学部畜産学科）

女のくせに自分の主張をガンと言い、人が何を言おうとおかまいなし。一見「そうですね」と納得したように見せかけておいて内心全くかまっちゃいない。私ってなんてガキなのかしら。

もう少し柔軟になれないものか。

☆ ☆ ☆

裏自己紹介 硬派・外山敬子

わたくし、硬派・外山敬子と申します。人呼んで、女シュワルツネッカー。巷では、わたくしのことを、馬術部で最も強いとうわさされていらっしゃるようですか、その通り、「かかってきなさい！」ってなもんで、わたくしには怖いものなど何もございません。馬に蹴られようが、足を踏まれようが、チンVV、ダイジョウVなのです。ほら、そこの貴方、わたくしのまわりにオーラが漂っているのをご覧になったことがおありではないですか。背後に殺気を感じたことならおありでしょう。

そうは申しまして、代々のOGの方々同様、これは現役時代の、下級生を思うが為の仮の姿なのでございます。見ていらっしゃる。卒部をして、社会復帰を果たした暁には、硬派・外山、皆さんを、「あっ！」と驚かすような、大どんでんがえしをご覧に入れてさし上げましょうぞ。ホホホホホホ……

☆ ☆ ☆

気は強くて、力持ち♪♪

そんなテーマソングによって登場する姉は、馬のこと、部のことを第一に考えておられるようです。他をよせつけない雰囲気も、垣間見せるちゃめっ気に思わずファンになってしまいます。しかしS姉と共謀してみんなをからかうのはちょっと閉口してしまいます。

橋本 新（水産馬術部・水産学部漁業学科）

3回目の冬が来た。

でも冬を迎える場所は何時も違っている。

近くの川に朝、外乗に行く。

とても静かで、クラウンも気に入っているようだ。

来年の今頃はなにを考えているだろう。

☆ ☆ ☆

ナイーブなイメージの彼ですが、料理も上手でなんと、ミシンも使えます。ぜひお嫁さんにきてほしいNO1だと思います。彼は人の悩みを一つ一つ丁寧に聞いてくれます。だから、彼と話しているととても心が安らぎます。彼は優しさ、強さをもった人なのです。そんな彼を、私は応援します。
しんちゃん、ファイト！

☆ ☆ ☆

水産三人衆の一人。関西人でありながら、なかなか関西らしいところを見せてくれない。しかし、時々ぼろっと出る関西弁に橋本兄の奥ゆかしさというか、照れくささを感じ、僕はほっとする。三人衆のほかの二人のペースにはまることなし、きっちりしていらっしやる。(やはりA型のせいでしょうか?)それが、三人の中でうまく調和し、北水馬術部をあらぬ方向へぶっ走るのを制御している。

これからが、北水馬術部の黄金時代の始まりです。

頑張ってください。

平山潤子 (後援会・農学部農学科)

物事と考えるとき、今いちピントからずれてしまい、みんなからよくぼけてると言われます。悔しいから頑張って賢くなろうと思うのだけれどやっぱり無理みたい。「きっとこれは天性のものなのだろう」と思っておきらめるのも悔しいから、やっぱり頑張る。物事を深く考えるように。

☆ ☆ ☆

とっても優しく、純粋なお方。

しっかりしていらっしやるが、時々ぼける。(スイマセン)

しかし、僕はそんな姉が大好きです。

☆ ☆ ☆

姉は、みんなのあこがれのバロンのお母さんというかんじ。時には厳しく、時には優しく。馬のしつけの見本を見せてくれます。

堀川環樹 (主将・薬学部)

今僕は、自己紹介より先に調教報告を書かなければなりません。

では、これにて失礼します。

僕はこういう人間です。

☆ ☆ ☆

馬術部生活も3年目というのに、今だに染まりきってはいない、唯一孤高を保つ兄。かつてその大きな体でつぶしたこともある小さなお嬢とのコンビも、ようやく板についたカマボコにたってきたようです。・・・以前は、コンパで暴れる前に、首をふって周囲の人間に危険信号をだしていたというのに、最近は気分がHighになると、おもむろにバッチンチョップで辺りかまわずつきとばすという荒技を披露してくれます。なぜか標的になるのは下級生女子のようですが、あちこちで軽量の女の子が吹っとなで

る光景は壮観といえましょう。しかし、部で最も忙しい身でありながら主将という大役を努める彼は、やっぱり何か光る物をもっています。最後の年です。思う存分、東京は馬事公苑で暴れて下さい。

☆ ☆ ☆

北日では堀川兄&おじょうコンビにたくさんのことを教えてもらいました。来年もこの最強コンビの活躍を期待します。

松 島 健 滋 (水産馬術部・水産学部漁業学科)

やるしかない。

☆ ☆ ☆

『有言実行』

酒がはいると でかいことをいう奴がいる。入らなくても 言える奴もいる。

「海の男」松島はそんな奴の1人である。

でも、その溢れるパワーの前ではすべてが「可能」にみえてくるから……

不思議である。

☆ ☆ ☆

当たり前のごことで大変申し訳ないのだが、冬にストーブが必要な様に、目玉焼きに玉子が必要な様に、テストにノートのコピーが必要な様に、夜逃げに夜が必要な様に、誕生日にはきよたが必要な様に、泣きたい時はテニスコートが必要な様に、福庄兄に乾杯が必要な様なほど、兄には酒が必要なのです。さらにはギャロップにゲップが——えっもういいの？あっそう。とにかく北水には必要不可欠な人なのです。

横 山 勉 (主務・農学部林産学科)

相手の気持ち・立場を考え(すぎ)て判断し、他人の意見を取り入れ[に流され]、決して一人で突っ走ら[れ]ないのが、自分の長所であり、またそれ以上に決定的な短所でもあると思う。

僕は、地球の自然環境に貢献するために、自然を理解しようとしています。でも、歴史と現実と未来を理解すればするほど悲観的になります。いっそ、地球上で一生懸命生活している野生動物達や、森林の樹々の為を思ったら、人類なんかいなくなった方が……。やめよう、少なくともてめえが死ぬまでは大丈夫だから、精一杯楽しむ事を考えなくっちゃ。

☆ ☆ ☆

いつも静かだけれども、空のように広い心と海のように深い優しさを秘めた人です。(と思う私は当然女の子です。)

☆ ☆ ☆

一見かもくで穏やかなようで、実は内に熱いものを秘めているような……でも女の子にはちょっぴり甘めの兄です。

◆ 2年目

飯田 牙佳 伊七 (薬品・獣医学部)

私の家から学校まで直線でひっぱって、その中点をとると、馬術部の部室になります。

この短い直線が、私の小さな小さな生活圏です。

けれど、これでも結構忙しい毎日なのです。

☆ ☆ ☆

もう小さいなんて言わないでね。

☆ ☆ ☆

普段は庭につないで飼っておきたくなるぐらい可愛いのですが、ひとたびアルコールが入ると、これまた可愛いのです。この前のコンパではよほど気が立っていたのでしょうか、まくや僕にからみまくり、可哀想なぼくは往復ビンタをくらったあげく、押し倒されてしまいました。あのお、私、一応あなたの先輩なんですけれど……。でも次の日はそんなことなど記憶にあるはずもなく、彼女は明るくぼくに「おはようございまーす。」というのであった。ああめでたしめでたし。

池田 直 弥 (飼料・経済学部経済学科)

オグリキャップ——今の競馬人気と共に歩んできた芦毛の「怪物」が、有馬記念での優勝という劇的なフィナーレを飾って去っていった。我が部にも、かつて競馬で活躍したらしい芦毛がいる。今年はそいつと、ひとつドラマを演じてみたい。でも喜劇で終わったりして……。

☆ ☆ ☆

まだ眼目をこすりながら着替えをしている朝4:40、ドッドッドと猛烈ないきおいで怪しげな気配が近付いて来るのを感じた。思考回路がまわらず、ぼっとしていると元気のいい「オス！」で片目だけ目が覚めた。その片目で振り返ると、そこには頭に寝癖をつけた彼がニコニコして立っているのだ。そして僕は彼にささやきかけた。「朝からやかましい！」と。

☆ ☆ ☆

私が初めて講習会で兄に会った時、ペーちゃんをひいてました。こっちで勝手にペーちゃんのお兄さんと名づけてまた次の日ペーちゃんにのってしまったのです。ははは…。兄は何事にも真剣で仕事もちゃんとこなす頼れる存在です。常に人のことも考えてくれるやさしい兄ですが、ミーティングでは早口でグダッとしゃべってしまうので聞きとれないことが多いのです。でも、ずうっとそのままのやさしい兄でいてほしいなって、みんなが応援してしまう兄の存在は、この馬術部の中になくてはならないものだどつくづく感じています。

祝 前 伸 光 (記録・教養部理Ⅲ系)

ページント「螺細幻想」。はじめて聞いてからもう4年以上たつが、今だに繰り返し聴いている愛聴盤だ。日本には数多いジェネシスタイプのバンドの中でも、単なる模倣に終わる事なく、日本独自のアイデンティティをもったバンドだ。永井、中嶋、宮武と3人のスタブプレイヤーを擁して発表された本1stアルバムは完ぺきなまでの構成力と深い叙情性に満ちており、聴く者を圧倒する。“指よりも足の方がよく動く”とまで言われた、エフェクターを多用した中嶋のギターに印象的な宮武のフルートが絡む。永井のキーボードも巧みで、さらに彼女の天才的ともいえるヴォーカルがアルバムを演出している。曲調のめまぐるしくかわる6曲それぞれが聴く者の耳に深く刻みこまれるのである。

☆ ☆ ☆

(咲いた、咲いた チューリップの花が バージョン)

♪ 飲んだ、飲んだ、SS飲んだ、脱いだ、脱いだ、ズボンにパンツ、あそこを見たら、細かった。
脱いだ、脱いだ、パンツを脱いだ、脱いだ、脱いだ、上着も脱いだ、行水したら、気持ちいい。
勉強、勉強、全然しない、授業、授業、ほとんど出ない、いまでも彼は教養部。
注、この内容に関しまして、不適当な表現、又は、事実と反することがありましても
当部では責任を負いかねませんので、あらかじめ御了承願います。

☆ ☆ ☆

本気で言っているのか、冗談で言っているのか分からなくて、一生懸命隣の奥をのぞき込んでみてもやっぱり分からない。つかみどころのない兄なのです。

奥 村 浩 美 (水産馬術部・水産学部増殖学科)

あっという間の1年半

札幌という都会(?!)から情緒のあふれる函館へ

これからの2年半は一般人としてすごせるのかなぁ……

☆ ☆ ☆

函館における車社会の一角を崩すがごとく、彼女は深緑のチャリンコを乗りまわす。道無き道を進み、昨日は○○、今日は○○と、彼女の行動範囲の広さに我々は舌を巻く。馬術か学問か、はたまた遊びか。男ばかりの北水にあって、彼女にはいっそう輝いて欲しいな。

☆ ☆ ☆

あの声、あの話し方、彼女とはじめて会話をしたら、だれもきっと一種の感動を覚えるであろう。うまく表現できないけど……

でも、ここで誤解してしまうと彼女の思う壺。あれで実は怖い人なんだ、と僕は思う。頑固なところや、感情の激しさを上手にかくしているんだ、と僕は読む。

入部当時“コマナベ”と呼ばれていた彼女、きっと将来、“あの”M姉より“凄く”なって札幌に現れるんだろうなって、僕は今から戦々恐々としています。

徳本 龍志 (水産馬術部・水産学部化学科)

風船が突然“パンッ!”と弾けた。ワァッと泣き出したくなくて目が覚めた。デジタル時計の日付を見ると10月6日。見慣れぬ町と、慣染まぬ部屋。もう自分は函館に来ていた。

風が冷たく流れ、思い出にするには、まだあまりにも近すぎる札幌での日々。

友人と在り来りの別れの言葉を交わし、そのまま校内の芝生の上に寝ころんで、目を閉じた。再び目を開ければ、一頭の鹿毛馬が不思議そうにこちらを見ている。“クラウン”と、優しく声をかけると、そいつは嬉しそうに鼻をならした。そっと首筋を愛撫しながら……やがて、賑やかな声に目が覚めた。

いいかげん酔ってはいたが、他の6人は相変わらず話に盛り上がっている。温かいなべと酒を囲んで、ここは北川姉の家。もう夜も12時を過ぎようとしているのに、話題も笑いも尽きない。北水だって素晴らしい。札幌と比較すること自体、間違いなのかも知れないな、そう思いながら、“このマッチ付かない”と一生懸命割り箸を擦る主将の赤い顔を見て、俺はあくびをしつつ微笑んだ。

☆ ☆ ☆

「札幌を離れると洒落を言う感覚が鈍ってしまうんだよ。」と氏は言いますが、それも何のその。あの真面目な顔からさりげなくポロッと出るその一言には全く抱腹絶倒です。それに兄って文才あると思いませんか？私は兄の書く文章が大好きです。全く惜しい人物を亡くし……いや失くしたものです。

どこにいてもその感性を失わないで欲しいですね。

☆ ☆ ☆

私たち1年目のお兄さんの存在。水産に行っても、やっぱり話の分かってくれる兄のまわりには、下級生が集まります。でも兄のすばらしい方向感覚をだじゃれにはちょっぴり困ってしまいます……

永田 修 (副務・農学部農芸化学科)

(スーダラバージョン)

♪ ちょいと1年のつもりで入部いり 　いつのまにやら2年経つ 　気がつきゃ汚たないふとんで寝てる

これじゃ体にいいわけないよ 　わかっちゃいるけど退部められない。

♪ ちょいと冗談のつもりで入部いり 　いつのまにやらハマってる 　気がつきゃバイトで汗水たらし

これじゃ体にいいわけないよ 　わかっちゃいるけど退部められない

☆ ☆ ☆

永田兄は、2年目の中でもひとときわ目出つ存在と言えましょう。そう、トレードマークのあのひげ、めがねの奥の実は「かわいらしい」という人もいる眼、そして先輩も後輩もなくまくし立てることのできる口、こんな彼さえいれば2年目は安泰にちがいないでしょう。

☆

☆

☆

ばりばりの関西人。存在感という点で右に出るものはいない。今日も阪神タイガースの応援歌をバックに、関西弁を機関銃のようにぶちまけ、他を笑いの渦にまきこんでいることでしょう。

横 幕 宏 幸 (作業・工学部衛生工学科)

ちょっと2年目になったからっていい気になり、1年目に「まゝ飲めや」なんて片手で酒をついでいる僕も、先輩には「飲みやがれ」ってつぶされます。

弱肉強食です。人生は。 以上。

☆

☆

☆

誘われて 誘われて 断わりきれず

遊んで 遊んで 朝まで

飲んで 飲んで 二日酔

コンパではこんな感じの横幕君ですが普段は

働いて 働いて 汗まみれ

疲れて 疲れて バタンキュー

毎日、毎日、御苦労さん

☆

☆

☆

兄の口ぐせ。「ああ、めんどくせい!」「そんなもん、ほっとけばなおる」「うっせえだあってろ!」と並べると、いかにもいい加減な人のように思われるかもしれませんが、馬への愛や、下級生への思いやりの心は、十分に持っている人なのです。ただ、その表現の仕方が他人と違うだけで……

◆ 1 年 目

荒 瀬 匡 宗 (衛生、コンパ・教養部理Ⅰ系)

廢焚。子退朝。曰、「傷人手。」

◇

◇

◇

練習に毎日来る。が第一印象。まじめ。と思うがすこし義務的に見える。話すがたはふくわ術の太郎くん。馬乗るすがたは、カチンコチン。この子ロボットじゃないかなぁ、とうたがったこともある。でもやっぱり、まじめでいしょうけんめいな素直な一年生。でなきゃ手稲からこないよねえ。

◇

◇

◇

「百言あって一理なし」という言葉が似合う。

でも練習にまじめに来てるんだからえらいよなぁ。数える程しか休んでいないらしい。

岡部 靖子 (衛生、コンパ・教養部理Ⅲ系)

大学に通うのに馬場の横を通る……。こんなハードな生活は自分には絶対に堪えられないだろうと思った。けど、何日かするうちに、他人として馬場の横を通りすぎることに堪えられなくなって、はいってしまった。こんなかわいい馬たちと出会えて世話をしたりできるだけでも幸せ。しかし、問題は一つ、《乗る→食べる→寝る→太る》のサイクルをくり返していくうちに、いつの間にか1?キロも太っていた!!! みんな誤解してる——私は大食いでもなければ、酒飲みでもない!……いや、なかった……かな?

◇ ◇ ◇

北日のとき、試合の前日に酒をたしなむF兄に、「飲まないでくださいーい」と自らのんで自滅していく岡部妹への1つの教訓一恩はあだで返すもんだよ。

新入生にガンガン飲ましてやってね。

Mr F

◇ ◇ ◇

岡部妹は、とっても頑張り屋で根性娘。いつも明るい笑顔で、回りのみんなをHAPPYにしてくれるのです。これからも辛いこと、いっぱいあるだろうけど、それに比例して楽しいこともいっぱいあるはず。君のそのパワーで、ぜひ乗り切って行って下さいネ。

H姉をも上回りそうな、その胃袋があれば絶対大丈夫だ!! それにしても、あんない食べて(失礼!) どうして君はふとらないの? 謎だ……。

倉本 暢子 (薬品・教養部水産系)

ため息を深呼吸に変える方法を覚えました。

だから毎日おいしい風でお腹が一杯です。

大きく大きく大きくなあれ!

◇ ◇ ◇

ぱっと見て、小学生と間違えそうなくらい小さい子。入部受付の時「ここは子供の来る所じゃないんだよ」と、入部を断われなかったのが不思議なくらいだ。はじめのうちはいつまで続くかな?と非常に不安だった。が、その小さい体とは裏腹にパワーとしっかりとした考え方には目を見張るものがある。水産系ということで、今度の秋からは函館という厳しい環境の中でも十分やっていけるでしょう。

小学生は法律上は禁酒なのだがそこは馬術部、掟破りは常識だが、小さいのに飲みっぷりがいいのには驚いてしまう。そのくせ余り酔っぱらわないようで、この前までは「私、記憶なくしたことないんですよ。」と、記憶をなくすほど飲んでみたいという願望がうかがえた。その彼女も、全日学の帰りのフェリーの中で華々しいデビューを飾ってくれたそう。トイレの帰りにバツリ倒れていたなんていうことは一切覚えてないそうで、かねてからの希望はかなったようだ。それ以来、酒は飲まないと言っているが、華々しくデビューしたからにはまず無理だろうね。

体は小さくても、持ち前のパワーを全開にして頑張れよ。

◇ ◇ ◇

「いやあ何てしっかりした娘なんだろう。」と思って感心していると突然ドジを踏む！その踏み方があまりにもすさまじく、イメージともgapが激しすぎるので、私なんかはいつも目が点になってしまいます。でもやっぱり暢ちゃんはお姉さんタイプのしっかりもの！なのです…

佐土谷 昌良 (文化・教養部水産系)

部内で一番のお調子者。そやけど、ちょっと頼りない自分が情けない。もうちょい考えて行動せんといかんなあ。

◇ ◇ ◇

春のようにうらかな気分ではんわかほんわか、いやチャラチャラしていたSadyも、春が過ぎ、夏が過ぎ、そして人が物思いにふける秋になり、それまで一生懸命アタックしていたTちゃんのことをあきらめて、一度むけたかなあと思っていたのに…

スキーツアーに行き、罰当一週間？！

これじゃあ、あんた情けないよ。

せめてここで一つ、みんなにいいところ見せてやれ！！

◇ ◇ ◇

Sadyは楽しそうに走ります。実はスゴイ奴なのかも知れません。そう見えないのが良い所、と思うのは私だけかな？

塚脇 寛子 (部報、レシート・教養部理Ⅲ系)

Q. B君とS君に片思いをしています。

しかも、両方ライバルが多いのです。

どちらか片方に絞るべきなのでしょうか？

A. 今の段階でそんな事を考えるよりも、まず練習に来ることです。

頑張って、上手くなないと、両方共誰かに取られてしまいますよ。

—というわけで、今年は心を入れ換えて頑張ります。頑張るつもりです。多分。

さて、S君とB君とは誰でしょう？

◇ ◇ ◇

容姿、性格、趣味、女子校出身などの判断材料からは想像しにくいのですが、彼女は、一年目女子の大食い三人衆の立派な一員です。三人衆でどこかに食べに行つては、店の主人を驚かせ、一発で顔を覚えられてきます。ところが三人衆も、冬になってその勢いをなお持続させ、猛威を振るつつも、ほの少しだけ気にしだしたようです。でも心配は毒、今は思う存分食べなさい。毎日こつこつ食べれば、やがて血となり骨となると、テレビでよくやっているではないですか。

食べるほうも立派ですが、練習に対する姿勢も一生懸命です。あとは、毎朝しっかりと起きて、練習に来るようになると、その姿勢も報われるのだけだね。



“つかびょん”は、外乗や曳き馬に行っては 松ぼっくり、どんぐり、くるみ クワの実などをひろってきて、お菓子やジャムを作ってくれます。刺しゅうや、イラストなんかもとって上手くて馬術部にはもったないくらい女の子らしいのですが、あのラプンツェルのような長い髪をなびかせて駈歩をする姿はとても勇ましく、カッコイイのであります。そして彼女は俗に言う“大食い三人衆”(?)のひとりです。また一緒に南路屋で、ジャンボを食べようネ。

長谷川 崇 (馬具備品・教養部理I系)

前略 みなさま、いかがおすごでしょうか。風にさそわれて入った北大、そしてボロのにおいにさそわれて入った馬術部ですが、最近では以前に比べずっと楽しんでやっております。このような文章で私の事をわかっていただけるとは思っておりません。もしご希望でしたら直接本人までお申し出下さい。尚、その時の私の気分により多少対応のしかたが変わる事があるかもしれませんが、おゆるし下さい。では、みなさま、お体に気をつけて、くれぐれもお風邪などめしませんよう。

さようなら

平成3年2月10日

馬術部を通りすぎて行くあなたへ

長谷川崇



以前は二事、三事目にはすぐに喧嘩腰で喰ってかかって来る短気なおやじだったが最近では少し平常心を身につけたようで、そうなると彼への評価もかわってくる。一年目で一番、前向きで研究熱心な男。ホントさ。成長株ですぜ、こりゃ。



お酒はよく飲まれるようですね。結構つよいみたいです。酔うと、人生について語り出したりすることも多いみたいです。本人はあんまり覚えていないようですけど。

舟越 実和子 (副務・教養部文I系)

がんばれ

がんばれ

おまえは生きている

もっと大きな人間になって、もうちょっと気持ちに余裕を持ちたいなあ、と思っています。



文I系の女子というのは珍しい。さて、文I系の女子らしくなるのかとおもったらとんでもなかった。

やっぱり馬術部の女子になってしまった。普段はよく笑うが、コンパになるとよく泣いたりする。とても感情を表に出す子なのであろう。何はともあれ、がんばって飛び乗りだけはできるようになってほしい。あの木馬をこわしてしまうほど練習する努力、根性があるのだから。P、S はやくあの木馬を来年の1年目のために直しましょう。

◇ ◇ ◇

フナコは、なんとゆーか“いのしし”みたいな子です。真っすぐにドドッーっていきよーな一途な子だよ。この調子で、誰かさんの、につこんでいって見事射とめたのは周知の通り。馬といのししが相性いいかなんて知ったこっちゃねーが、今のようにつきすすんでいって、がんばってくれい。

三 浦 智 子 (部報、レシート・教養部理Ⅲ系)

強がりでもハッキリでもいいから、精一杯のギリギリの自分を見てみたい。この部報が出るころには少しは変わっているかなあ。

◇ ◇ ◇

よくしゃべり、よく笑い、よく食べる。明朗快活。人気者。かわいい。美人。etc. etc……
まあこんなもんでいいだろ。

◇ ◇ ◇

三浦は私に負けにくい多くのドジをやらかしますが、これまで会った中で1番か2番を争う程素直で温和な友人です。細かいことでもよく気がついて、私もへえっと感心することがありますが、なぜかやっぱりしっかり者とは思わせてくれないのでした。でも何事にも一生懸命な姿が印象的で、誰でも応援してしまいたくなるでしょう。「しっかり！三浦！」ってね。

八 木 聡 (飼料・教養部文Ⅲ系)

今年の俺はやります。

今年の俺は暴れます。

今年の俺は派手にいきます。

まあ見て下さい。

◇ ◇ ◇

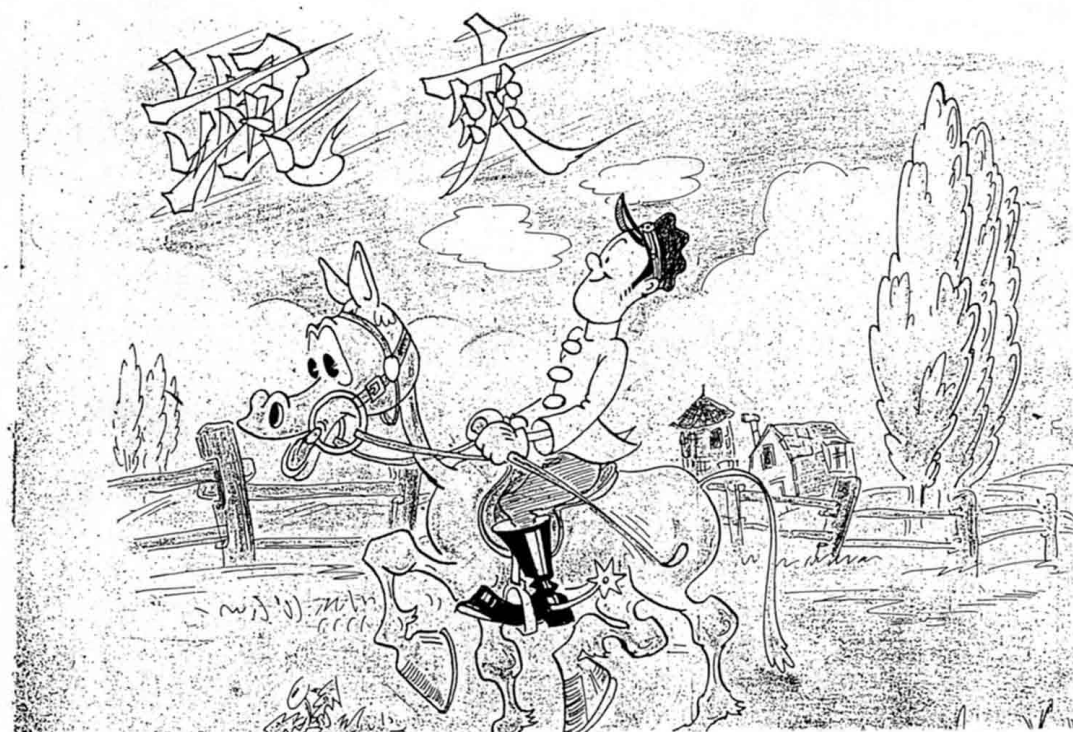
恒例の本部との対決で 1年目16人の命をすくったのは この八木君。

今の彼は、燃えています。年末年始もなく、修行にうちこむ。えらい！！

◇ ◇ ◇

真面目な顔で冗談を言い、笑いながら真面目な話をします。おバカな私にはどこまで本気でどこまで冗談なのかわかりかねます。でも、人の練習をととてもよくみていてアドバイスをしてくれたり、クラブに

対する態度や馬への思いやりは本当にすごくて、私はひそかに彼を尊敬していたりもするのです。
頑張れよ。でも、そう簡単にはパロンは渡さないからね。(笑)



よりよき生活と平和のために

北海道大学生生活協同組合

北区北8条西8丁目
TEL 746-6215

北大馬術部馬匹名簿

No.	馬名 旧名	姓	毛色 種	生年月日 産地	父母	入廐日 離廐日
001	瓔珞	騙	栗			S 18. S 19.
002	宮武		青 軽半			S 19. S 20.
003	北慥 ミストクシマ	牝	鹿 中半	S 20. 4. 5 浦河	ローライト 北進	S 29. 11. 1
004	北翠 エリザベス	牝	栗	S 23. 豊平		S 29. 11. 1
005	北潭 シラカワ	牝	鹿 中半	S 17. 5. 10 石狩町	昭山 第2白川	S 29. 11. 1 S 35.
006	北楡 ミスアプテール	牝	栗 アノ系	S 21. 浦河	勇進 小若井	S 29. 11. 1
007	金花 北斗	騙	鹿 中半	S 17. 6. 13 静内	森金 第2ジューラス	S 29. 11. 1 S 36. 11.
008	北嶺 ヨシタカ	牝	栗 中半	S 19. 5. 13 大樹	オンブラージュ 白梅	S 29. 11. 1
009	北春 林城	牝	鹿 中半	静内(北牧場)	ホシトロ 七三六	S 33. 4. S 36. 11.
010	北涼 第二グレース	牝	栗	S 27. 4. 21 河東郡	マンカツ 朗高	S 35. 2. S 42. 1. 19
011	北翔 水堂	牝	鹿 ア	S 30. 4. 20	遠汐 溢新	S 36. S 45. 2. 12
012	北颯	牝	青 サラ系	S 30. 5. 6 静内	キングライト 前山	S 36. 11. 14 S 42. 11. 14
013	北楊	牝	鹿 中半	S 28. 4.		S 42. 1. 19
014	朝清	騙	栗 中半	静内(北牧場)	芳嶺 七三六	S 42. 1. 19
015	北晨 ミストヨサカエ		栗 軽半	S 35. 4. 20 浦河	タカトシ ニュークラック	S 38. 10. 7 S 47. 9. 13
016	北瓔 ナグサ		鹿 中半	S 30. 4. 28 三石		S 37. 11. 29 S 47. 12. 12
017	北慧 長風	牡	栗 中半			
018	ジュピター					S 41. 5. S 41. 10. 26
019			鹿 ア・ア			S 41. 8. 27 S 47. 12. 11
020	北秀	牝	栗 中半	S 40. 6. 2 北大馬術部	北慧 北涼	S 42. S 52. 4.
021	北凜 ネルソン	騙	栗 サラ	S 39. 3. 20 早来	クリノハナ タカクイン	S 42. 9. 17 S 47. 10. 15
022	北雄 ヤマズミオウ					S 42. 7.

023	北力 チカラ	鹿 サラ	S 39.	3. 24		S 43. 8. 30 S 45. 7
024	北武	騙 鹿 トロ	S 40. 音更	4. 17	ビージェー コテンブル	S 51. 12
025	オキルソン					
026	雪嶺					S 45.
027	千里馬	牝 鹿 中半	S 41. 日高		シーザー	S 45. 12. 16 S 49. 4.
028	北勇	騙 鹿 トロ	S 36.			S 51. 9.
029	北隼 セントオール	牡 鹿 サラ	S 36. 伊達	4. 20	カルガドール ライジングマンナ	S 44. 10. S 52. 1. 31
030	疾風	騙 栗 ア・ア	S 45. 門別	5. 31	オーバーマイン ミストビハマ	S 47. 4. S 56. 10. 9
031	カムイ	騙 栗 サラ	S 44.	6. 17	ラーカスパー インズキー	S 47.
032	天龍山	騙 黒鹿 サラ	S 43. 浦河	3. 6	ネヴァービート サンキヒメ	S 47. 8 S 55. 7. 17
033	リヒト	牡 栗刺 サラ	S 36. 早来	6. 13	カルガドール トキチドリ	S 47.
034	スターライト	牝 鹿 ア・ア	S 41. 門別	4. 4	トモスベビー 銘乾	S 47. 9. 25 S 59. 12. 17
035	羊蹄	牝 鹿 ア・ア	S 44. 音更	3. 4	ハマテッソ 久亭	S 47. 10. 3(S 48?) S 55. 9. 28
036	北燕	騙 鹿 サラ	S 46. 鷓川	3. 14	マタドア リュウウエー	S 55. 3. 20
037	ドンホッパー	騙 黒鹿 中半	S 46. 早来	6. 30	オーシャチ ハゴロモ	S 49. S 63. 10. 29
038	北騮	騙 黒鹿 軽半	S 51. 北大馬術部	2. 23	ドンホッパー 羊蹄	S 51. 2. 23 S 60.
039	ハイエイム	牝 栗 ハンター	S 41. オーストラリア			S 53.
040	ダイバレード	牡 栗 サラ	S 39.	4. 16	ダイハード ミレット	S 54.
041	北楽院 マイキューピット	騙 鹿 サラ	S 47. 静内	4. 6	ミンシオ ジュラルディンツウ	S 51. 6. S 58. 12. 7
042	北稜 ローヤルタマナー	牡 栗 サラ	S 43.	5. 11	タマナー ミスクリシマ	S 51. 10. 18 S 52.
043	北美 メールエクスプレス	牝 栗 サラ	S 44. 静内	4. 10	スパニッシュエクスプレス ゴールデンメルド	S 51. 8. (S 53.?) S 58. 3. 22
044	北姫 ヤマニンミヨコ	牝 鹿 サラ	S 49. 静内	3. 27	アステック ヤマニンザザ	S 52. 7. 1 S 59. 11. 18
045	北将 シュバルブラン	騙 芦 サラ	S 49. 浦河	2. 14	フォルティノ マツノミドリ	S 52. 7. S 62. 5. 29

046	北皇子 ハーバーギャラン	騙	栗 サラ	S 51. 新冠	5. 12	アストラルグリーン ハーバーガール	S 54. 6. 23
047	北耀 ホースメンヒリュウ	騙	鹿 サラ	S 46. 浦河	3. 17	ヘンリーヒギンズ タマホマレ	S 54. 12. (S 55. ?) S 61. 8. 3
048	勇勝 ダイカツパール	騙	サラ				S 57. 7. 23 S 58. 11. 2
049	輝魂龍 キコンリュウ	騙	サラ			サンシー	S 57. 6. 17 S 58. 9. 20
050	スカイナーホース	騙	栗 サラ				S 59. 10. 9 S 59. 12. 8
051	烈烈風 カツルーキーオー	騙	栃栗 サラ	S 52. 静内	4. 26	ダンシングキャップ ルーキー	S 56. 7. 7 S 59. 10. 21
052	ゴージャスライフ	牝	鹿 サラ				S 59. 7. 6 S 59. 10. 10
053	オオカリヒメ	牝	芦 ア	S 44. 新冠	4. 27	ホシヒカリ ミズハザマ	S 58. 9. S 59. 9. 26
054	オーロラホマレ	騙	黒鹿 サラ				S 59. 4. S 59. 6. 21
055	ヤマニンチャンス	牡	栗 サラ				S 60. 11. 6
056	北雷 サンテスプリ	騙	芦 サラ	S 57. 新冠	5. 20	シルバーランド スピーケーション	S 60. 6. 1 S 61. 12. 7
057	北牙 エイトワンダー	騙	栗 サラ	S 53. 鶴川	4. 12	ハウシュウエイト アモーレタフ	S 58. 12. S 61. 8. 22
058	スーパーボーイ アグネススーパー	騙	鹿 サラ	S 57. 浦河	4. 1	アグネスプレス ナロウビン	S 60. 11. 6 S 62. 9. 6
059	北紫雲 アルファマリーナ	騙	鹿 サラ	S 53. 静内	4. 27	オーブフリーオン クイーンマリーナ	S 56. 6. S 62. 5. 29
060	ノエル スパークコルト	牝	芦 サラ	S 50. 浦河	4. 22	フォルティノ シンクイン	S 58. 3. 27 H 1. 9. 6
061	北銀 トカチヤマブキオー	騙	鹿 サラ	S 55. 新得	4. 28	ヤマブキオー ソーゴータカラ	S 58. 12.
062	北玲 クイーンクレメン	牝	鹿 サラ	S 56. えりも	4. 8	ノーザンアンサー クレメンタイン	S 59. 10. 10
063	北凜 ヤマニンスプリング	牝	芦 サラ	S 57. 浦河	4. 8	ゼダーン ヤマニンパベール	S 60. 11. 23
064	北駿 チヤフルガイ	騙	鹿 ア・ア	S 58. 三石	4. 3	トップホース ブルコワヒメ	S 61. 7. 22
065	北瑛 ニューギャロップ	騙	芦 サラ	S 55. 鶴川	4. 18	トレンタム ホクエイフブキ	S 61. 8. 13
066	ダービーパワフル	牡	鹿 サラ				S 61. 7. 22 S 61. 8.
067	リンドクラウン	牡	栗 サラ	S 58. 浦河	3. 30	サンプリンス セーヌ	S 62. 6. 10 S 62. 9. 21
068	北楡 ボットチャンプ	騙	栗 サラ	S 58. 門別	6. 16	グレートセイカン ミスボット	S 62. 7. 29 H 2. 9. 2
069	北熊 ヤマニンウィザード	騙	黒鹿 サラ	S 59. 新冠	4. 24	ノーアテンション ヤマニンアツコ	S 63. 6. 17

070	北峰 バトルサクシード	騙	鹿 サラ	S 60. 5. 3 十和田	カツラノハイセイコ サクラパワー	S 63. 7. 26 H 1. 4.
071	グレンエトワール グレンエトワール	牡	鹿 サラ	S 61. 3. 26 静内	サクラシンゲキ ホシローズ	H 1. 2. 16
072	パシオンM ダイエクスピー	騙	黒鹿 サラ	S 56. 4. 19 三石	アローエクスプレス スターブルー	H 1. 3. 2
073	明日檜 フロルアタロウ	騙	栗 ア・ア	S 52. 5. 23 平取	フロルア ギンチョウ	H 1. 3. 6
074	富勇	騙	鹿			H 1. 4. H 1. 9. 6
075	飛沫 ゴールデンパンサー	牡	栗 サラ	S 58. 4. 6 静内	ファバージ テイキリュウ	H 1. 8. H 2. 8. 7
076	ファストバロン ファストバロン	騙	鹿 サラ	S 61. 3. 8 浦河	スイフトスワロー インタープロッサム	H 2. 4. 7
077	北遥 ベストエンゼル	騙	鹿 サラ	S 62. 4. 17 浦河	ベストブラッド カワチカホ	H 2. 7. 27
078	ドラールボーイ	騙	栗 ア・ア	S 60. 4. 13 静内	フォーモサボーイ リニアホマレ	H 3. 6. H 3. 8. 11
079	アブサロム アブサロム	騙	黒鹿 サラ	S 60. 3. 27 早来	リアルシャダイ サワーオレンジ	H 3. 8.
067	クラウン リンドクラウン	牡	栗 サラ	S 58. 3. 30 浦河	サンプリンス セーヌ	H 3. 11. 10

今回、改訂版作成にあたりまして斎藤先生、陣川さんに情報をいただきました。また、和田さんの原稿中の馬名を参考にさせていただきました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。この名簿をさらに充実したものにするために、訂正、追加などございましたらご一報ください。



北海道大学生生活協同組合

文集、論文、文献、サークル誌、機関誌、新聞、学会抄録、学会講演集、記念誌、業績集、部・会報、テキスト、大会プログラム、はがき、名刺、コピー、製本等

活版/オフセット/タイプオフセット
写真印刷

北大印刷

札幌市北8条西8丁目 T(学内)2084.3282 直通(747)8886



馬という。

NORTHERN HORSE PARK

ノーザンホースパーク

Riding in Hokkaido

社台ファームは競走馬の世界において、日本一を誇っています。馬ひとすじに、懸命の努力を積みかさねてきたおかげだと思います。けれども、馬ひとすじというならば、馬術とも取り組まねばならぬと考えました。馬術を中心とした公園がノーザンホースパークです。いちど馬に乗ってみませんか。馬車に乗って夢を見てみませんか。

伝統を支えに

シャダイターキン、アンバーシャダイ、ダイナガリバー……。輝かしい名馬たちを生み出した「社台ファーム」。その伝統と実績を受け継いだ「ノーザンホースパーク」は、我が国唯一の“人と馬の自然公園”です。

パーフェクトな乗馬施設

●初心者から上級者まで本格的な乗馬練習ができるライディングエリア。●インストラクターの指導で気軽にレジャーライディングが楽しめるビギナーショートコース。●初心者と馬の調教のためのロンジングエリア。●夜間照明も完備され、雨や雪の心配がいないインドア乗馬場。●白樺やカラ松の林を抜ける2kmの外周乗馬コース。●ドレッシングエリア。●80頭収容可能な厩舎。

クラブハウスで「デリッシャス」

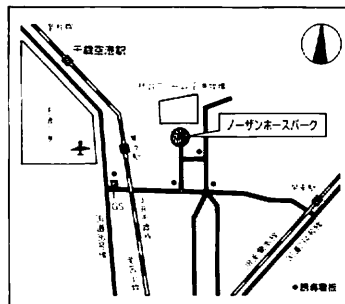
●8年連続リーディングサイアーに輝く社台ファームの名馬にちなんで名付けられたレストラン「ノーザンテースト」。新鮮な素材を目の前で調理するオープンキッチンが自慢。●澄みきった空気と緑がいっぱい。ドリンクメニューを豊富に揃えた屋外テラス。●ロビー、スーベニアショップ、サウナ、ジャワールーム、プライベートルームも完備。

自分が感動するために

●全天候型テニスコートが5面、どなたでも気軽にプレイできるミニテニス用のコートが2面、計7面を常設。●公園内を自由に走ることができるレンタル自転車も用意。●お好みの乗材をお好きなだけチョイスできる約300人収容可能なバーベキューハット。

ドラマの主人公のように

●公園内を一周する馬車コース。(2人乗り、10人乗り、2階建て20人乗り) ●夏には鮮やかな色彩のブッシュローズガーデン。●世界中のハーブが育てられているハーブガーデン。●馬たちが水を飲む湧き池。●思いっきり森林浴が楽しめる緑の楽園。



ノーザンホースパーク

〒059-13 北海道苫小牧市美沢114-7

開園時間

夏期間(4/29~10/31)9:00~21:00

冬期間(11/1~4/28)10:00~18:00

※夏期間は16:00以降の入場料金が無料となります。

※冬期間は終日入場料金が無料となります。

※12/31~1/1は閉園いたしますので、ご了承ください。

■千歳空港から無料バス(中央バス)で約10分。

ノーザンホースパーク・ライディングクラブ事務局

〒059-13 北海道苫小牧市美沢114-7 ノーザンホースパーク内

TEL.0144-58-2116~8

FAX.0144-58-2377

お申し込み
及び
お問い合わせ先

岩城弘侑法律事務所

弁護士 岩城 弘侑

事務所／札幌市中央区南1条西10丁目南大通ビルアネックス6階
☎241-0797・251-2470



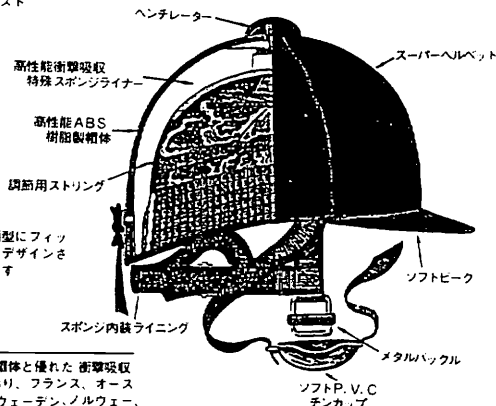
ウエンブレワールドキャップ

1987年「Spoga」(西独) 乗馬部門
「インターナショナル・ベスト
プロダクト金賞」受賞

Wembley
THE WORLD APPROVED SAFETY CAP

定価 ¥16,000

・日本人の頭型にフィットする様にデザインされています



「確かさの証明」

世界に駆ける…ウエンブレー

WEMBLEY WORLD CAP は高性能ABS樹脂製帽体と優れた衝撃吸収機能を持つ特殊スポンジライナーを使用しており、フランス、オーストラリア、アメリカ、イギリス、西ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、すべての安全基準テストに合格した、世界唯一のライディングキャップです。



国内総販売元

カバロ株式会社

- ☐カバロ神戸 神戸市中央区磯上通6丁目1-17 〒651
- ウエンブレビル1F TEL (078) 251-6620ht
- ☐カバロ大阪 大阪市北区梅田1丁目2番2-200号 〒530
- 大阪駅前第2ビル2F TEL (06) 344-0070
- ☐カバロ東京 東京都世田谷区上用賀2丁目3-1106 〒158
- パシフィック馬事公苑前 TEL (03) 425-8944



医 薬 品 卸
IBM コンピュータ販売



ホシ伊藤株式会社

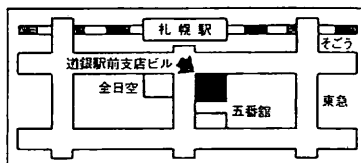
代表取締役社長 伊藤 太郎

本社 札幌市中央区南8条西14丁目3番15号
電話 大代表<011>561-6111

支店 札幌中央・札幌北・札幌西・札幌東・帯
広・釧路・北見・函館・函館東・旭川・
旭川南・空知・室蘭・苫小牧・岩見沢・
小樽・千歳・江別・伊達・八雲・網走・
遠紋・留萌・名士・根室・後志・日高・
稚内・東京

◎ 札幌駅前CONTACT

- 受付時間 10:00AM~6:00PM
- 定休日 日曜・祝日
- 学生割引あります。健康保険証をご持参ください。



〒060 札幌市中央区北4条西3丁目 道銀駅前支店ビル7F ☎ (011)222-2122

(社)日本ベストコントロール協会 (社)日本しろあり対策協会 会員

建築物ねずみこん虫等防除業 北海道知事登録

株式会社

北海道防疫サービス



ネズミ・害虫など有害生物の防除、殺菌消毒・除草の施工・管理請負

本社 札幌市北区新琴似6条11丁目9-20 苫小牧営業所 苫小牧市日新町1丁目2-13
札幌営業所 ☎ 001 ☎ (011)761-2658 ☎ 053 ☎ (0144)73--3970

北海道大学生協指定

札幌篠路自動車学校

札幌市北区篠路1条8丁目6番30号 TEL 771-2224(代)

●安全責任指導制

入校と同時に担当指導員が決まります。

●日曜、祝日も平常通り営業致しております。

北海道大学専用スクールバスが運行しています。



そば処
(うどん)

た き も と

北18条西5丁目

TEL 716-1381

有限
会社 **菅原写真商会**

パスポート写真
カメラ・カラープリント
3分間写真
各種証明写真

北22条西4丁目 ☎ 716-2662



北大病院前の旅館

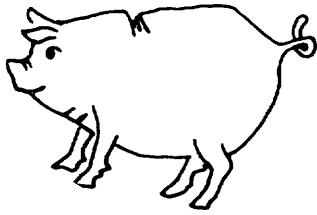
あけぼの旅館

札幌市北区北13条西4丁目

TEL(代) (001) 7 4 7 - 1 2 2 5

FAX(代) (001) 7 4 7 - 1 2 2 5

ボリューム満点



味のトン子

トン子

北区北18条西5丁目 ☎747-5809

Florist

葉花園



〒001 札幌市北区北18条西4丁目

TEL **737-6241**

夜間 (011) 737-6724

四季おりおりの花を
美しいデザインで
お届けいたします。

慶弔用花籠・二段スタンド
ノーブル・アレンジメント
花束・ブーケ・コサージュ
手造りのアートフラワー
花材一式etc

学生さんにはネタもシャリもジャンボ
とにかくジャンボ ネタンは同じ

舌鼓 鮨の正本

コンパは30名様までと40名様まで 11:30~12:00 30

北16西4北向 ☎746-4231

美容室 *objet*

—— 北18条店 ——

北区北17条西3丁目 ☎757-1166

パーマ受付/AM.10:00~PM.7:00

定休日/水曜日

カラオケキャビン

ビッグエコー

北大前店

★「3時間放題唄い放題 ¥1,980」〈平日正午から7時まで〉

★無料立体駐車場有り(1F)

■料金表

営業時間 PM12:00～AM2:00

北区北18条西4丁目ホシ18条ビル

(札幌會館北向い)

2F
3F

昼間料金(1時間)	2,000～3,000円
夜間料金(1時間)	3,000～5,000円

予約ダイヤル

(011) 746-1588

コンパ予約受付中
ボリューム満点!
コンパ200人OK!

当店誕生日、御利用の方には
カラー写真・シャンペン・粗
品を差し上げます。



焼鳥 ■ 居酒屋

きよた

札幌市北区北17条西5丁目北向き

TEL 747-7000

お客様とのふれあいを大切に...!
食卓に豊かさと話題をおとどけ
します。

LIQUOR&FOODS

k
北22条 よこやま

■営業時間■ あさ10:00～よる1:00

北22条西5丁目 ☎716-3593 年内無休

SOMÈS

HORSE RIDING EQUIPMENT MANUFACTURE

皮革総合メーカー

競馬、乗馬用品、バック、サイフ、小物、ベルト

ソメスサドル 株式会社

- 本社 / 〒073-03 北海道歌志内市神威264
☎ (012542)代2152 FAX (012542) 6716
- 東京営業所 / 〒111 東京都台東区浅草橋5-12-6明治堂ビル
☎ (03)代366-2131 FAX (03) 363-4652

東急薬局

札幌市中央区北4条西2丁目
さっぽろ東急百貨店1階
電話(011)212-2447番

8円 コピー サロン

北区北17条西5丁目 ☎716-6410

(番籍・原稿・預かりコピー致します。)

内外産エンバク販売

株式会社

大谷哲也商店

大谷哲也

札幌市中央区南一条西二十八丁目

電話代表 (011)611-2531番

医薬品、動物用医薬品、資生堂化粧品

保善堂薬品

004 札幌市豊平区里塚4番57

TEL 884-5881

FAX 884-5887



1F

自由人舎時館

N16W 4 ☎726-0158

たまりBAR 2F

時館倶楽部

N16W 4 ☎758-7660

- 各ストーブメーカー
 - 家庭用品
 - プラスチック用品
 - カーペット
 - ファンシーグッズ
 - 厨房用品
- 各種とりそろえてあります。

株式会社 **平田金物店**

札幌市北区北18条西4丁目

TEL 716-7536

747-7616

〈広告主へ感謝のことば〉

このたび、平成2年度北大馬術部部報発行に際し絶大なる御援助をいただきました諸社・諸店に対し、厚く御礼申し上げるとともに諸社・諸店の御繁栄を礼り、ここに深く感謝致します。

(北大馬術部)

編 集 後 記

部報を楽しみにして下さっているOBの方々から矢の催促を受けながらも、結局発行予定日より大幅に遅れた発行となってしまいました。関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけしてしまい、誠に申し訳無く思っております。

今回の部報では、S22年卒の和田さんに特集記事を執筆していただきました。戦前から戦後にかけての北大馬術部の貴重な記録を掲載できましたことを嬉しく思います。また、貴重なアルバムをお借しただき、本文中にそのイラストを使用させていただきましたので、そちらのほうも楽しんでいただけたと思います。昨年度の部報に掲載した馬匹名簿も訂正、追加して再掲載致しました。さらにお気づきの点などございましたら、どんな小さなことでも結構ですので、ご一報下さいますようお願い致します。

なお、経費節減のため全ページワープロ化しております。誤字脱字には細心の注意を払ったつもりですが、目の届かなかった部分もあるかと思えます。ご了承下さい。

最後になりましたが、斎藤先生、岡田監督、和田さん、陣川さん、加藤さんをはじめとする原稿や情報をお寄せ下さった方々、また、広告主の方々、そして編集に協力して下さいました皆さんに心より厚く御礼申し上げます。

編集責任者 三浦智子 塚脇寛子

音匠 幸辰 第36号

平成4年7月 発行

発行者 北海道大学馬術部

札幌市北区北17条西7丁目

北大体育会内

TEL(011)716-2111(内線5597)

TEL(011)737-1626(直通)

編集者 部報編集委員

印刷所 北大生協 北大印刷

表紙 塚脇寛子

